

【行動文化学】

講義コード	科目名		単位	開講期	曜時限	担当者	備考	シラバス連番
	専修・科目	講義形態						
7131001	心理学	特殊講義	2	前期	集中	白井 述		行動文化学系1
7131005	心理学	特殊講義	2	前期	水4	阿部 修士		行動文化学系2
M341001	心理学	特殊講義	2	後期	水3	森口 佑介		行動文化学系3
M341002	心理学	特殊講義	2	前期	水3	蘆田 宏		行動文化学系4
M341003	心理学	特殊講義	2	後期	火4	齋木 潤		行動文化学系5
M341004	心理学	特殊講義	2	前期	月2	水原 啓暁,熊田 孝恒		行動文化学系6
M341005	心理学	特殊講義	2	前期	木1	野村,楠見,マナロ,齊藤,高橋		行動文化学系7
M341006	心理学	特殊講義	2	前期	水2	黒島 妃香		行動文化学系8
M342001	心理学	演習	4	通年	火3	蘆田,阿部,森口,黒島,Wilson		行動文化学系9
7231001	言語学	特殊講義	2	前期	月4	千田 俊太郎		行動文化学系10
7231003	言語学	特殊講義	2	前期	水3	CATT, Adam Alvah		行動文化学系11
7231004	言語学	特殊講義	2	前期	月4	大竹 昌巳		行動文化学系12
7231005	言語学	特殊講義	2	後期	金2	野原 将揮		行動文化学系13
7231006	言語学	特殊講義	2	前期	水4	谷口 一美		行動文化学系14
7231007	言語学	特殊講義	2	後期	水4	谷口 一美		行動文化学系15
7231008	言語学	特殊講義	2	後期	月4	大竹 昌巳		行動文化学系16
7231009	言語学	特殊講義	2	前期	水3	山本 武史		行動文化学系17
7231010	言語学	特殊講義	2	前期	金1	宮本 陽一		行動文化学系18
7231011	言語学	特殊講義	2	前期	集中	松岡 和美, 前川和美		行動文化学系19
7231016	言語学	特殊講義	2	後期	月4	千田 俊太郎		行動文化学系20
7231017	言語学	特殊講義	2	後期	水3	CATT, Adam Alvah		行動文化学系21
7231018	言語学	特殊講義	2	前期	水5	松本 亮		行動文化学系22
7231019	言語学	特殊講義	2	後期	火4	萩原 裕敏		行動文化学系23
7241001	言語学	演習	2	後期	木3	笹間 史子		行動文化学系24
7241002	言語学	演習	2	前期	木2	パリハワダナ ルチラ	日本語教育セミナー	行動文化学系25
7241003	言語学	演習	2	前期	金3	千田,CATT,定延,大竹		行動文化学系26
7241004	言語学	演習	2	後期	金3	千田,CATT,定延,大竹		行動文化学系27
7241011	言語学	演習	2	前期	金3	堀口 大樹		行動文化学系28
7241012	言語学	演習	2	後期	金3	堀口 大樹		行動文化学系29
M352001	言語学	演習	4	通年	金4,金5	千田,CATT,定延,大竹		行動文化学系30
9612001	言語学	語学	2	前期	火3	河崎 靖	大学院共通科目	行動文化学系31
9613001	言語学	語学	2	後期	火3	河崎 靖	大学院共通科目	行動文化学系32
9620001	言語学	語学	4	通年	金1	森 若葉	大学院共通科目	行動文化学系33
9624001	言語学	語学	2	前期	火3	井戸根 綾子	大学院共通科目	行動文化学系34
9625001	言語学	語学	2	後期	火3	井戸根 綾子	大学院共通科目	行動文化学系35
7331001	社会学	特殊講義	2	前期	月2	太郎丸 博,丸山 里美		行動文化学系36
7331003	社会学	特殊講義	2	前期	火2	Stephane Heim	大学院共通科目	行動文化学系37
7331004	社会学	特殊講義	2	後期	火3	田中 紀行	独書講読	行動文化学系38
7331005	社会学	特殊講義	2	前期	金2	奥村 隆		行動文化学系39
7331006	社会学	特殊講義	2	後期	金2	奥村 隆		行動文化学系40
7331008	社会学	特殊講義	2	後期	水3	金澤 悠介		行動文化学系41
7331009	社会学	特殊講義	2	後期	火2	牟田 和恵		行動文化学系42
7331012	社会学	特殊講義	2	前期	月1	伊達 平和		行動文化学系43
7331013	社会学	特殊講義	2	後期	金3	岡邊 健		行動文化学系44
7331014	社会学	特殊講義	2	前期	月3	佐藤 卓己		行動文化学系45
7331015	社会学	特殊講義	2	前期	金5	吉田 純		行動文化学系46
7331017	社会学	特殊講義	2	後期	金4	佐藤 哲彦		行動文化学系47
7331018	社会学	特殊講義	2	前期	木2	溝口 佑爾		行動文化学系48
7331024	社会学	特殊講義	2	前期	木2	柴田 悠		行動文化学系49
7331025	社会学	特殊講義	2	後期	月4	落合 恵美子		行動文化学系50
7331026	社会学	特殊講義	2	前期	水3	安里 和晃		行動文化学系51
7331027	社会学	特殊講義	2	後期	金2	安里 和晃		行動文化学系52
7331030	社会学	特殊講義	2	前期	金2	安里 和晃		行動文化学系53
7331031	社会学	特殊講義	2	前期	火3	田中 紀行	独書講読	行動文化学系54
7331032	社会学	特殊講義	2	後期	木2	直野 章子		行動文化学系55
7331033	社会学	特殊講義	2	前期	水5	竹沢 泰子		行動文化学系56
7331034	社会学	特殊講義	2	前期	集中	上野 加代子		行動文化学系57

講義コード	科目名		単位	開講期	曜時限	担当者	備考	シラバス連番
	専修・科目	講義形態						
7334001	社会学	特殊講義	3	前期	月4	落合 恵美子,Stephane Heim		行動文化学系58
M361001	社会学	特殊講義	2	前期	金2	丸山 里美		行動文化学系59
M361002	社会学	特殊講義	2	通年	集中	落合 恵美子,安里 和晃,Stephane Heim		行動文化学系60
M361003	社会学	特殊講義	2	通年	月3	丸山 里美		行動文化学系61
M361004	社会学	特殊講義	2	通年	水4	太郎丸 博		行動文化学系62
M361005	社会学	特殊講義	2	前期	水3	秋津 元輝		行動文化学系63
M361006	社会学	特殊講義	2	後期	水3	秋津 元輝		行動文化学系64
M361007	社会学	特殊講義	2	前期	水2	竹内 里欧		行動文化学系65
M361008	社会学	特殊講義	2	前期	金1	速水 洋子		行動文化学系66
M361009	社会学	特殊講義	2	前期	火4	吉田 純		行動文化学系67
M361010	社会学	特殊講義	2	後期	木2	柴田 悠		行動文化学系68
M362001	社会学	演習	4	通年	月5	丸山 里美		行動文化学系69
M362002	社会学	演習	4	通年	金5	落合 恵美子		行動文化学系70
M362003	社会学	演習	4	通年	金4	太郎丸 博		行動文化学系71
M362005	社会学	演習	4	通年	火2	田中 紀行		行動文化学系72
7431001	地理学	特殊講義	2	前期	水2	水野 一晴		行動文化学系73
7431002	地理学	特殊講義	2	後期	水2	水野 一晴		行動文化学系74
7431003	地理学	特殊講義	2	前期	火2	米家 泰作		行動文化学系75
7431004	地理学	特殊講義	2	後期	火2	米家 泰作		行動文化学系76
7431005	地理学	特殊講義	2	前期	火3	小方 登		行動文化学系77
7431006	地理学	特殊講義	2	前期	月2	小島 泰雄		行動文化学系78
7431007	地理学	特殊講義	2	前期	金3	山村 亜希		行動文化学系79
7431008	地理学	特殊講義	2	前期	集中	松四 雄騎	教職科目「自然地理学」	行動文化学系80
7431009	地理学	特殊講義	2	前期	集中	中澤 高志		行動文化学系81
7431010	地理学	特殊講義	2	前期	木4	西村 雄一郎		行動文化学系82
7431011	地理学	特殊講義	2	後期	月2	西村 雄一郎		行動文化学系83
7431012	地理学	特殊講義	2	前期	集中	藤岡 悠一郎		行動文化学系84
7431013	地理学	特殊講義	2	前期	火1	神田 孝治		行動文化学系85
7431014	地理学	特殊講義	2	後期	火1	神田 孝治		行動文化学系86
7431015	地理学	特殊講義	2	前期	金1	小坂 康之		行動文化学系87
7431016	地理学	特殊講義	2	前期	金2	大山 修一		行動文化学系88
7431017	地理学	特殊講義	2	後期	月5	杉浦 和子		行動文化学系89
7441001	地理学	演習	2	後期	金3	山村 亜希	地理学演習(歴史地理学)	行動文化学系90
M372001	地理学	演習	4	通年	水5	杉浦 和子,水野 一晴,米家 泰作		行動文化学系91
M373001	地理学	演習	2	後期	月2	小島 泰雄	地理学演習(中国農村)	行動文化学系92

行動文化学系1

科目ナンバリング		G-LET28 67131 LJ46									
授業科目名 <英訳>		心理学(特殊講義) Psychology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 白井 述			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		視覚発達研究概論									
【授業の概要・目的】											
<p>例えば、多くの人にとって目をつぶったままで一日を過ごすことは、耳を塞ぎながら一日過ごすことよりも困難であるに違いない。こうした例を引き合いに出すまでもなく、視覚はヒトにとって最も重要な心的機能のひとつである。本講義では、そうした視覚の諸機能がどのように発達していくのか、特にヒトの乳児期の発達に焦点を当てながら、心理学や神経科学を中心とした諸分野にまたがる科学的知見を紹介する。その上で、履修者との議論も交えながら、視覚発達研究の今後の展望や取り組むべき課題について提示したい。</p>											
【到達目標】											
<p>視覚の諸機能の発達に関連する科学的知見を理解し、その理解に基づいて、視覚の、ひいては心的機能の発達について自分自身の言葉によって考察し、論ずることができるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下の授業計画によって講義を進めていく。ただし毎回の講義後に聴講者からのコメントを回収し、その内容に基づいて講義の内容や順番を調整することがある。</p>											
<p>第1回 ガイダンス・歴史的背景          第2回 視覚発達研究の手法1（行動実験）          第3回 視覚発達研究の手法2（脳活動の測定、その他）          第4回 基本的な視機能の発達          第5回 乳児の環境世界（動きの知覚）          第6回 乳児の環境世界（形や奥行き知覚）          第7回 乳児の環境世界（色の知覚）          第8回 乳児の環境世界（身体性との関わり）          第9回 ここまでの振り返りと質疑応答          第10回 乳児から見た他者・社会（顔の知覚）          第11回 乳児から見た他者・社会（他者の知覚）          第12回 乳児から見た他者・社会（社会的認知）          第13回 視覚発達研究のこれから（乳児期以降の発達を踏まえて）          第14回 視覚発達研究のこれから（方法論的・理論的課題）          第15回 全体のまとめと質疑応答</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 心理学(特殊講義) (2)へ続く -----											

心理学(特殊講義) (2)

**[成績評価の方法・観点]**

すべての授業回終了後にレポートを課し、その内容によって評価する。

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

特になし。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系2

科目ナンバリング		G-LET28 67131 LJ46									
授業科目名 <英訳>		心理学(特殊講義) Psychology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		こころの未来研究センター 准教授 阿部 修士			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		心理学(特殊講義)									
【授業の概要・目的】											
<p>本講義では、心理過程と生理学的な活動との対応関係を探る研究分野における、主要な方法論 - 具体的には、神経心理学や脳機能イメージングといった認知神経科学的手法 - を解説する。研究手法についての理解を深めた後に、前頭葉機能・記憶・情動・意思決定など、主に社会神経科学 (Social Neuroscience) における知見を中心に概説する。これまでに得られている基礎的な知見に加え、発展的・建設的な思考能力を身につけることで、受講者がそれぞれの研究に活かせるようにすることを目的とする。</p> <p>また本講義では、英語によるTED talksも活用する。第一線の研究者による英語のプレゼンテーションを視聴することで、研究を俯瞰的にとらえると共に、研究を行う上で必要なスキルを意識する機会を提供する。</p>											
【到達目標】											
<p>認知神経科学・社会神経科学の基礎を身につけ、自身の研究に活かせるようにする。          認知神経科学・社会神経科学の研究における発展的・建設的な思考能力を習得する。</p>											
【授業計画と内容】											
初回にオリエンテーションを行う。2週目以降は以下のような内容について授業を行う予定である。											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 認知神経科学の研究手法：神経心理学による研究</li> <li>3. 認知神経科学の研究手法：fMRI</li> <li>4. 認知神経科学の研究手法：その他の脳機能の測定手法</li> <li>5. 前頭葉機能：下位領域の区分</li> <li>6. 前頭葉機能：機能の評価とこれまでの知見</li> <li>7. 記憶の神経機構</li> <li>8. 未来を展望する脳</li> <li>9. 情動の神経基盤</li> <li>10. 報酬と意思決定</li> <li>11. 選好判断のメカニズム</li> <li>12. 道徳的判断のメカニズム</li> <li>13. 文化神経科学</li> <li>14. 発達社会神経科学</li> <li>15. 講義全体のまとめ及びフィードバック</li> </ol>											
<p>なお各講義の終盤には、取り扱うトピックに関連する英語のTED talks (<a href="http://www.ted.com/talks">http://www.ted.com/talks</a>) を教材として用いる。TED talksでは世界的に著名な研究者による優れた講演が行われており、最新の研究成果・現在のトレンド・英語によるプレゼンテーションの方法など、研究を行うために必要な</p>											
----- 心理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 心理学(特殊講義)(2)

多くの知識とスキルを学ぶ貴重な機会を提供するものである。

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

#### 【評価方法】

平常点評価（50％）及びレポート（50％）。  
4回以上欠席した場合には単位を認めない。

### 【教科書】

必要に応じて資料を配布する。

### 【参考書等】

（参考書）  
授業中に紹介する

### 【授業外学修（予習・復習）等】

初回のオリエンテーション時に、教材として使用するTED talk（<http://www.ted.com/talks>）についての紹介を行う。予習は必須ではないが、繰り返し視聴することによって、理解を深めること。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系3

科目ナンバリング		G-LET28 6M341 LJ46									
授業科目名 <英訳>		心理学(特殊講義) Psychology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 森口 佑介			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		発達認知神経科学論									
[授業の概要・目的]											
本授業では、認知発達とその生物学的基盤を、発達心理学、認知神経科学、生理心理学、計算論的モデルなどの知見を参照しながら理解することを目的とする。本年は主観的経験とその個体発生プロセスに焦点をあてる。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 認知発達とその生物学的基盤を理解する</li> <li>・ 主観的経験とその個体発生プロセスを理解する</li> </ul>											
[授業計画と内容]											
1 イントロダクション 2 ~ 4 認知発達理論の復習 5 ~ 8 主観的経験に関する理論 9 ~ 14 主観的経験の発生に関する最新知見 15 まとめ											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
<b>【評価方法】</b> 発表を割り当てるので、その発表（80点）および平常点(20点) <b>【評価基準】</b> 到達目標について、文学部・文学研究科の成績評価基準に従って評価する。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
<b>【予習】</b> 参考書程度の知識は授業前に身につけておく <b>【復習】</b> 授業の課題論文について、復習する （わからない部分があれば、教員に積極的に質問に来てください）											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

行動文化学系4

科目ナンバリング		G-LET28 6M341 LJ46									
授業科目名 <英訳>		心理学(特殊講義) Psychology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 蘆田 宏			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		視覚科学特論									
【授業の概要・目的】											
視覚に関する心理物理学・神経科学的研究について議論する。視覚科学の理論的基礎と方法論を習得するとともに、知見や方法をそれぞれの研究に活かせるようにすることを目的とする。前半は視覚科学の基礎に関する講義を行い、後半は参加者に最近の論文を読んで報告することを求める。											
【到達目標】											
視覚科学に関して、最新の研究について理解し、自らの研究を実践するための基礎となる高度な知識と批判的議論の能力を獲得する。											
【授業計画と内容】											
前半では、下記のテーマについて、それぞれ1-2週ずつ講義を行う。 1 イントロダクション 2 視覚刺激と信号 3 受容野とたたみこみ 4 初期視覚処理のモデル 5 視覚実験刺激の基礎 6 MRIの基礎 7 fMRIと分析手法 後半、-14週は、参加者それぞれが最近の論文を読んで報告し、全員で議論を行う。参加者の数によって前半の講義の内容と週数を調整する場合がある。 15 フィードバック											
【履修要件】											
学部で実験心理学または周辺領域（神経科学など）の基礎を学んでいること 議論に参加できる日本語能力を持つこと											
【成績評価の方法・観点】											
平常点評価（発表と議論への参加）											
----- 心理学(特殊講義)(2)へ続く -----											



心理学(特殊講義)(2)

**[教科書]**

授業中に指示する

**[参考書等]**

(参考書)

授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

前半は授業中に指示する。

後半は各自が論文を選んで内容を報告する。読むべき論文は前週までに報告し、他の参加者は予め概要を読んでおくことが望ましい。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーは固定しない。まずメール等で相談する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系5

科目ナンバリング		G-LET28 6M341 LJ46									
授業科目名 <英訳>		心理学(特殊講義) Psychology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 齋木 潤			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		視覚認識論									
【授業の概要・目的】											
視覚による外界の認識の過程、特に視覚認識における注意や短期記憶の機能に焦点を当て、その研究方法論と最新の知見を解説する。行動実験を用いた研究、脳波測定研究などを取り上げる。心的現象を科学的に探求するための方法論を学ぶことにより視覚的注意に関する研究のみならず、広く視覚科学、認知科学的研究に応用できる知識を身につけることを目指す。											
【到達目標】											
正答率や反応時間を主たる指標とする行動実験のデータ解析に必要な基本的スキルを身に付ける。単に手法を学ぶのではなく、その理論的背景を理解する。											
【授業計画と内容】											
以下の予定で講義を行う。各テーマ2週程度の授業を行う。講義の進捗により若干の内容の変更がありうる。											
<ul style="list-style-type: none"> <li>1 - 2回．心理物理学的測定法</li> <li>3 - 4回．信号検出理論の基礎</li> <li>5 - 6回．信号検出理論の発展：強制選択と視覚探索</li> <li>7 - 8回．信号検出理論の発展：有限状態モデルと視覚記憶</li> <li>9 - 10回．信号検出理論の発展：弁別・同定課題と物体認識</li> <li>11 - 12回．反応時間解析</li> <li>13回．脳波測定とその解析</li> <li>14回．授業内試験（問題演習）</li> <li>15回．フィードバック</li> </ul>											
【履修要件】											
心理学、認知科学の基礎的な知識があるとよいが必須ではない。											
【成績評価の方法・観点】											
最終回の授業に筆記試験を行う											
【教科書】											
教科書は用いない。											
【参考書等】											
（参考書） なし。											
【授業外学修（予習・復習）等】											
自分自身の実験データなどで使ってみる。実験を計画する際に解析手法まで考える。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

行動文化学系6

科目ナンバリング		G-LET28 6M341 LJ46									
授業科目名 <英訳>		心理学(特殊講義) Psychology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		情報学研究科 教授 情報学研究科 講師		熊田 孝恒 水原 啓暁	
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		認知科学基礎論									
【授業の概要・目的】											
視覚認知、注意、記憶、実行機能、コミュニケーションなどを中心に人間の認知機能に関わる概念、及び、その脳内メカニズムを解説する。また、認知機能を理解するための心理学的手法、認知機能と脳との関係を明らかにするための機能的脳画像解析手法などについても詳細に解説する。さらには、社会への適用に関するトピックスも取り上げる。											
【到達目標】											
人間の認知過程を理解するのに必要な認知科学の基礎知識を得ることができる。また、心理学実験や脳計測実験の実例を通して、基礎的な知見がどのように得られたかを理解できるようになる。さらには、情報学などの関連領域との関係、ならびに、基礎的な知見がどのように日常生活における認知的な問題と関係しているかについても理解を広げることができる。											
【授業計画と内容】											
第1回 イントロダクション:この講義のねらい 第2回 脳の基礎知識 第3回 脳計測の基礎知識 第4回 視覚の基礎 第5回 形・運動・色 第6回 感覚情報の統合 第7回 実世界の知覚 第8回 視覚とメディア技術 第9回 注意と意識 第10回 短期記憶と長期記憶 第11回 言語・非言語コミュニケーション 第12回 行動制御と実行機能 第13回 前頭葉機能 第14回 認知的インタフェース 第15回 フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
毎回、講義中に行う理解度を問う小テストにより評価する。小テストは通常のテストと同等に扱う。小テストは各講義の最後を実施するとは限らないので注意すること。フィードバックを除く各回を10点満点で採点し、合計点を合計100点満点に換算する(小数点以下切り上げ)。したがって、6割以上の回で小テストを受けていない場合には、たとえ受けた回の全てが満点であったとしても合格点には達しないので注意すること。また、出席回数等の問い合わせには一切応じられないので、											
----- 心理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

心理学(特殊講義)(2)

自ら出席回数等を把握しておくこと。

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

授業中に予習・復習が必要な項目を指示する。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系7

科目ナンバリング		G-LET28 6M341 LJ46									
授業科目名 <英訳>		心理学(特殊講義) Psychology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		教育学研究科 准教授 野村 理朗 教育学研究科 教授 楠見 孝 教育学研究科 教授 Emmanuel MANALO 教育学研究科 教授 齊藤 智 教育学研究科 准教授 高橋 雄介			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		認知デザイン特論									
【授業の概要・目的】											
<p>デザインという人間の営みを、脳・心・行動の3つの水準で捉える認知心理学の理論から、総合的に考察することがこの授業の目的である。まず、脳・心・行動そのものがそれぞれどのようにデザインされているのかを知ることが重要である。次に、脳・心・行動のもつ制約と、その制約を逆手に取った豊かな認知的活動との関連を考察する。さらに、豊かなデザインを生み出す能力を高めるために、脳・心・行動を発達させ、活性化させるためのさまざまな環境要因について考察する。最後に、行動のどのようなはたらきがどのような豊かなデザインを生み出しているのかについての関連性を、エラー防止、文芸、教育などの事例を取り上げて考察する。</p>											
【到達目標】											
<p>認知心理学の理論を基盤として、脳・心・行動そのものがどうデザインされているのかを知り、それらと認知活動との関連、および豊かなデザインを生み出す能力を高めるための環境要因について考察できるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス：認知心理学の系譜</li> <li>2. 認知の制約とデザイン：行動の制約</li> <li>3. 記憶の制約</li> <li>4. ブレイン・サイエンス：脳のデザイン</li> <li>5. 遺伝子の機能:行動のデザイン</li> <li>6. Design of visual information</li> <li>7. Designing failure for success</li> <li>8. 遺伝と環境の影響による個人差のデザイン：基礎編</li> <li>9. 遺伝と環境の影響による個人差のデザイン：事例編</li> <li>10. 言語芸術のデザイン</li> <li>11. メディア・学習環境のデザイン</li> <li>12. Designing assessment for learning</li> <li>13. パーソナリティ発達のデザイン</li> <li>14. 認知トレーニングのデザイン</li> <li>15. 試験</li> <li>16. フィードバック *フィードバック方法は別途連絡する</li> </ol>											
* 授業の順序は変更することがある。その場合は、事前に通知をする。											
----- 心理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

心理学(特殊講義)(2)

**【履修要件】**

特になし

**【成績評価の方法・観点】**

定期試験による評価を行う。  
到達目標について、教育学研究科の成績評価の方針に従って評価する。

**【教科書】**

使用しない

**【参考書等】**

(参考書)

子安増生・楠見孝・齊藤智・野村理朗(編)『教育認知心理学の展望』(ナカニシヤ出版)(  
その他は授業中に紹介する)

**【授業外学修(予習・復習)等】**

授業中に紹介する参考図書・論文, 配付資料を活用して各回の要点を復習する

**(その他(オフィスアワー等))**

授業責任者連絡先 E-mailアドレス nomura.michio.8u@kyoto-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系8

科目ナンバリング		G-LET28 6M341 LJ46									
授業科目名 <英訳>		心理学(特殊講義) Psychology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 黒島 妃香			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		比較認知特論									
[授業の概要・目的]											
この講義の目的は、ヒトを含む多様な動物の認知能力に関する最先端の研究を学び、比較認知科学的観点から心の進化を考察することにある。											
[到達目標]											
比較認知科学では、対象とする動物種に応じた適切な実験手続きが求められる。最先端の研究を通して、多様な実験手法について学ぶとともに、実験から得られた結果をどのように位置づけ、比較し、考察するかについて習得する。また、実証的研究を通して心の進化について考察する。主に、意識、内省、感情に関連する内容を扱う。											
[授業計画と内容]											
第1回 オリエンテーション 第2回～第14回 講師から2回ないし3回にわたり、ヒトやヒト以外の動物を対象とした認知に関連する研究を紹介し、基礎的知識を養ってもらう。続く回では、各受講者に講義で扱ったトピックに関連する最新の研究論文を紹介してもらい、受講者全員で研究法、考察に関する具体的な議論を行う。講義は基本3回ないし4回で1トピックの割合で進める。 第15回 心の進化に関する議題に対して各受講者に意見を発表してもらい、全員で議論する。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
毎回の討論内容（30％）及び、発表担当回での発表と討論（40％）、最終回での討論（30％）により評価する。											
[教科書]											
特に用いない。必要な資料は準備する。											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
毎回トピックに関連した文献を調べ、議論に積極的に参加すること。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

行動文化学系9

科目ナンバリング		G-LET28 7M342 SJ46									
授業科目名 <英訳>		心理学(演習) Psychology (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 蘆田 宏 こころの未来研究センター 准教授 阿部 修士 文学研究科 准教授 森口 佑介 文学研究科 准教授 黒島 妃香 文学研究科 講師 Duncan Wilson			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	火3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語及び英語
題目		現代心理学の諸問題									
【授業の概要・目的】											
受講者のオリジナル研究に基づく研究発表と、それを題材とした討論をおこなう。これにより、研究発表技術の向上、討論力の向上を図るとともに、多様な視点からの議論を通して、研究の洗練と展望を支援する。											
【到達目標】											
自らがオリジナルの研究を発表・討論することで、発表技術および討論の能力を身に付け、研究者としての基本的能力を養う。											
【授業計画と内容】											
各人の研究テーマとその進捗状況について発表し、発表内容及びそれに関連した内容について、博士後期課程の大学院生も含め、全員で討論する。前期後期、1回ずつの研究発表を課す。希望者は英語による発表を認める。後期には博士後期の学生に英語による発表を課す。発表者はレジュメを配布する。コンピュータを使用したプレゼンテーションが推奨される。出席者には積極的な討論への参加が求められる。具体的には以下の通りを行う。											
1週：オリエンテーション、授業の進め方に関する説明											
2週～29週：学生の発表、発表に関する全体討論											
30週：総括											
【履修要件】											
原則として、心理学専修所属の大学院生であること											
【成績評価の方法・観点】											
平常点による											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
(参考書) 必要に応じて指示する											
【授業外学修(予習・復習)等】											
発表の事前準備をしっかりと行うこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
特になし											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											



行動文化学系10

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 千田 俊太郎			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		エスペラントと言語学									
【授業の概要・目的】											
この講義では、エスペラントの実態を示すとともに、ザメンホフの創案以降のエスペラントの歴史を辿り、言語の理解について計画言語論の提起した問題とその言語研究史上の意義について考察を深める。前期は主にエスペラントの実態と歴史に焦点をあてる。											
【到達目標】											
この講義の到達目標は、エスペラントの実態を把握するとともに、ザメンホフの創案以降のエスペラントの歴史を学び、言語の理解について計画言語論の提起した問題とその言語研究史上の意義について自身の考察を深めることである。											
【授業計画と内容】											
以下のとおり予定しているが、受講者の理解度によって変更する可能性がある。											
<p>第1回 ザメンホフ、アルファベットと発音、語順</p> <p>第2回 エスペラントの使用実態、形容詞と数</p> <p>第3回 ウェブとエスペラント(1)、所有表現、比較級・最上級</p> <p>第4回 二葉亭四迷とエスペラント、對格</p> <p>第5回 ウェブとエスペラント(2)、相關詞、命令形</p> <p>第6回 フundament(土臺、基礎)、前置詞、過去時制</p> <p>第7回 プロ・ニュー宣言、エスペラントと宗教、數量、關係詞</p> <p>第8回 プラハ宣言、不定詞、未來時制</p> <p>第9回 ラウマ宣言、接續法</p> <p>第10回 エスペラント原作作品、ウィリアム・オールド、能動分詞</p> <p>第11回 種々の計画言語とエスペラントとの因縁</p> <p>第12回 日本からのエスペラントによる発信、宮澤賢治</p> <p>第13回 エスペラントの人工性、派生形態法</p> <p>第14回 新村出とエスペラント、數表現</p> <p>第15回 受動分詞、言語の「完成」、まとめ</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
授業への貢献度(30%)とレポート(70%)											
【教科書】											
使用しない プリントを配布する。											
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----											

言語学(特殊講義)(2)

---

[参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

復習を怠らないでほしい。

(その他(オフィスアワー等))

質問は随時受け付けますが、メールなどでアポイントメントをとってもらえば面談にも応じます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系11

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 CATT, Adam Alvah			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		リグ・ヴェーダを読む (Reading the Rigveda)									
[授業の概要・目的]											
<p>紀元前1400年頃にさかのぼるヴェーダ語（古期サンスクリット語）はインド・ヨーロッパ語の一つである。その文献の信頼度の高さと豊富さから、ヴェーダ語は古代インド・ヨーロッパ語研究において中心的な存在である。今回の授業では、最古のテキストであるリグ・ヴェーダとその注釈書を読み、言語学およびパーニニ文法の観点から考察する。</p>											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヴェーダ語を読む力を身につける。</li> <li>・古代インド・ヨーロッパ語としてのヴェーダ語に関する知識を深める。</li> <li>・言語学者としてヴェーダ語を考える能力を養う。</li> <li>・問題意識を高め、研究テーマを自分で探せるようになる。</li> </ul>											
[授業計画と内容]											
<p>この授業では、1週間に1 stanza ~ 2 stanzaのペースで読み進める予定（学生のレベルや議論の深さに応じて内容を調整できるよう、以下の授業計画は週毎に分けられていない）。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Hymn 1（7週間）</li> <li>2. Hymn 2（7週間）</li> <li>3. フィードバックなど（1週間）</li> </ol>											
[履修要件]											
サンスクリット語の基礎知識を持つことが望ましい。											
[成績評価の方法・観点]											
予習の出来具合により評価する。4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
前回の復習と、課された宿題を十分に準備すること。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

行動文化学系12

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 講師 大竹 昌巳			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中近世中国語音史									
【授業の概要・目的】											
<p>中国語は中世、唐朝がユーラシア東方に広大な版図を築いて国際語として通用したのに伴い、漢字音の移植や借用を通じて周辺諸民族の言語に多大な影響を与え、それらの文献上に記録を残した。近世に至ると、現代の標準語（普通話）で標準音とされる北京語音をはじめとする北方方言の諸特徴を備えた音韻的変種が姿を見せ始める。</p> <p>本授業では、これら中世から近世への移行期の諸文献を読み解き、中近世間の中国語音の歴史的変遷を跡づけることを通じて、文献資料が豊富に残る言語での通時言語学の方法を実践的に学ぶ。はじめに、基準となる中世（中古）中国語音と近世中国語音を反映する資料とその音韻体系について概説したのち、中近世間の中国語音を記録する各種文献に基づきその時代の中国語の声母・韻母・声調の様相について論じる。扱う資料はチベット・コータン・ウイグル等との対音資料や日本・朝鮮・ベトナムに伝承される漢字音、韻図・反切資料、また現代諸方言など様々であるが、とりわけ近年解読が進む契丹文字文献に反映される中国語音に注目する。</p> <p>中国語音の歴史的変遷は、中国語史を研究する者のもとより、中国周辺の諸言語・諸文献を研究する者にとっても知っておくべき基礎知識であるが、とりわけこの時期の中国語音韻史は現代北京語の起源に直結するものであり、現代中国語を研究する者にとっても有用な知識を提供するだろう。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国音韻学に特有の術語・概念を理解し、言語研究の多様な視点を養う</li> <li>・多様な文献資料を利用して言語音の通時的变化を研究する方法を習得する</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>前期は以下のトピックについて扱う。ただし、受講者の背景知識等に応じて内容を一部変更する場合があります。</p> <p>〔第1部〕基礎編</p> <p>第1回 イントロダクション</p> <p>第2回 中国語の音韻構造と現代北京音</p> <p>第3回 中古音概説(1)：韻書・反切・韻図</p> <p>第4回 中古音概説(2)：『切韻』の韻母・声調体系</p> <p>第5回 中古音概説(3)：『切韻』の声母体系</p> <p>第6回 中古音概説(4)：唐代中期の長安音</p> <p>第7回 近世音概説：元代の大都音</p> <p>〔第2部〕声母編</p> <p>第8回 中近世諸文献概説</p> <p>第9回 清濁論(1)：唐代音の清濁と近世への変化</p> <p>第10回 清濁論(2)：中近世諸文献における全濁音</p> <p>第11回 清濁論(3)：中近世諸文献における次濁音</p> <p>第12回 五音論(1)：唇牙喉音に関する諸問題</p>											
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 言語学(特殊講義)(2)

第13回 五音論(2)：舌歯音に関する諸問題

第14回 声母総論

第15回 フィードバック

### 【履修要件】

中国語の知識は必須ではない。中国語学習の経験や中国語学の知識のない者の受講も歓迎する。

### 【成績評価の方法・観点】

平常点（小レポートや授業への参加状況）（50%）および期末レポート（50%）による。

### 【教科書】

使用しない  
プリントを配布する

### 【参考書等】

（参考書）

牛島徳次・香坂順一・藤堂明保編 『中国文化叢書 1 言語』（大修館書店、2011年新装版）ISBN: 9784469232646

### 【授業外学修（予習・復習）等】

特に第1部で扱う術語・概念はその後の授業に必須の知識なので、定着するまで復習してほしい。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系13

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 野原 将揮			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		上古音講義									
【授業の概要・目的】											
<p>上古音研究は清朝考証学者らによる押韻・諧声系列の整理にはじまり、20世紀初頭のKarlgrenの登場によって大きく進展し、Karlgren以降になると、董同[和]、李方桂、Yakhontov、梅祖麟、Baxter、鄭張尚芳、潘悟雲、Schuessler、Sagartらの研究が中心となる。</p> <p>本講義は上古中国語音韻史（上古音研究）の概要と近年の発展について、その大まかな流れを概観し、議論することである。特に、近年の研究について紹介する予定である。</p>											
【到達目標】											
<p>中国語の上古音研究がどのように行われてきたのか、主要な業績を紹介しながら研究の歴史を辿り、詩経の押韻および諧声符から推定される上古中国語の音韻体系を概観する。これまでの研究で何がどのように明らかにされてきたのかについて学ぶとともに、あわせて中国語史の基本的な術語や文献資料についても理解を深める。</p> <p>また出土資料等でみられる通仮（当て字の用法）の可否を判断できるようになることを目標の一つとする。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下の計画に沿って講義を進めるが、参加者の理解状況、興味関心とトピックによって、テーマごとの講義回数あるいは順序に変更が生じる可能性がある。</p> <p>前半：基礎的な内容            第1回、第2回、第3回：ガイダンス 中国語音韻学の述語の確認、中古音            第4回、第5回、第6回：上古音の時代区分、上古音研究の方法と蓋然性、問題点            第7回、第8回、第9回：伝統的手法「韻部」「声母」</p> <p>後半：近年の研究成果            第10回、第11回、第12回、第13回、第14回：            出土資料とびん語を用いた上古音研究：舌音2タイプ、*s- preinitial、円唇母音仮説、前舌母音仮説、*r-の再構            第15回 フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点：授業への取り組み（50点）と授業内小レポート（50点）											
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----											

言語学(特殊講義)(2)

**[教科書]**

使用しない  
配布資料を準備する

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する  
適宜紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

参照すべき文献は多岐にわたるので、テーマに応じて授業時に指示する。指示に従って読んでおくこと。資料はその都度配布する予定。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系14

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		国際高等教育院 教授 谷口 一美			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		認知文法・構文文法研究									
【授業の概要・目的】											
この授業では、認知文法、構文文法の最新の動向を把握すると共に、得られた知見を受講者各自の研究テーマへと発展的に応用させることを目的とする。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 認知言語学の理論的枠組みを理解し、言語学的研究に応用する観点を習得する。</li> <li>・ 言語事象に対する観察力を養う。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
認知言語学の代表的な学術雑誌である Cognitive Linguistics や近刊の論文集を中心とし、重要な英語論文を取り上げる。担当者が論文の概要を発表し、その内容について、全員でディスカッションを行う。											
第1回：ガイダンス 第2回：認知文法(論文1前半) 第3回：認知文法(論文1後半) 第4回：認知文法(論文2前半) 第5回：認知文法(論文2後半) 第6回：構文文法(論文1前半) 第7回：構文文法(論文1後半) 第8回：構文文法(論文2前半) 第9回：構文文法(論文2後半) 第10回：認知文法・構文文法の応用的研究(論文1前半) 第11回：認知文法・構文文法の応用的研究(論文1後半) 第12回：認知文法・構文文法の応用的研究(論文2前半) 第13回：認知文法・構文文法の応用的研究(論文2後半) 第14回：全体の総活とディスカッション 第15回：フィードバック											
【履修要件】											
認知言語学の基礎知識を備えていることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点(30%)、学期末のレポート(70%)から総合的に評価する。											
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----											



言語学(特殊講義)(2)

**[教科書]**

論文のコピーまたはPDFファイルを配布する。

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

指定された論文を読み、問題点を明らかにした上で授業に臨むこと。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系15

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		国際高等教育院 教授 谷口 一美			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		認知意味論研究									
【授業の概要・目的】											
この授業では、認知意味論を中心に取り扱い、メタファーやメトニミー、主観性など言語の意味拡張に関わる様々な現象を考察する。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 認知言語学の理論的枠組みを理解し、言語学的研究に応用する観点を習得する。</li> <li>・ 言語事象に対する観察力を養う。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>授業では受講生の興味関心や履修状況に応じて、以下の認知言語学（特に認知意味論）の主要テーマをいくつか取り上げ、文献を講読する。それぞれ2週前後、授業を行う予定である。</p> <p>第1回：イントロダクション          第2回：認知言語学の理論的概要          第3回：言語学と心理学の関わり（1）：図と地の分化（導入）          第4回：言語学と心理学の関わり（1）：図と地の分化（考察）          第5回：言語学と心理学の関わり（2）：視線と主観性（導入）          第6回：言語学と心理学の関わり（2）：視線と主観性（考察）          第7回：カテゴリー化と言語（1）：プロトタイプ・カテゴリー（導入）          第8回：カテゴリー化と言語（1）：プロトタイプ・カテゴリー（考察）          第9回：カテゴリー化と言語（2）：抽象化とスキーマ（導入）          第10回：カテゴリー化と言語（2）：抽象化とスキーマ（考察）          第11回：イメージ・スキーマと言語の意味（導入）          第12回：イメージ・スキーマと言語の意味（考察）          第13回：意味の拡張：メタファーとメトニミー          第14回：文法構文と意味          第15回：フィードバック</p>											
【履修要件】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 言語学全般、あるいは認知言語学の基礎知識を備えていること。</li> </ul>											
【成績評価の方法・観点】											
学期末のレポート（70%）、授業への取り組みの状況（30%）から総合的に評価する。											
【教科書】											
論文のコピーまたはPDFファイルを配布する。											
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----											

言語学(特殊講義)(2)

---

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

指定された論文を読み、問題点を明らかにした上で授業に臨むこと。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 講師 大竹 昌巳			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中近世中国語音史									
【授業の概要・目的】											
<p>中国語は中世、唐朝がユーラシア東方に広大な版図を築いて国際語として通用したのに伴い、漢字音の移植や借用を通じて周辺諸民族の言語に多大な影響を与え、それらの文献上に記録を残した。近世に至ると、現代の標準語（普通話）で標準音とされる北京語音をはじめとする北方方言の諸特徴を備えた音韻的変種が姿を見せ始める。</p> <p>本授業では、これら中世から近世への移行期の諸文献を読み解き、中近世間の中国語音の歴史的変遷を跡づけることを通じて、文献資料が豊富に残る言語での通時言語学の方法を実践的に学ぶ。はじめに、基準となる中世（中古）中国語音と近世中国語音を反映する資料とその音韻体系について概説したのち、中近世間の中国語音を記録する各種文献に基づきその時代の中国語の声母・韻母・声調の様相について論じる。扱う資料はチベット・コータン・ウイグル等との対音資料や日本・朝鮮・ベトナムに伝承される漢字音、韻図・反切資料、また現代諸方言など様々であるが、とりわけ近年解読が進む契丹文字文献に反映される中国語音に注目する。</p> <p>中国語音の歴史的変遷は、中国語史を研究する者のもとより、中国周辺の諸言語・諸文献を研究する者にとっても知っておくべき基礎知識であるが、とりわけこの時期の中国語音韻史は現代北京語の起源に直結するものであり、現代中国語を研究する者にとっても有用な知識を提供するだろう。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国音韻学に特有の術語・概念を理解し、言語研究の多様な視点を養う</li> <li>・多様な文献資料を利用して言語音の通時的变化を研究する方法を習得する</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
後期は以下のトピックについて扱う。ただし、受講者の背景知識等に応じて内容を一部変更する場合がある。											
<p>[第1部] 韻母編</p> <p>第1回 前期の復習</p> <p>第2回 中心音論</p> <p>第3回 陽声韻論(1)：-n, -m韻尾類</p> <p>第4回 陽声韻論(2)：-ng韻尾類</p> <p>第5回 陰声韻論(1)：-y, -w韻尾類</p> <p>第6回 陰声韻論(2)：ゼロ韻尾類</p> <p>第7回 入声韻論(1)：-d, -b韻尾類</p> <p>第8回 入声韻論(2)：-g韻尾類</p> <p>第9回 韻母総論</p> <p>[第2部] 声調編</p> <p>第10回 声調論(1)：唐代音の調類と調値</p> <p>第11回 声調論(2)：声調の付随特徴について</p> <p>第12回 声調論(3)：陰陽調について</p>											
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----											

言語学(特殊講義)(2)

- 第13回 声調総論  
第14回 まとめ  
第15回 フィードバック

**【履修要件】**

前期の中近世中国語音史 を受講していることが望ましい。

**【成績評価の方法・観点】**

平常点（小レポートや授業への参加状況）（50%）および期末レポート（50%）による。

**【教科書】**

使用しない  
プリントを配布する

**【参考書等】**

（参考書）  
牛島徳次・香坂順一・藤堂明保編 『中国文化叢書 1 言語』（大修館書店、2011年新装版）ISBN:  
9784469232646

**【授業外学修（予習・復習）等】**

前期の復習をして臨むこと。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系17

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学 言語文化研究科 准教授 山本 武史			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		英語の音声・音韻									
【授業の概要・目的】											
英語の音声・音韻について概説し、特に音節構造、強勢付与、形態論との関わりなどにおいてまだ解決されていない問題や意見が分かれている問題について議論する。テキストを使用するが、授業内容はそれに縛られず、受講生が自身の考えでデータを分析することに重きを置く。											
【到達目標】											
英語の音声・音韻に関する基本的知識を習得し、さまざまな問題を定説にとらわれず自身で解決する力を養う。											
【授業計画と内容】											
以下に各回の内容を当初の予定として示すが、初回の授業で受講者の知識を確認して変更することがある。											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業の概要の説明</li> <li>2. English phonetics: Consonants</li> <li>3. English phonetics: Vowels</li> <li>4. The phonemic principle and English phonemes</li> <li>5. English syllable structure (1): Phonotactics</li> <li>6. English syllable structure (2): Syllabification</li> <li>7. Rhythm and word stress in English (1): The Latin stress rule</li> <li>8. Rhythm and word stress in English (2): Remaining problems</li> <li>9. Rhythm, reversal, and reduction</li> <li>10. English intonation</li> <li>11. Graphophonemics: Spelling-pronunciation relations</li> <li>12. Variation in English accents</li> <li>13. An outline of some accents of English</li> <li>14. First language (L1) acquisition of English phonetics and phonology</li> <li>15. Second language (L2) acquisition of English phonetics and phonology</li> </ol>											
【履修要件】											
特になし											
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 言語学(特殊講義)(2)

### [成績評価の方法・観点]

平常点（30点）および期末レポート（70点）による。平常点は授業中の議論への活発な参加によるもの（15点）と各自の判断で随時提出する任意のレポート（15点）による。4回以上（4回を含む）欠席した者には単位を与えない。

### [教科書]

Carr, Philip 『English Phonetics and Phonology: An Introduction, 3rd edn.』 (Wiley-Blackwell) ISBN: 9781119533740

### [参考書等]

（参考書）  
授業中に紹介する

### [授業外学修（予習・復習）等]

毎回の予習、復習はもちろんであるが、調音音声学や音韻論に関する基礎的知識が不足している者は各自その補強に努めること。

### （その他（オフィスアワー等））

授業時以外の連絡はメール（[ichheissetakeshi@lang.osaka-u.ac.jp](mailto:ichheissetakeshi@lang.osaka-u.ac.jp)）によること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学 大学院言語文化研究科 教授 宮本 陽一			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		統語論研究									
【授業の概要・目的】											
統語理論のゴールは、人間の持つ言語能力の研究を通して人間の心（mind）を理解することにある。この1つの試みとして生成文法理論がある。本講義では、生成文法理論において広く議論されている英語の疑問文（移動現象）に注目しながら、生成文法理論の考え方を学んでいく。											
【到達目標】											
<p>(1) 生成文法理論の基本的な考え方が理解できるようになる。</p> <p>(2) 疑問文に関する理論発展が理解できるようになる。</p> <p>(3) 樹形図, ブラケット等を用いて言語（特に英語と日本語）の基本的な文の構造が表現できるようになる。</p> <p>(4) 生成文法理論の枠組みにおいて日英語の統語的な違いが理解できるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下の予定で講義を進める。但し、講義の進み具合により、多少の変更はあり得る。</p> <p>第1回：オリエンテーションならびに文の構造</p> <p>第2回：平叙文の構造</p> <p>第3回：疑問文の構造</p> <p>第4回：疑問文にかかる制約（基本概念）</p> <p>第5回：疑問文にかかる制約（帰結）</p> <p>第6回：疑問文にかかる制約（問題点）</p> <p>第7回：格</p> <p>第8回：障壁理論（基本概念）</p> <p>第9回：障壁理論（練習）</p> <p>第10回：障壁理論（帰結）</p> <p>第11回：障壁理論（問題点）</p> <p>第12回：相対最小性</p> <p>第13回：ミニマリストプログラム</p> <p>第14回：日英語比較（削除と移動）</p> <p>第15回：日英語比較（数量詞と量化詞）</p>											
【履修要件】											
言語学概論程度の知識があることが望ましい。											
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----											



## 言語学(特殊講義)(2)

### [成績評価の方法・観点]

課題（20%）と期末レポート（80%）の成績を総合的に評価する。授業の内容を踏まえ、独創的な視点のもと、必要なデータ収集・分析を行った期末レポートを高く評価する。

### [教科書]

使用しない  
ハンドアウトを配布する場合もあるが、授業は基本的に板書で進める。

### [参考書等]

（参考書）  
宮本陽一 『生成文法の展開：「移動現象」を通して』（大阪大学出版会）ISBN:978-4-87259-288-7

### [授業外学修（予習・復習）等]

予習・復習を必ず行うこと。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 松岡 和美 非常勤講師 前川 和美			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		手話言語学概論									
【授業の概要・目的】											
ろう者の大多数は聴の親のもとに生まれるため、手話言語を母語とするネイティブサイナーは数が限られている。つまり、多くの地域において手話言語は「少数言語」であり、それゆえに根強い誤解・偏見が広くみられる。この講義の目的は、音声言語と手話言語に見られる普遍的な性質と同時に、空間を用いる言語独特の性質の両方を概観し、文字を持たない少数言語である手話をとりまく社会的環境についても考察することである。手話の社会言語学を扱う回では、日本手話のネイティブサイナーであるろう者の講師が講義を担当し（音声への通訳あり）、聴者の講師が議論のファシリテーターの役割を務める。											
【到達目標】											
手話言語が身振り（ジェスチャー）の寄せ集めではなく、自然言語としての性質を備えていることを理解する。手話言語の性質を示す具体例やろう者の文化の知識を得ることで、人間の言語とは何かについて「音声言語」の枠を越えて考える態度を養う。											
【授業計画と内容】											
【9月6日】											
第1回：オリエンテーション・日本手話と日本語対応手話											
第2回：音韻論1：手話の音韻パラメータと初期の表記システム											
第3回：音韻論2：手話の音韻表記と音韻変化											
【9月7日】											
第4回：形態論1：形態素の種類・手話の複合語											
第5回：形態論2：手話の語形成											
第6回：統語論1：否定表現・NM表現											
【9月8日】											
第7回：統語論2：構造依存性と文末コピー											
第8回：CLとRSの分類											
第9回：CLとジェスチャーの違い											
【9月9日・前川・松岡のチームティーチング】											
第10回：手話のバリエーション1：地域差・年齢差・男女差											
第11回：手話のバリエーション2：言語接触・国際手話・触手話											
第12回：手話を取り巻く社会的状況とろう教育											
【9月10日】											
第13回：ろう児の手話の発達											
第14回：ホームサイン・コミュニティと手話の発生											
第15回：試験・フィードバック											
----- 言語学(特殊講義) (2)へ続く -----											

## 言語学(特殊講義) (2)

### 【履修要件】

言語学の入門・概論クラスを履修していることが望ましいが必須ではない。手話の知識は不要である。

### 【成績評価の方法・観点】

試験 ( 5 0 % )  
課題 ( 5 % × 4 回 = 2 0 % )  
授業内ミニレポート ( 6 % × 5 回 = 3 0 % )

### 【教科書】

松岡和美 『日本手話で学ぶ手話言語学の基礎』 ( くらしお出版 2 0 1 5 年 ) ISBN:9784874246702

### 【参考書等】

( 参考書 )  
授業中に紹介する  
授業開始日の前もしくは授業内で追加文献のPDFファイルを配布する。

### 【授業外学修 ( 予習 ・ 復習 ) 等】

初回授業で別途指示する。

### ( その他 ( オフィスアワー等 ) )

この集中講義は前期の採点報告日以降に実施するため、成績報告が遅れる場合がある。  
授業を通して、履修者からの積極的な質問やコメントを歓迎する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系20

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 千田 俊太郎			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		エスペラントと言語学									
【授業の概要・目的】											
この講義では、エスペラントの実態を示すとともに、ザメンホフの創案以降のエスペラントの歴史を辿り、言語の理解について計画言語論の提起した問題とその言語研究史上の意義について考察を深める。後期は計画言語論が言語研究に及ぼした影響を及ぼしたか、エスペラント界が言語的・社会的に及ぼした影響を及ぼしたかを議論し、またエスペラント以外の計画言語についても紹介する。											
【到達目標】											
この講義では、エスペラントの実態を示すとともに、ザメンホフの創案以降のエスペラントの歴史を辿り、言語の理解について計画言語論の提起した問題とその言語研究史上の意義について考察を深める。後期は計画言語論が言語研究に及ぼした影響を及ぼしたか、エスペラント界が言語的・社会的に及ぼした影響を及ぼしたかを議論し、またエスペラント以外の計画言語についても紹介する。											
【授業計画と内容】											
スケジュールは以下の通りだが受講者の理解度に応じて変更する可能性がある。											
<p>第1回 はじめに</p> <p>第2回 エスペラントの十六箇条文法の内容と意義</p> <p>第3回 エスペラントの音韻論と類型的位置付け</p> <p>第4回 エスペラントの形態法と類型</p> <p>第5回 量化</p> <p>第6回 接置詞</p> <p>第7回 関係節</p> <p>第8回 時制</p> <p>第9回 計画言語の類型</p> <p>第10回 品詞</p> <p>第11回 イード、ヴォラピュク</p> <p>第12回 言語学者と計画言語(1): シューハルト、クルトネ、イエスペルセン</p> <p>第13回 言語学者と計画言語(2): サピア、トルベツコイ、マルチネ</p> <p>第14回 母語とは何か</p> <p>第15回 まとめ</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----											

言語学(特殊講義)(2)

**[成績評価の方法・観点]**

授業への貢献度（30％）とレポート（70％）

**[教科書]**

使用しない  
プリントを配布する。

**[参考書等]**

（参考書）  
授業中に紹介する

**[授業外学修（予習・復習）等]**

復習を怠らないでほしい。

**（その他（オフィスアワー等））**

質問は随時受け付けますが、メールなどでアポイントメントをとってもらえば面談にも応じます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系21

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 CATT, Adam Alvah			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		リグ・ヴェーダを読む (Reading the Rigveda)									
[授業の概要・目的]											
<p>紀元前1400年頃にさかのぼるヴェーダ語（古期サンスクリット語）はインド・ヨーロッパ語の一つである。その文献の信頼度の高さと豊富さから、ヴェーダ語は古代インド・ヨーロッパ語研究において中心的な存在である。今回の授業では、最古のテキストであるリグ・ヴェーダとその注釈書を読み、言語学およびパーニニ文法の観点から考察する。</p>											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヴェーダ語を読む力を身につける。</li> <li>・古代インド・ヨーロッパ語としてのヴェーダ語に関する知識を深める。</li> <li>・言語学者としてヴェーダ語を考える能力を養う。</li> <li>・問題意識を高め、研究テーマを自分で探せるようになる。</li> </ul>											
[授業計画と内容]											
<p>この授業では、1週間に1 stanza ~ 2 stanzaのペースで読み進める予定（学生のレベルや議論の深さに応じて内容を調整できるよう、以下の授業計画は週毎に分けられていない）。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Hymn 1（7週間）</li> <li>2. Hymn 2（7週間）</li> <li>3. フィードバックなど（1週間）</li> </ol>											
[履修要件]											
サンスクリット語の基礎知識を持つことが望ましい。											
[成績評価の方法・観点]											
予習の出来具合により評価する。4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
前回の復習と、課された宿題を十分に準備すること。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 松本 亮			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目											
[授業の概要・目的]											
[到達目標]											
[授業計画と内容]											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
[教科書]											
[参考書等]											
(参考書)											
[授業外学修(予習・復習)等]											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-LET29 67231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 荻原 裕敏			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		コータン語文献から見る文献言語研究									
【授業の概要・目的】											
<p>大量の写本断片が中国・新疆ウイグル自治区のコータン及び敦煌から発見されているコータン語は、中期イラン語に属する文献言語で、古期コータン語・後期コータン語という二つの段階に大きく分類される。5～11世紀頃と推定されるコータン語文献は宗教文献と非宗教文献に大別され、宗教文献は主にサンスクリットに基づいた仏教文献であるが、非宗教文献には契約文書や手紙・会話集なども含まれている。今回の講義では、研究史並び文法を概観した後、古期コータン語・後期コータン語で書かれた代表的なテキストの講読を通して、出土文献資料を利用した文献言語研究の方法論やその可能性について解説する。</p>											
【到達目標】											
<p>文字とその背後にある言語体系との関係や文献資料を通じた言語研究の方法論について理解し、文献言語研究に取り組む能力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下の各項目について講述する。各項目には、受講者の理解の程度を確認しながら、【】で指示した週数を充てる。各項目の講義の順序は固定したのではなく、担当者の講義方針と受講者の背景や理解の状況に応じて、講義担当者が適切に決める。</p> <p>1 導入【1週】 コータン語文献及び研究史の紹介</p> <p>2 コータン語の基礎【4週】 南トルキスタン・ブラーフミー文字写本 コータン語の音韻・文法 古期コータン語・後期コータン語</p> <p>3 出土文献資料による文献言語研究の方法論【9週】 出土文献資料の扱い方 コータン語文献講読 出土文献解読による言語体系の解明とその可能性 出土文献資料に反映される文化と社会</p> <p>4 フィードバック【1週】 期末レポート フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 言語学(特殊講義) (2)へ続く -----											



## 言語学(特殊講義) (2)

### [成績評価の方法・観点]

期末レポート(70%)・平常点(小レポート)(30%)

### [教科書]

ハンドアウトを配布する。

### [参考書等]

(参考書)

Ruediger Schmitt (ed.), *Compendium Linguarum Iranicarum*. (Wiesbaden: Reichert, 1989)

Gernot Windfuhr (ed.), *The Iranian Languages*. (London: Routledge, 2009)

H. W. Bailey, *Dictionary of Khotan Saka*. (Cambridge: CUP, 1979)

その他、授業中に紹介する。

### [授業外学修(予習・復習)等]

授業中に紹介する参考文献を自主的に学習すること。

### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系24

科目ナンバリング		G-LET29 77241 SJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(演習) Linguistics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪学院大学 情報学部 准教授 笹間 史子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		調音音声学									
【授業の概要・目的】											
世界の言語の大半は音声を媒体としており、音声学の知識は言語記述に欠かせない。一般に音声の記述にはIPA ( International Phonetic Alphabet, 国際音声記号 ) が用いられる。本演習は、実習をとおしてIPAに習熟することを目的とする。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ IPAの発音を身につける。</li> <li>・ 音声を発する際に、音声器官のどこで何が起きているのか内省できるようになる。</li> <li>・ IPAを用いて音声表記ができるようになる。</li> <li>・ IPAの発音・聞き取りの習得をとおして、さまざまな言語音の記述をおこなうための基礎をつくる。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
音声器官、気流、発声について説明したのち、IPAの発音・聞き取り練習をおこなう。また、受講生に各自の学習言語からの例を持ちよってもらい、その発音・表記について検討する。											
第1回 イントロダクション、音声器官のしくみ											
第2回 気流と発声											
第3回 破裂音											
第4回 鼻音、ふるえ音、はじき音											
第5回 摩擦音、小テスト											
第6回 摩擦音											
第7回 接近音、その他の子音											
第8回 非肺気流による子音											
第9回 非肺気流による子音、小テスト											
第10回 子音のまとめ、表記練習											
第11回 第一次基本母音											
第12回 第二次基本母音、その他の母音											
第13回 母音のまとめ、表記練習、小テスト											
第14回 総復習と発音テスト											
第15回 総復習と発音テスト											
小テストは第5回、第9回、第13回を予定しているが、授業の進み具合により変更する可能性がある。											
【履修要件】											
特に要件は設けないが、言語学概論等の授業で音声学の基礎を学んでいることが望ましい。											
----- 言語学(演習)(2)へ続く -----											

## 言語学(演習)(2)

### [成績評価の方法・観点]

以下の合計で評価する。

- ・平常点（20点、発表を含む）
- ・小テスト（3回の聞き取りテスト、各10点）
- ・発音テスト（40点）
- ・レポート（10点）

### [教科書]

使用しない

### [参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

### [授業外学修（予習・復習）等]

授業で学んだ音の発音・表記をよく確認しておくこと。

授業中にできるようにならなかった発音については各自で練習し、必要ならば次回以降の授業時（授業の前後）に担当者に確認すること。

授業で学んだことにもとづき、自らが学習する言語の音声をあらためてよく観察するとともに、観察結果を授業に持ち寄ること。

### （その他（オフィスアワー等））

実習であるので、休まないこと。

休んだ回の内容については、書籍、CDやネット上の音声などを活用して各自確認しておくこと。授業中は他の受講生の発音にもよく耳を傾けること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET29 77241 SJ37											
授業科目名 <英訳>		言語学(演習) Linguistics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		国際高等教育院 教授				パリハワダナ ルチラ	
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語		
題目		「魅力的な日本語」・「難しい日本語」を題材とした日本語学・日本語教育的探究											
【授業の概要・目的】													
日本語学習者の「日本語学習の目的」として「日本語そのものへの興味」が常に上位にランキングされる。その理由は果たして何か。学習者が惹かれる日本語の特徴とは何か。本授業では、日本語・日本文化を主専攻とする日本語・日本文化研修留学生(日研生)と共に、「魅力的な日本語」及び「難しい日本語」の学習項目を選定し、多角的に分析する。日本人学生・日研生を含む混在グループで、誤用分析、用法分析、教科書分析等を行いつつ、日本語の魅力、特徴に迫る。													
【到達目標】													
本授業の到達目標は、 (1) 日本語に対する相対的な見方を形成しつつ、その背景にある社会文化的な諸要素に対する理解力を高めること (2) 日本語教育の基礎を学びつつ、選定した学習項目・用法を基にその基礎的応用力を習得することである。													
【授業計画と内容】													
以下の通りに進めていく予定であるが、履修者の興味や背景に応じて変更する場合もある。													
第1回 ガイダンス、日本語学習者の初歩的動機													
第2回 学習ニーズ/グループワーク : テーマ選定													
第3回 漫画・アニメ・J-Popの日本語/グループワーク : 選定した学習項目の分析													
第4回 教授法とシラバス/グループワーク : 選定した学習項目の分析													
第5回 日本語らしさとは? /グループワーク : 他言語との比較													
第6回 アクティブ・ラーニング/グループワーク : 教案作成													
第7回 文化リタラシーと学習者の自己確立/グループワーク : 中間発表の準備													
第8回 グループ別中間発表及び前半の総括													
第9回 学習困難な日本語 学習を困難にしている理由とは? /グループワーク : テーマ選定													
第10回 <やさしい日本語>/グループワーク : 選定した学習項目の分析、他言語との比較													
第11回 社会・文化的諸要素への依存度の高い学習項目/グループワーク : 使い分け基準													
第12回 教科書分析の方法/グループワーク : 教科書分析													
第13回 誤用分析の方法/グループワーク : 誤用分析													
第14回 <自然な日本語>とは? /グループワーク : 期末発表の準備 グループ別期末発表													
第15回 フィードバック													
----- 言語学(演習)(2)へ続く -----													

## 言語学(演習)(2)

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

以下の通りに評価する。

授業活動への参加度合：20%

中間発表・中間レポート：30%

期末発表・期末レポート：50%

なお、演習科目であるため出席も重視する。

### 【教科書】

使用しない

授業中にプリントを配付する。

### 【参考書等】

(参考書)

白川博之監修 『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』(スリーエーネットワーク)  
ISBN:ISBN4-88319-201-6

川口義一・横溝紳一郎 『成長する教師のための日本語教育ガイドブック(上)』(ひつじ書房)  
ISBN:ISBN4-89476-251-X

川口義一・横溝紳一郎 『成長する教師のための日本語教育ガイドブック(下)』(ひつじ書房)  
ISBN:ISBN4-89476-252-8

その他適宜授業中に提示する。

### 【授業外学修(予習・復習)等】

グループ活動を遂行する上で事前準備・授業外の共同学習が必要となる。

### (その他(オフィスアワー等))

E-mailアドレス：palihawadana.ruchira.8n@kyoto-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET29 77241 SJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(演習) Linguistics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 定延 利之 文学研究科 教授 千田 俊太郎 文学研究科 准教授 CATT, Adam Alvah 文学研究科 講師 大竹 昌巳			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		語をめぐる通言語的検討									
[授業の概要・目的]											
本演習では通言語的な論文集をテキストとして使用し、語を音韻面や文法面、さらに社会や文化とのつながりの中で理解しようとするいくつかの論文を通して、語のあり方に関する基本的な知識を得ることを目的とする。											
[到達目標]											
世界の諸言語が語に関して有する個別的特徴、さらに言語一般に共通する特徴について、多彩な現象と分析方法を知ることができる。											
[授業計画と内容]											
授業では各回、大学院の学生と学部の学生がペアになり、割りあてられた部分について、ハンドアウトを使って内容を解説するとともに、問題となる事項について討議する。なお今年度は定延利之がすべての授業を担当する。(zoomによるリモート方式でおこなう。)											
第1回：教材紹介，授業の進め方 第2回・第3回：The essence of ‘ word ’ 第4回・第5回：Words within words: Examples from Yidin, Jarawara, and Fijian 第6回・第7回：Words in Japanese 第8回・第9回：Wordhood in Chamacoco 第10回・第11回：The phonological and grammatical status of Murui ‘ word ’ 第12回・第13回：Word in Yalaku 第14回・第15回：Word in Lao，全体総括 (但し受講者の理解度等に応じて変更の可能性はある)											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
以下の合計による：(1) 授業での発表(30%)、(2) 討論への積極的な参加(10%)、(3) 期末レポート(60%)。											
[教科書]											
Alexandra Y. Aikhenvald, R.M.W. Dixon, and Nathan M. White. (eds.) 『Phonological Word and Grammatical Word: A Cross-Linguistic Typology』 (Oxford University Press, 2020) ISBN:0-15-648233-9											
----- 言語学(演習)(2)へ続く -----											

言語学(演習)(2)

[参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

受け持ち部分以外も事前に目を通しておき、授業中の討議や質問を通じて分からない部分を解決することが望まれる。

(その他(オフィスアワー等))

研究室でも質問や相談を受け付けます。事前に連絡して時間の調整を行ってください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系27

科目ナンバリング		G-LET29 77241 SJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(演習) Linguistics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 定延 利之 文学研究科 教授 千田 俊太郎 文学研究科 准教授 CATT, Adam Alvah 文学研究科 講師 大竹 昌巳			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		オノマトペをめぐる通言語的検討									
[授業の概要・目的]											
本演習では通言語的な論文集をテキストとして使用し、オノマトペを文法や語用論、さらに社会や文化とのつながりの中で理解しようとするいくつかの論考を通して、オノマトペのあり方に関する基本的な知識を得ることを目的とする。											
[到達目標]											
世界の諸言語がオノマトペに関して有する個別的特徴、さらに言語一般に共通する特徴について、多彩な現象と分析方法を知ることができる。											
[授業計画と内容]											
授業では各回、大学院の学生と学部の学生がペアになり、割りあてられた部分について、ハンドアウトを使って内容を解説するとともに、問題となる事項について討議する。なお今年度は定延利之がすべての授業を担当する。											
第1回：教材紹介，授業の進め方 第2回・第3回： ' Ideophone ' as a comparative concept 第4回・第5回： Cross-linguistic variation in phonaesthetic canonicity, with special reference to Korean and English 第6回・第7回： Monosyllabic and disyllabic roots in the diachronic development of Japanese mimetics 第8回・第9回： Towards a semantic typological classification of motion ideophones: The motion semantic grid 第10回・第11回： Mimetics, gaze and facial expression in a multimodal corpus of Japanese 第12回・第13回： The sensori-semantic clustering of ideophonic meaning in Pastaza Quichua 第14回・第15回： Ideophones as a measure of multilingualism , 全体総括 ( 但し受講者の理解度等に応じて変更の可能性はある )											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
以下の合計による： ( 1 ) 授業での発表 ( 30% )、 ( 2 ) 討論への積極的な参加 ( 10% )、 ( 3 ) 期末レポート ( 60% )。											
[教科書]											
Kimi, Akita, and Prashant Pardeshi. (eds.) 『 Ideophones, Mimetics and Expressives. 』 ( John Benjamins, 2019 ) ISBN:978-90-272-0311-3											
----- 言語学(演習)(2)へ続く -----											



言語学(演習)(2)

[参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

受け持ち部分以外も事前に目を通しておき、授業中の討議や質問を通じて分からない部分を解決することが望まれる。

(その他(オフィスアワー等))

研究室でも質問や相談を受け付けます。事前に連絡して時間の調整を行ってください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系28

科目ナンバリング		G-LET29 77241 SJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(演習) Linguistics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 准教授 堀口 大樹			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		バルト・スラヴ比較・対照言語学									
【授業の概要・目的】											
「バルト・スラヴ比較・対照言語学」と題し、主にバルト諸語のラトビア語をもとに、スラヴ語（主にロシア語）と比較・対照しながら、言語学の様々な側面概説する。											
【到達目標】											
ラトビア語の音声、語彙、文法に関する概説を通して、自分が研究しているスラヴ諸語やその他の言語との対照を行い、ことばのしくみの共通点と相違点を理解する。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 音と文字</li> <li>3. 語彙</li> <li>4. 固有名詞</li> <li>5. 形態論 名詞・形容詞・副詞</li> <li>6. 形態論 動詞</li> <li>7. アスペクト</li> <li>8. 語形成論</li> <li>9. 主観的評価</li> <li>10. 借用</li> <li>11. 統語論</li> <li>12. 言語とアイデンティティ</li> <li>13. 方言</li> <li>14. 予備</li> <li>15. フィードバック</li> </ol>											
【履修要件】											
ヨーロッパの言語、とりわけスラヴ語の履修歴があることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（各回の授業に関するコメント）：60% 期末レポート：40%											
----- 言語学(演習)(2)へ続く -----											

言語学(演習)(2)

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

(参考書)

堀口大樹 『ニューエクスプレスプラス ラトヴィア語』(白水社、2018年)

櫻井映子 『ニューエクスプレスプラス リトアニア語』(白水社、2019年)

三谷恵子 『比較で読み解くスラヴ語のしくみ』(白水社、2016年)

**[授業外学修(予習・復習)等]**

学修、研究している言語に常日頃から真摯に取り組むこと。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系29

科目ナンバリング		G-LET29 77241 SJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(演習) Linguistics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 准教授 堀口 大樹			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		スラヴ語入門									
【授業の概要・目的】											
「スラヴ語入門」と題し、ロシア語を中心としたスラヴ諸語の文法の基本的な仕組みについて、ロシア語で書かれた平易なテキストを読みながら理解する。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロシア語を中心としたスラヴ諸語の構造や仕組み、歴史について理解を深める。</li> <li>・辞書を用いてロシア語のテキストを読む力を高める。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>本授業では、スラヴ諸語の概要についてそれぞれ3回で概観する。 また受講者の関心に応じて、下記以外のスラヴ語を取り上げる場合もある。</p> <p>1-3. ロシア語 4-6. ウクライナ語 7-9. ベラルーシ語 10-12. ポーランド語 13-15. ブルガリア語</p>											
【履修要件】											
<p>ロシア語の初級文法の知識があること。 また、言語学の基礎知識があることが望ましい。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>成績評価については、毎回読むテキストの予習や課題（60%）、学期末レポート（40%）に基づくものとする。</p>											
【教科書】											
<p>『スラヴ語入門』(三省堂、2011年) ほか『比較で読み解くスラヴ語のしくみ』(白水社、2019年) 『Academia』(Academia、2005年)</p> <p>毎回の授業で読むテキストの箇所は、授業で配布する。</p>											
【参考書等】											
<p>(参考書) 三谷恵子 『スラヴ語入門』(三省堂、2011年) 三谷恵子 『比較で読み解くスラヴ語のしくみ』(白水社、2019年)</p>											
----- 言語学(演習)(2)へ続く -----											

言語学(演習)(2)

河野六郎ほか『言語学大辞典』（三省堂）

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回の授業で読むテキストの予習をすること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系30

科目ナンバリング		G-LET29 7M352 SJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(演習) Linguistics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 定延 利之 文学研究科 教授 千田 俊太郎 文学研究科 准教授 CATT, Adam Alvah 文学研究科 講師 大竹 昌巳			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	金4,5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		言語学の諸問題									
【授業の概要・目的】											
修士論文および課程博士論文の質の向上を目的とする。大学院生が自らの研究について報告を行い、それに対する質疑応答、討論を通して、思考力や分析力を培う機会にする。											
【到達目標】											
1. 発表、それに関する質疑を通じて、自分の研究を深める。 2. 専門を異にする研究者に対して、自分の研究をわかりやすくプレゼンテーションすることができるようになる。 3. 自分と専門が違う研究者の発表を理解し、簡潔で、適切な質問ができるようになる。 4. 発表の論理を理解し、論理の問題点などを指摘できる。											
【授業計画と内容】											
大学院生は、各自の研究の進捗状況と成果について、少なくとも年1回の発表を行う。修士論文提出予定者は前期と後期にそれぞれ1回ずつ発表を行う。発表の後に、質疑・討論を行い、さまざまな言語学的問題についての理解を深める。発表者は発表の数日前に、自らの研究成果が反映されているハンドアウトを用意しなければならない。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
授業時での発表や他の院生の発表に対する批判的なコメントや質問など、平常点で評価する											
【教科書】											
ハンドアウトを使用する											
【参考書等】											
(参考書) 特になし											
【授業外学修(予習・復習)等】											
発表者はハンドアウトを発表週の月曜日までに提出すること。ハンドアウトは読むだけで、論旨がわかるものとする。発表者以外は発表当日までに読み、質問を準備すること。質問、コメントは簡潔でわかりやすく、かつ、答えることが可能なものとする。											
(その他(オフィスアワー等))											
大学院博士後期課程修了者の参加も歓迎する											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

行動文化学系31

科目ナンバリング		G-LET49 89612 LJ48									
授業科目名 <英訳>		オランダ語（初級）（語学） Dutch				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 河崎 靖			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		オランダ語初級									
[授業の概要・目的]											
オランダ語の総合的な語学力を養成することを目標とする。											
[到達目標]											
CEFRのおよそA1/A2レベルの語学力を目指す。											
[授業計画と内容]											
入門レベルの文法解説から始め（第1～5回、各回：発音・人称変化・代名詞など）、話す・聴く能力を高めるドリルも行い（第6～10回、各回：助動詞・時制・前置詞など）、併せて、ランデスクンデ的な情報を盛り込む（第11～15回、各回：受動態・erの用法・指小辞など）。専門分野を問わず熱心な参加（予習・復習ふくめ）を期待する。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
基本的に平常点による。積極的な授業参加が望まれる。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
（参考書） 河崎 靖 『オランダ語の基礎』（白水社）											
[授業外学修（予習・復習）等]											
こちらで用意する教材を、授業の前後（予習・復習）確実に準備してもらう。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

行動文化学系32

科目ナンバリング		G-LET49 89613 LJ48									
授業科目名 <英訳>		オランダ語（中級）（語学） Dutch				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 河崎 靖			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		オランダ語 初・中級									
[授業の概要・目的]											
オランダ語の総合的な語学力を養成することを目標とする。											
[到達目標]											
CEFRでB1レベルに達することを目指す。											
[授業計画と内容]											
入門レベルの文法解説から始め（第1～5回、各回：発音・人称変化・代名詞など）、話す・聴く能力を高めるドリルも行い（第6～10回、各回：助動詞・時制・前置詞など）、併せて、ランデスキュンデ的な情報を盛り込む（第11～15回、各回：受動態・erの用法・指小辞など）。専門分野を問わず熱心な参加（予習・復習ふくめ）を期待する。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
基本的に平常点による。積極的な授業参加が望まれる。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
（参考書） 河崎 靖 『オランダ語の基礎』（大学書林）											
[授業外学修（予習・復習）等]											
こちらで用意する教材を、授業の前後（予習・復習）確実に準備してもらう。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											



行動文化学系33

科目ナンバリング		G-LET49 89620 LJ48									
授業科目名 <英訳>		シュメール語（初級）（語学） Sumerian				担当者所属・ 職名・氏名		国士舘大学 イラク古代文化研究所 研究員 森 若葉			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	金1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		シュメール語文法と楔形文字書記体系のしくみ、楔形文字文献の講読および内容の紹介									
【授業の概要・目的】											
<p>古代メソポタミア文明で話されていたシュメール語は、紀元前四千年紀末からおよそ三千年間にわたって数多くの資料を残す楔形文字言語である。</p> <p>この言語は、複雑な動詞組織をもち、系統関係が不明な膠着語であることが知られている。本授業は、楔形文字で記されるシュメール語の文法と楔形文字文献について学ぶことを目的とする。</p> <p>文法の解説とともに、最古の文字である楔形文字の成立としくみ、および系統不明の古代語であるシュメール語ほか楔形文字言語の解読についてもふれる。</p> <p>比較的簡単なシュメール語資料の講読を行い、適宜、そのほかの資料についても内容の紹介をおこなう。死語となつてのちに長期間にわたって書き継がれた言語の文法の問題点などもあわせて論じる。授業で扱うシュメール語資料は、王碑文、行政経済文書、裁判文書、文学作品、文法テキストを予定しているが、受講学生と相談し変更することもある。</p>											
【到達目標】											
<p>世界最古の文字で、その後三千年間古代メソポタミア世界の様々な言語を書き記した楔形文字の書記体系、およびシュメール語の基本的文法構造を理解する。</p> <p>また、楔形文字で記されたシュメール語のさまざまな文献を実際に講読し、その内容を知ることにより、シュメール語文法と楔形文字についての知識を深める。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし講義の進みぐあいや受講学生の希望に応じ、順序やテーマは変更されうる。</p> <p>&lt;前期&gt; 楔形文字およびシュメール語文法の概説とともに、簡単な資料の講読を行う。粘土板および円筒印章を作成する実習を行う。</p> <p>第1回 シュメール語の背景 メソポタミア文明の世界について</p> <p>第2回 シュメール語と楔形文字について</p> <p>第3回 楔形文字の解読と楔形文字で書かれた諸言語について（第3回）</p> <p>第4回 楔形文字の成立としくみについて（第4-5回）</p> <p>第5回 シュメール語文法（1）、楔形文字文献について</p> <p>第6回 シュメール語文法（2）、王碑文を読む</p> <p>第7回 シュメール語文法（3）、王碑文を読む</p> <p>第8回 シュメール語文法（4）、行政文書を読む</p> <p>第9回 楔形文字粘土板・円筒印章実習 - 粘土板と印章を作成</p> <p>第10回 シュメール語文法（5）、行政文書を読む</p> <p>第11回 シュメール文学の紹介</p> <p>第12回 シュメール文学作品を読む</p> <p>第13回 シュメール・メソポタミアの「法典」紹介</p> <p>第14回 裁判記録を読む</p> <p>第15回 行政文書・裁判記録を読む</p>											
----- シュメール語（初級）（語学）(2)へ続く -----											

## シュメール語（初級）(語学)(2)

### <後期>

文法概説と並行して下記文献の講読、資料の紹介を進めていく。総合博物館の許可のもと、博物館が所蔵する楔形文字粘土板の見学実習を行う予定である。

- 第1回 文献から見るシュメールの生活
- 第2回 シュメール語文法（6）、行政文書を読む
- 第3回 シュメール語文法（7）、行政文書を読む
- 第4回 シュメール語文法（8）、行政文書を読む
- 第5回 シュメール文学作品を読む
- 第6回 シュメール語文法（9）、行政文書を読む
- 第7回 シュメール語文法・語彙文書概説、王碑文を読む
- 第8回 京都大学総合博物館所蔵資料紹介
- 第9回 京都大学総合博物館所蔵資料を読む
- 第10回 京都大学総合博物館粘土板見学実習
- 第11回 シュメール文学作品を読む
- 第12回 シュメール文学作品、王碑文を読む
- 第13回 行政文書、王碑文を読む
- 第14回 行政文書、王碑文を読む
- 第15回 まとめ

### [履修要件]

特になし

### [成績評価の方法・観点]

平常点（講読の状況・授業中の発言）[20%]および学年末レポート（シュメール語文献の翻字・翻訳）[80%]を予定。

### [教科書]

使用しない

授業時に資料およびテキストのコピーを配布する。  
楔形文字粘土板実習の際、粘土等を各自用意してもらう必要がある。

### [参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

授業時に資料およびテキストのコピーを配布する。

### [授業外学修（予習・復習）等]

事前に授業中に配布する資料に目を通してもらうことがある。また、文献講読については、授業前にシュメール語テキストの文字や単語について調べてきてもらうことがある。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

シュメール語（初級）(語学)(3)へ続く

シュメール語（初級）(語学)(3)

行動文化学系34

科目ナンバリング		G-LET49 89624 LJ48									
授業科目名 <英訳>		スワヒリ語（初級）(語学) Swahili				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 井戸根 綾子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		スワヒリ語初級									
【授業の概要・目的】											
<p>バンツー諸語に属すスワヒリ語はタンザニアおよびケニアの国家語であり、東アフリカを代表する共通語である。バンツー諸語の特徴である名詞クラスなどのスワヒリ語の標準文法、語彙、文型に加えて実際の会話表現も学ぶことで、基本的な文法事項の習得と日常的な会話の理解をめざす。テキストを用いた会話形式の文章の解説と共に文法説明と作文練習を行うことで、自分で文を組み立てる能力を身につける。また、テキストの会話表現には社会的・文化的事象が多く含まれる。その背景についての補足説明によって、東アフリカの言語だけでなく文化や社会についての知識も深める。関連する実物や画像は授業中に紹介される。</p>											
【到達目標】											
<p>1：スワヒリ語の名詞クラスと基本文型を理解する                  2：習得した文法事項や文型を自分で文に組み立てることができる                  3：短い日常会話の流れを把握できる                  4：東アフリカの文化や社会に関する知識を深める</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション / スワヒリ語文法の概要                  第2回 第1課 / 現在時制                  第3回 第2課 / コピュラ文                  第4回 第4課 / 所有表現                  第5回 第5課 / 未来時制                  第6回 名詞クラス                  第7回 第3課 / 存在表現                  第8回 第1～5課の復習と補足説明                  第9回 第6課 / あいさつ表現                  第10回 第7課 / 過去時制                  第11回 第8課 / 完了時制                  第12回 第9課 / 形容詞                  第13回 第10課 / 接続形                  第14回 第6～10課の復習と補足説明                  第15回 期末試験                  第16回 フィードバック</p> <p>なお、授業の進度は適宜調整する</p>											
----- スワヒリ語（初級）(語学)(2)へ続く -----											

## スワヒリ語（初級）(語学)(2)

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

予習・復習状況などの平常点（30％）、期末試験の結果（70％）により、総合的に判断する。なお、3分の2以上の出席率を必須とし、それに満たない場合は授業放棄とみなす。

### 【教科書】

竹村景子 『ニューエクスプレス+ スワヒリ語』（白水社）ISBN:978-4-560-08805-0

### 【参考書等】

（参考書）  
授業中に紹介する

### 【授業外学修（予習・復習）等】

教科書の各レッスンの予習・復習は必須とする。  
各レッスンのスキットについては、予め付属のCDを聴いておくこと。  
文法事項についての補足プリントや練習問題のプリントは授業中に配布する。  
練習問題で宿題となったものについては、次週までに予習・復習をしておくこと。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系35

科目ナンバリング		G-LET49 89625 LJ48									
授業科目名 <英訳>		スワヒリ語(中級)(語学) Swahili				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 井戸根 綾子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		スワヒリ語中級									
【授業の概要・目的】											
<p>テキストはスワヒリ語初級と同じものを引き続き使用し、会話形式の文章の解説と共に文法説明と作文練習を行う。スワヒリ語初級で習得した内容を再確認しながら、さらなる文法事項や新たな語彙・慣用表現を学ぶことで、総合的な読解力と基礎的な表現力の習得をめざす。テキストの基本的な表現に基づいた応用練習を行うことで、スワヒリ語を用いて自ら表現する技能を習得することができる。スワヒリ語独特の表現をより理解するためにその社会・文化的背景についても説明し、関連する実物や画像を紹介する。これにより東アフリカの言語だけでなく文化や社会についての知識も深める。</p>											
【到達目標】											
<p>1：スワヒリ語の基本文法を総合的に理解する                  2：習得した文法事項や文型を自分で文に組み立てて話すことができる                  3：短い日常会話の流れ全体を把握して、その内容を要約できる                  4：東アフリカの文化や社会に関する知識を深める</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション / 第1～10課の復習                  第2回 第11課 / 時間                  第3回 第12課 / 指示詞                  第4回 第13課 / 使役                  第5回 第14課 / 条件節                  第6回 関係節                  第7回 第15課 / 受身                  第8回 第11～15課の復習と補足説明                  第9回 第16課 / 相互形                  第10回 第17課 / 仮想時制                  第11回 第18課 / 複合時制                  第12回 第19課 / ことわざ・なぞなぞ                  第13回 第20課 / 手紙の書き方                  第14回 第16～20課の復習と補足説明                  第15回 期末試験                  第16回 フィードバック                  なお、授業の進度は適宜調整する</p>											
----- スワヒリ語(中級)(語学)(2)へ続く -----											

## スワヒリ語（中級）(語学)(2)

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

予習・復習状況などの平常点（30％）、期末試験の結果（70％）により、総合的に判断する。なお、3分の2以上の出席率を必須とし、それに満たない場合は授業放棄とみなす。

### 【教科書】

竹村景子 『ニューエクスプレス+ スワヒリ語』（白水社）ISBN:978-4-560-08805-0

### 【参考書等】

（参考書）  
授業中に紹介する

### 【授業外学修（予習・復習）等】

教科書の各レッスンの予習・復習は必須とする。  
各レッスンのスキットについては、予め付属のCDを聴いておくこと。  
文法事項についての補足プリントや練習問題のプリントは授業中に配布する。  
練習問題で宿題となったものについては、次週までに予習・復習をしておくこと。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系36

科目ナンバリング		G-LET30 67331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 太郎丸 博 文学研究科 准教授 丸山 里美			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		社会調査入門(社会調査士科目A)									
【授業の概要・目的】											
本講義では、社会調査の意義と限界、さまざまな方法、およびそれらに関する基本的事項を学ぶ。質的調査と量的調査の両方を含む。社会調査士科目全体への入門に当たる。											
【到達目標】											
社会調査の基本的考え方、および質的調査と量的調査の代表的な方法について理解する。											
【授業計画と内容】											
前半 7回を太郎丸、後半 8回を丸山が担当する。 1.社会調査とは何か 2.社会調査史と調査倫理 3.質的調査と量的調査 4.インタビュー調査とその事例(1) 5.インタビュー調査とその事例(2) 6.フィールドワークとその事例(1) 7.フィールドワークとその事例(2) 8.メディア分析とその事例(1) 9.メディア分析とその事例(2) 10.歴史資料の数量分析とその事例(1) 11.歴史資料の数量分析とその事例(2) 12.既存統計の利用法とその事例 13.質問紙調査とその事例(1) 14.質問紙調査とその事例(2) 15.社会調査の設計											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
レポート											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											



社会学(特殊講義)(2)

**[教科書]**

授業中に指示する

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

授業で取り上げるいずれかの方法により、自分で調査を設計して実施する。

**(その他(オフィスアワー等))**

他の社会調査士科目も受講することが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET30 67331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 Stephane Heim			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		産業と労働社会学									
【授業の概要・目的】											
<p>産業と労働は、社会や経済の中で重要な役割を担っている。先進国において、18世紀から20世紀にかけて資本主義と製造業が大きな成長をとげ、現在は国際化とサービス産業が拡大され、さらに労働市場と雇用システムに様々な変化が起こっている。労働はモノやサービスを生産する経済的役割を果たしていると思われがちだが、社会的にはそれだけとは言えない。産業と労働は政治、市場、教育、社会階層などにも影響を与える。</p> <p>本授業では、「経済社会学」の観点から、労働と産業の経済・社会・政治的役割を考察する。日本の労働市場と雇用システム、欧州連合と労働問題、自動車産業の労働市場形成、サービス産業と就業形態の多様化、賃労働と福祉レジームの変化、などのケーススタディにおいて、産業と労働の社会的形成とその役割を学ぶことを目的とする。</p>											
【到達目標】											
本授業では、様々な事例を取り上げ、ディスカッションを交えながら産業・労働社会学の基本的な知識が得られる。											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 産業と労働社会学のアプローチ</p> <p>第2回 雇用システムと労使関係</p> <p>第3回 企業内労働市場の形成</p> <p>第4回 日本型雇用システム</p> <p>第5回 日本労働市場の形成</p> <p>第6回 日本労働市場の変容</p> <p>第7回 賃金格差と社会階層の変化</p> <p>第8回 サービス産業の展開と就業形態の多様化</p> <p>第9回 賃労働と福祉レジームの形成・課題</p> <p>第10回 失業と非正規雇用の国際比較</p> <p>第11回 欧州連合単一市場の形成と労働問題</p> <p>第12回 フランスの雇用システム・賃金・労使関係</p> <p>第13回 自動車産業と労働市場の国際比較</p> <p>第14回 授業のまとめ</p> <p>第15回 フィードバック</p>											
<p>受講生の関心により内容を変更することもある。</p>											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

**[履修要件]**

特になし

**[成績評価の方法・観点]**

平常点とレポートによる

**[教科書]**

授業中に指示する

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

講義で使用する説明資料は事前に配布します。授業までに読んでください。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系38

科目ナンバリング		G-LET30 67331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 田中 紀行			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		後期近代の政治・経済・文化(ドイツ書講読)									
【授業の概要・目的】											
<p>前期に続いて「後期近代」の政治・経済・文化の構造的諸問題を論じたアンドレアス・レクヴィッツの近著のいくつかの章(ないし節)を精読し、現代の先進社会に共通する諸問題がドイツではどのように論じられているのか、日本とも比較しながら考察する。テキストの著者レクヴィッツは現在ドイツにおいて最も注目を集めている社会学者の一人で、現代社会論や文化社会学の分野で高く評価されている。</p> <p>受講者は毎回1人ずつ自分の担当箇所(1回につき1ページから2ページ程度)について日本語訳と用語解説等を用意し、レジュメを配布して報告する。他の出席者も予習してきた上で報告内容について検討する。</p>											
【到達目標】											
<p>ドイツ語の社会学文献の読み方を習得するとともに、現代社会への社会的アプローチについて学習する。辞書を引きながら独力で社会学のドイツ語文献を正確に読解できる能力の習得を目標とする。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション 授業の趣旨説明、テキストの紹介、担当者の割り当て等。</p> <p>第2回～第14回 テキストの輪読 毎回約1～2ページずつ読み進める(分量は受講者の語学力に応じて調整する)。</p> <p>第15回 まとめ 学習した重要な事項について総括する。</p>											
【履修要件】											
<p>前年度までにドイツ語の授業を少なくとも初級、できれば中級まで履修していること。社会学の知識は必要ない。また、後期からの受講も可能である。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>基本的には平常点(報告レジュメ)によって評価する。ただし、受講生が多い場合には試験を実施することもある。</p>											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

**[教科書]**

Andreas Reckwitz 『Das Ende der Illusionen. Politik, Ökonomie und Kultur in der Spätmoderne』 ( Suhrkamp Verlag, 2019 ) ISBN:978-3-518-12735-3 ( 授業で取り上げる章のコピーを配布する。 )

**[参考書等]**

( 参考書 )  
授業中に紹介する

( 関連URL )

[https://www.suhrkamp.de/buecher/das\\_ende\\_der\\_illusionen-andreas\\_reckwitz\\_12735.html](https://www.suhrkamp.de/buecher/das_ende_der_illusionen-andreas_reckwitz_12735.html)(出版社によるテキストの紹介サイト)

**[授業外学修(予習・復習)等]**

受講者には毎回読み進める箇所を予習してくることが求められる。

( その他(オフィスアワー等) )

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET30 67331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		関西学院大学 社会学部 教授 奥村 隆			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		知と境界性・周縁性・他者性									
【授業の概要・目的】											
<p>この講義では、「知と境界性・周縁性・他者性」というテーマを軸として、知・知識・知識人と社会の関係を考える。エドワード・サイードは『知識人とは何か』で、「知識人とは亡命者にして周縁的存在であり、またアマチュアであり、さらには権力に対して真実を語ろうとする言葉の使い手である」と述べている。たとえば1929年の『イデオロギーとユートピア』で「知識社会学」をはじめて展開したカール・マンハイムはハンガリーからドイツへの亡命者だったし（さらにイギリスに二重亡命した）、1933年のナチスの政権奪取によって多くの知識人がヨーロッパ大陸からアメリカやイギリスに亡命し、そこで新たな知的活動を開始した。彼らは社会のどこに生きてその「知」を生産したのか。「知」とは彼らにとってなんだったのか。この講義では、前半でこうした亡命者＝知識人について検討を進めてみたい。後半では「創造性」をめぐるインターミッションをはさんだのち、ふたつの社会の間に生きた「境界人」としてのモーツァルト、漂泊を論じた柳田国男、転向を論じた鶴見俊輔などの日本の知識人について考え、私たちにとって「知」をはなにか、を考える手がかりをつかむことができればと思う。授業計画は準備の状況によって変更がありうる。</p>											
【到達目標】											
<p>社会のなかに生きた知識人たちの事例を知ることを通して、知識と社会の関係についての社会的な理解を修得するとともに、レポート作成によって具体的な事例を踏まえて「知識」について自ら考える能力を身につける。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション 大渦のなかの漁師</li> <li>2. ふたりの知識人 ロバート・ベラーと丸山眞男</li> <li>3. 亡命と知識社会学 カール・マンハイム</li> <li>4. 「文明化」の過程 ノルベルト・エリアス(1)</li> <li>5. 身体・暴力・スポーツ ノルベルト・エリアス(2)</li> <li>6. アメリカへの亡命者たち ラザースフェルドとアドルノ</li> <li>7. ナチズムの社会心理 アドルノとフロム</li> <li>8. 「悪の陳腐さ」と「複数性」 ハンナ・アーレント</li> <li>9. 不調和からの創造性 シェイクスピアとベイトソン</li> <li>10. 境界人としてのモーツァルト 『フィガロの結婚』</li> <li>11. ふたつの赦しなき世界 『ドン・ジョヴァンニ』と『コジ・ファン・トゥッテ』</li> <li>12. 漂泊と定住 柳田国男</li> <li>13. 「転向」の知識社会学 鶴見俊輔</li> <li>14. むすびにかえて 反知性主義の時代に</li> <li>15. フィードバック</li> </ol>											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 社会学(特殊講義)(2)

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

期末レポート70%、授業時のコメントペーパー30%。

### 【教科書】

使用しない

### 【参考書等】

(参考書)

奥村隆 『エリアス・暴力への問い』(勁草書房) ISBN:4-326-65253 (2001年)

奥村隆 『反コミュニケーション』(弘文堂) ISBN:978-4335501357 (2013年)

奥村隆 『社会学の歴史 社会という謎の系譜』(有斐閣) ISBN:978-4-641-22039-3 (2014年)

奥村隆 『社会はどこにあるか 根源性の社会学』(ミネルヴァ書房) ISBN:978-4623080205 (2017年)

奥村隆 『反転と残余 社会の他者 としての社会学者』(弘文堂) ISBN:978-4623080205 (2018年)

奥村隆 『慈悲のポリティクス モーツァルトのオペラにおいて、誰が誰を赦すのか(仮題)』(岩波書店)(近刊予定)

上記以外の参考文献は授業時に指示する。

### 【授業外学修(予習・復習)等】

予習は不要。講義で指示する参考文献、とくに興味をもった知識人の著作を読むことが望ましい。期末レポート作成には検討対象となる文献を精読するなど、早い時期からの準備が必要となる。

### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系40

科目ナンバリング		G-LET30 67331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		関西学院大学 社会学部 教授 奥村 隆			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		社会学の理論的思考法									
【授業の概要・目的】											
<p>社会学固有の理論的思考法とはいかなるものか。この授業では、これをふたつのアプローチから検討していく。第一に、20世紀に新たな理論的地平を切り開いた4人の社会学者、アーヴィング・ゴフマン、ミシェル・フーコー、ピエール・ブルデュー、ニクラス・ルーマンについて担当者が話題提供し、その思考法について議論する。第二に、受講生が現在自分が進めている研究の内容について報告し、それを素材にしてどのようにすれば社会学的思考法を実践できるかを、担当者のコメントを踏まえて討論していく。このふたつのバランス、および以下の授業計画は、受講生の人数や希望によって変更がありうる。</p>											
【到達目標】											
<p>20世紀の社会学者の理論的検討および受講生の研究の実践的検討を通して、社会学の理論的思考法を修得し、自らの研究に応用できる能力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 社会学における「世代」</li> <li>3. アーヴィング・ゴフマンの思考法</li> <li>4. 研究報告と討論(1)</li> <li>5. 研究報告と討論(2)</li> <li>6. ミシェル・フーコーの思考法</li> <li>7. 研究報告と討論(3)</li> <li>8. 研究報告と討論(4)</li> <li>9. ピエール・ブルデューの思考法</li> <li>10. 研究報告と討論(5)</li> <li>11. 研究報告と討論(6)</li> <li>12. ニクラス・ルーマンの思考法</li> <li>13. 研究報告と討論(7)</li> <li>14. 研究報告と討論(8)</li> <li>15. フィードバック</li> </ol>											
【履修要件】											
<p>自らのテーマでの研究(修士論文、博士論文、投稿論文など。準備段階でもかまわない)を進めており、この授業でその内容について報告を行うことが可能なこと。また、同担当者の「社会学(特殊講義)」(前期)を受講していることが望ましい(履修要件とはしない)。</p>											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											



社会学(特殊講義)(2)

**[成績評価の方法・観点]**

授業内での報告・発言60%、期末レポート40%。

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

授業内での研究報告、期末レポートのために、十分な準備が必要となる。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系41

科目ナンバリング		G-LET30 67331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 金澤 悠介			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		基本的な統計資料とデータの分析(社会調査士科目C)									
【授業の概要・目的】											
この講義では、社会調査や官庁統計などで得られたデータ(数量的データ)を分析する際に必要となる、基礎的な統計学の知識(記述統計)を教えます。具体的には、数量的データの特徴とその作成方法について簡単に解説した上で、一変数の情報を記述する方法(度数分布表、代表値、散布度の指標、ジニ係数、箱ひげ図など)、二変数間の関係を分析する方法(クロス集計表、相関係数、回帰分析など)を解説していきます。なお、本講義は社会調査士科目Cに対応する科目です。											
【到達目標】											
本講義の到達目標は以下の4つです。 01. 数量的データの特徴とその分析方法を理解する 02. 一変数の情報を適切に記述する方法(度数分布表、代表値、散布度の指標など)を理解する。 03. 二変数の関係を適切に分析する方法(クロス集計表、相関係数など)を理解する。 04. 1~3をつうじて、統計分析を含んだ情報(マスコミ・専門論文)を適切に評価できるようになる。											
【授業計画と内容】											
基本的に以下の授業内容を組んでいます。ただし受講生のスキル、理解度に応じて順序や回数を変えることがあります。											
01. なぜ統計学を学ぶのか?(社会調査と統計分析、市民的教養としての統計学) 02. データのとりかたI:社会調査の概要(量的調査と質的調査) 03. データのとりかたII:量的調査法の基本発想(量的調査と統計学の関係) 04. データのとりかたIII:量的調査の方法(調査票とデータセットの作成) 05. データのもつ情報をまとめるI:度数分布表と代表値(平均値、中央値、最頻値) 06. データのもつ情報をまとめるII:散布度の指標(分散、標準偏差、四分位偏差) 07. 分布を比較する(標準化、偏差値、ジニ係数、箱ひげ図) 08. 2つの変数の関係を分析するI:変数の関係とは?(変数間の関連の意味、相関関係と因果関係) 09. 2つの変数の関係を分析するII:二重クロス集計表 10. 2つの変数の関係を分析するIII:属性相関の指標(オッズ比、ファイ係数、クラマーのV) 11. 2つの変数の関係を分析するIV:相関係数(散布図、ピアソンの積率相関係数) 12. 2つの変数の関係を分析するV:単回帰分析 13. 擬似相関と変数の統制I:擬似相関と変数の統制(擬似相関、変数の統制、三重クロス集計表、偏相関係数) 14. 擬似相関と変数の統制II:因果関係について推論する(因果推論、実験とリサーチデザイン) 15. より高度な統計分析に向けて:推測統計学と多変量解析											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業中に出す課題（45点＝15点×3回）と期末レポート（55点）で成績を評価します。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）

廣瀬毅士・寺島拓幸 『社会調査のための統計データ分析』（オーム社）ISBN:4274067637

神林博史 『1歩前からはじめる「統計」の読み方・考え方』（ミネルヴァ書房）ISBN:4623075702

久米郁男 『原因を推論する－政治分析方法論のすゝめ』（有斐閣）ISBN:4641149070

【授業外学修（予習・復習）等】

予習は基本的に必要ありませんが、統計ソフトを用いた実習（Excelなど）を含むので、適宜課題に応じて復習が必要となります。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系42

科目ナンバリング		G-LET30 67331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 牟田 和恵			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		性暴力・セクハラとジェンダー									
【授業の概要・目的】											
<p>日本でのセクシュアル・ハラスメント（セクハラ）の問題化から30年以上が経過し防止の制度化も進んだ。また、2017年以降の#MeToo運動によってセクハラや性暴力問題への関心は一定広がったと言える。しかし、実際のところ、セクハラや性暴力についての現実的な理解はいまなお進んでおらず、法的・社会的取り組みも遅々たるものである。</p> <p>講義ではこうした状況について理解を深め、その背後・深層にあるものは何かを考えていく。</p>											
【到達目標】											
性暴力やセクハラ問題について深く理解できる。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 「性暴力」とは何か(1)</li> <li>3. 「性暴力」とは何か(2)</li> <li>4. 「性暴力」とは何か(3)</li> <li>5. 「性暴力」とは何か(4)</li> <li>6. 性表現と性暴力(1)</li> <li>7. 性表現と性暴力(2)</li> <li>8. 性表現と性暴力(3)</li> <li>9. 性表現と性暴力(4)</li> <li>10. 性表現と性暴力(5)</li> <li>11. セクハラ：問題化の歴史と現在(1)</li> <li>12. セクハラ：問題化の歴史と現在(2)</li> <li>13. セクハラ：問題化の歴史と現在(3)</li> <li>14. セクハラ：問題化の歴史と現在(4)</li> <li>15. セクハラ：問題化の歴史と現在(5)</li> </ol> <p>詳しい授業スケジュールは開講時に示すが、受講生の反応を見ながら進めていく。</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 社会学(特殊講義)(2)

### [成績評価の方法・観点]

平常点（毎回のコメントカードによる）(40%)と、期末レポート(60%)によって評価する。

### [教科書]

使用しない

### [参考書等]

（参考書）

牟田和恵編 『架橋するフェミニズム---歴史・性・暴力』（松花堂書店、2017）ISBN:978-4-87974-740-2（無料電子書籍版 [info:doi/10.18910/67844](https://doi.org/10.18910/67844)）

牟田和恵 『部長、その恋愛はセクハラです！』（集英社、2013）ISBN:978-4-08-720696-8（電子版もあります）

そのほかの参考文献は授業中に紹介します。

### [授業外学修（予習・復習）等]

参考文献を読み授業に備えること。

### （その他（オフィスアワー等））

講義テーマの性格上、暴力的な表現や事件を授業で取り上げることがあります。文脈がよくわかるような提示の仕方をしますが、見たくない方は退出してかまいません。それが評価に関わることは一切ありません。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系43

科目ナンバリング		G-LET30 67331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		滋賀大学データサイエンス学部 伊達 平和 准教授			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		社会調査の意義と作法（社会調査士科目B）									
【授業の概要・目的】											
質問紙調査は、社会に関するデータ収集の方法として、官民間問わず多くの現場で必要不可欠なものとなっているが、正しい方法を理解していないと求める結果を得ることはできない。また、標本調査に関する正しい知識は、他人の論文・レポートを読む際に必要不可欠である。本授業では、標本調査を適切に実施し、正しい結論を得ることができるようになることを目的とする。授業内で質問票の作成を行いGoogle form, ExcelとRを利用する。											
【到達目標】											
標本調査を実施するために必要となる、調査設計・標本抽出・調査票作成・データ収集・データ集計・結果解釈の手法を理解できることを到達目標とする。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 イントロダクション</li> <li>2 社会調査の基礎知識 : 質的調査と量的調査</li> <li>3 社会調査の基礎知識 : 調査の手順と調査の設計</li> <li>4 文献調査と統計調査</li> <li>5 理論仮説と作業仮説</li> <li>6 調査票の構成と質問文の作り方</li> <li>7 質問票を用いた様々な測定方法の紹介 : 社会編</li> <li>8 質問票を用いた様々な測定方法の紹介 : 心理編</li> <li>9 Google formを用いた質問票の作成実習</li> <li>10 Google formを用いた質問票の作成実習</li> <li>11 サンプルングと標本誤差</li> <li>12 調査実務 : 予算管理、プリテストと実査、調査票の配布と回収</li> <li>13 調査データの整理 : コーディングとクリーニング</li> <li>14 Rを用いた集計と結果の解釈</li> <li>15 Rを用いた集計と結果の解釈</li> </ol>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
中間でレポート（30%） + 最終のレポート試験（50%） + 平常点（20%）を基本とするが、授業の進度に応じて調整をする可能性がある。											
【教科書】											
伊達平和・高田聖治 『社会調査法』（学術図書出版）ISBN:978-4-7806-0704-8											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

---

**[参考書等]**

(参考書)  
社会調査関係の多くの教科書が出版されている。授業中に紹介する。

**[授業外学修(予習・復習)等]**

Google form, ExcelとRを利用した実習を行う。実習は授業内でも行うが、授業外での復習が必要不可欠である。

**(その他(オフィスアワー等))**

授業形態ならびに授業実施場所(情報処理の教室など)を変更する場合がありますので、大学からの連絡をこまめに確認すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系44

科目ナンバリング		G-LET30 67331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		教育学研究科 准教授 岡邊 健			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		社会調査における多変量解析の利用 (社会調査士科目E)									
【授業の概要・目的】											
量的な社会調査データの分析で用いる基礎的な多変量解析法の考え方とその利用方法について学習する。3元クロス表の分析(エラボレーション)、分散分析、重回帰分析、ロジスティック回帰分析等について、順次解説する。											
【到達目標】											
多変量解析の考え方と利用法を身につけ、それらを自身の研究課題と結びつけたうえで、統計ソフトウェアによる解析や結果の考察を行なうことができるようになる。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 統計ソフトウェアSPSSの操作の基本</li> <li>3. 推測統計の復習</li> <li>4. 2元クロス表と関連の指標</li> <li>5. 3元クロス表の分析(1) 見せかけの関係</li> <li>6. 3元クロス表の分析(2) 媒介変数による解釈</li> <li>7. 分散分析</li> <li>8. 相関と単回帰分析</li> <li>9. 重回帰分析(1) その基本</li> <li>10. 重回帰分析(2) 決定係数、偏回帰係数の検定</li> <li>11. 重回帰分析(3) ダミー変数、多重共線性</li> <li>12. ロジスティック回帰分析</li> <li>13. 回帰分析の総合演習</li> <li>14. 主成分分析</li> <li>15. 復習とまとめ</li> </ol>											
【履修要件】											
社会調査士科目 A B C D を履修していることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
授業期間中の提出物(20%) + 定期試験(50%) + 最終レポート(30%) これらにより、到達目標について、文学研究科の評価方針に従って評価する。											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											



社会学(特殊講義)(2)

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

授業の中では実際の調査データを用いた演習を行なうが、事後の復習がなければ習得は容易ではない。毎回の復習に、少なくとも1時間程度の時間は割いてほしい。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系45

科目ナンバリング		G-LET30 67331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		教育学研究科 教授 佐藤 卓己			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		メディア文化学概論									
【授業の概要・目的】											
<p>メディア論を中心に、現代社会における情報とコミュニケーションの変容を考察する。とくに、「メディア論とはメディア史である」という立場から、歴史社会学的な視点を重視する。具体的には以下3つの「通説」あるいは「常識」の批判的検討を中心に考察し、メディア論的思考の理解を深める。</p> <p>「メディアは、人々のコミュニケーションを豊かにする。」</p> <p>マス・コミュニケーション研究が戦時動員体制という20世紀パラダイムにおいて構築されてきた経緯を検討する。</p> <p>「世論を重視する政治が、正しい民主主義である。」 大衆社会における「輿論の世論化」を検討し、「世論の輿論化」の可能性を探る。</p> <p>「日本のメディアは特殊である。」 現代日本のメディア環境を、世界システムの同時代性の中で比較検討し、現代社会への批判的視座の獲得を目指す。</p>											
【到達目標】											
<p>メディア文化学の基本をなす比較メディア論の研究パラダイムがどのように形成されたかを理解しその視点から個別のメディアの歴史を吟味し、現代社会の合意形成システムを分析することができるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1-2回 メディア社会とは何か</p> <p>第3回 メディア史としてのコミュニケーション研究</p> <p>第4回 メディア都市の成立</p> <p>第5章 出版資本主義と近代精神</p> <p>第6回 大衆新聞の成立</p> <p>第7回 視覚人間の国民化</p> <p>第8回 宣伝のシステム化と動員のメディア</p> <p>第9回 ラジオとファシスト的公共性</p> <p>第10回 トーキー映画と総力戦体制</p> <p>第11回 テレビによるシステム統合</p> <p>第12回 情報化の未来史</p> <p>第13回 脱・情報社会へ</p> <p>第14回 総論・試験</p> <p>第15回 フィードバック</p>											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 社会学(特殊講義)(2)

### 【履修要件】

メディアに関心があり、情報への感度が高いこと。

### 【成績評価の方法・観点】

定期試験（80％）とコメントペーパーなど（20％）。定期試験の方式については、講義中に説明する。

### 【教科書】

佐藤卓己『現代メディア史 新版』（岩波テキストブックス）ISBN: 9784000289207（中国からの留学生は佐藤卓己『現代伝媒史』（北京大学世界伝播学経典教材中文版・ただし旧版の翻訳）北京大学出版社2004年を利用してよい。）  
佐藤卓己『メディア論の名著30』（ちくま新書）ISBN:9784480073525（メディア文化学を学ぶ上で基本となる文献を紹介、解説している。）

### 【参考書等】

（参考書）

佐藤卓己『ファシスト的公共性 総力戦体制のメディア学』（岩波書店）ISBN:9784000612609（メディア学をより深く学びたい人のために。）  
佐藤卓己『ヒューマニティーズ 歴史学』（岩波書店）ISBN: 9784000283229（メディア史＝メディア論の発想法について、参照のこと。）  
佐藤卓己『流言のメディア史』（岩波新書）ISBN:9784004317647（現代のメディア・リテラシーの実践のために。）  
佐藤卓己『メディア社会 現代を読み解く視点』（岩波新書）ISBN:9784004310228（『現代メディア史』のサブ・テキストとして一般向けに書かれたもの）

（関連URL）

<http://www.educ.kyoto-u.ac.jp/satolab/>(メディア文化論研究室HP)  
<https://satotakumi60.wixsite.com/mysite>(佐藤卓己研究室)

### 【授業外学修（予習・復習）等】

テキスト『現代メディア史 新版』各章の第一節、第二節を読んで授業に出席すること。各メディアについて『メディア論の名著30』の関連文献を中心に、発展的な学習を心掛けること。

（その他（オフィスアワー等））

メディア学の初学者は佐藤卓己『メディア社会 現代を読む視点』（岩波新書）を、歴史学の初学者は、佐藤卓己『ヒューマニティーズ 歴史学』（岩波書店）を、事前に読んでおくことが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系46

科目ナンバリング		G-LET30 67331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 吉田 純			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		情報ネットワーク社会論									
【授業の概要・目的】											
ハーバーマス、ギデンズ、ベック、ルーマンらの社会理論を枠組として、インターネット空間を中心とした情報ネットワーク社会の諸問題について考察する。											
【到達目標】											
現代の情報ネットワーク社会の諸問題について、社会学を中心とした学術的観点から理解できるようにする。											
【授業計画と内容】											
以下の計画で15週の講義をおこなう。											
1 オリエンテーション											
2 情報ネットワーク社会への視点											
3 日本社会の情報化 情報化の現代史(1)											
4 アメリカ社会の情報化 情報化の現代史(2)											
5 監視社会論 社会システムの情報化(1)											
6 リスク社会論 社会システムの情報化(2)											
7 経済システムの情報化 社会システムの情報化(3)											
8 ネット空間の展開 生活世界の情報化(1)											
9 再帰的近代化としての情報化 生活世界の情報化(2)											
10 生活世界のリアリティの再構築 生活世界の情報化(3)											
11 公共圏の情報化											
12 親密圏の情報化											
13 公共圏/親密圏の再編成											
14 情報ネットワーク社会論の再構築											
15. フィードバック (PandA上で実施)											
【履修要件】											
社会学関係の全学共通科目または学部での概論科目を履修していることが望ましい											
【成績評価の方法・観点】											
素点(100点満点)で評価する。											
・ 平常点(40点)+期末レポート(60点)											
・ 平常点は、PandAまたはTwitterを用いた課題の提出による (詳細はオリエンテーションで説明)											
・ 素点に基づき、到達目標の達成度を、文学研究科の評価基準に従って評価する											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

- ・ PandA上で事前配布する資料を予習しておくこと
- ・ 資料の当日配布は行わないので、必ず各自で事前にダウンロードし、講義当日持参すること(必ずしも印刷の必要はない)
- ・ PandAサイトで復習用課題を実施する(詳細は初回授業で説明)

**(その他(オフィスアワー等))**

PandAサイトを上記の課題実施ほか、授業に関する各種連絡に活用する(利用方法は初回の授業で説明)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系47

科目ナンバリング		G-LET30 67331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 佐藤 哲彦			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		言語をめぐる調査研究とディスコースの分析(社会調査士科目F)									
【授業の概要・目的】											
本講義は質的分析を行う方法に関するものである。とくに参与観察やインタビューなどの質的調査で得られたデータの分析方法について言語使用という根本的な観点から解き明かし、とくに社会学的研究で有用であるナラティブ分析やディスコース分析の特徴とその実践方法について検討する。それらを踏まえて質的分析の基礎を習得することが目的である。											
【到達目標】											
質的調査で得られたデータを分析する際の分析方法の基礎を習得すること。											
【授業計画と内容】											
第1回 質的調査と質的分析 第2回 どうして社会学において言語が調査研究の論点となるのか(1) 第3回 どうして社会学において言語が調査研究の論点となるのか(2) 第4回 言語をめぐる調査研究と倫理(1) 第5回 言語をめぐる調査研究と倫理(2) 第6回 質的調査の実践 第7回 参与観察とインタビューの分析(1) 第8回 参与観察とインタビューの分析(2) 第9回 ナラティブ分析(1):系譜と概要 第10回 ナラティブ分析(2):分析例の検討 第11回 ディスコース分析(1):系譜と概要 第12回 ディスコース分析(2):分析例の検討 第13回 ディスコース分析(3):分析例の検討 第14回 ディスコース分析(4):分析例の検討 第15回 まとめ											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
レポート(50%) 平常点(50%)											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

**[教科書]**

授業中に指示する

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

次の回の課題となる文献等を読んで、自分の考えをまとめておく。課題が出された場合には忘れずに行うこと。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系48

科目ナンバリング		G-LET30 67331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 溝口 佑爾			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		社会調査のための統計学(社会調査士科目D)									
【授業の概要・目的】											
<p>本講義は「社会調査士」資格取得のためのD科目(社会調査に必要な統計学に関する科目)に対応している。社会調査によって得られたデータを分析するために必要となる統計的な手法について、その原理と適用方法を修得することが本講義の目的である。確率分布とモーメント母関数に関する理解を下地とし、中心極限定理およびその応用としての推測統計(区間推定と仮説検定)について解説する。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会調査に必要な統計学の基礎を修得する。</li> <li>・統計解析がどのような原理に基づいているのかを理解する。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 データの縮約と記述統計 変数と尺度 データの縮約</p> <p>第2回-第8回 確率変数と確率分布 離散型の確率分布 確率変数 1変数の記述統計 2変数の記述統計 離散変数と連続変数 連続型の確率分布 正規分布と連続型の確率分布 モーメント母関数 大数の法則と中心極限定理 母集団と標本</p> <p>第9回-第14回 推測統計 推測統計の発想 区間推定 仮説検定 回帰分析と相関係数 重回帰分析 多変量解析の意義</p> <p>第15回 フィードバック</p>											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											



## 社会学(特殊講義)(2)

### 【履修要件】

高校卒業程度の数学の知識を有していることが前提である。

### 【成績評価の方法・観点】

定期試験（80％）と平常点（小テスト：20％）による。

### 【教科書】

盛山和夫 『社会調査法入門』（有斐閣）ISBN:978-4641183056

馬場敬之 『統計学キャンパス・ゼミ』（マセマ）ISBN:978-4866151021

### 【参考書等】

（参考書）

石井俊全 『意味がわかる統計学』（ペレ出版）ISBN:978-4860643041

石井俊全 『意味がわかる多変量解析』（ペレ出版）ISBN:978-4860643980

篠原清夫・榎本環・大矢根淳・清水強志 『社会調査の基礎：社会調査士A・B・C・D科目対応』（弘文堂）ISBN:978-4335551338

馬場敬之 『微分積分キャンパス・ゼミ』（マセマ）ISBN:978-4866151281

### 【授業外学修（予習・復習）等】

復習をして、分からないことがあれば次の授業時に遠慮なく申し出ること。

（その他（オフィスアワー等））

質問・連絡等はy.mizo@kansai-u.ac.jpまで。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET30 67331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 准教授 柴田 悠			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		人間行動論 ( Human Behavior )									
[授業の概要・目的]											
<p>この社会で「幸せに生きる」には、どうしたらいいのか？ 身近な人の「幸せをサポートする」には、どうしたらいいのか？ そして、「より多くの人々が幸せに生きられる社会」をつくるには、どうしたらいいのか？</p> <p>「幸せ」という概念は「本人がそうありたいと望む状態」として使われることが多い。そのため、上記の問いは、人間行動についての究極的な問いの一つといえる。</p> <p>そこで本講義では、上記の問いについての最新の研究成果や、担当教員による現在進行中の研究をふまえながら、受講者とともに上記の問いへの答えを考究する。 (なお、全学共通科目における同教員の前期「社会学I」・後期「社会学II」よりも「幸福」と「人間行動」に重点を置いた授業方針となるため、毎回の内容も視点が異なる。)</p>											
[到達目標]											
人間行動に関する問いについて、客観的に考察できるようになる。											
[授業計画と内容]											
<p>毎回、主に担当教員（柴田）の研究内容を、その背景となる先行研究なども含めて、順を追って詳しく紹介していく。</p> <p>その際、参考として以下の内容も必要に応じて紹介する（ただし授業回とテーマの対応は目安であり、受講者の状況などに応じて順番や内容を変更する可能性がある）。</p> <p>また、一方的な講義にならないように、全体討論やグループディスカッションなども適宜行う。</p>											
<p>第1回 研究とは何か</p> <p>第2回 現在の幸福研究（1）</p> <p>第3回 現在の幸福研究（2）</p> <p>第4回 どうしたら幸せに生きられるのか（1）遺伝子と行動 PDFテキスト第11章11.1～11.2</p> <p>第5回 どうしたら幸せに生きられるのか（2）環境と社会保障 PDFテキスト第11章11.3～11.5</p> <p>第6回 社会保障の起源（1） 『子育て支援と経済成長』第4章114～133頁（PDF配布）</p> <p>第7回 社会保障の起源（2） 『子育て支援と経済成長』第4章134～149頁（PDF配布）</p> <p>第8回 社会保障の効果（1） 「子どもの貧困と子育て支援」191～207頁（PDF配布）</p> <p>第9回 社会保障の効果（2） 「子どもの貧困と子育て支援」207～217頁（PDF配布）</p> <p>第10回 社会保障の未来（1） 内閣府「選択する未来2.0」講演資料（PDF配布）</p> <p>第11回 社会保障の未来（2） 内閣府「選択する未来2.0」講演資料（PDF配布）</p> <p>第12回 AIと社会の未来（1） 「不可知性の社会」244～260頁（PDF配布）</p> <p>第13回 AIと社会の未来（2） 「不可知性の社会」260～272頁（PDF配布）</p> <p>第14回 これからの社会をどう生きるか、どう変えるか</p> <p>第15回 フィードバック（詳細は授業中に説明）</p>											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 社会学(特殊講義)(2)

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

学期末レポート（100点満点）によって評価する。

### 【教科書】

使用しない

### 【参考書等】

（参考書）

柴田悠 『子育て支援が日本を救う 政策効果の統計分析』（勁草書房）ISBN:4326654007（社会政策学会の学会賞を受賞。日経新聞・朝日新聞・読売新聞などで書評・インタビューが掲載。）

柴田悠 『子育て支援と経済成長』（朝日新聞出版）ISBN:4022737069（朝日新書606。日経新聞・朝日新聞・読売新聞などで書評・インタビューが掲載。）

（関連URL）

<https://sites.google.com/site/harukashibata/profile>(教員紹介のページ)

### 【授業外学修（予習・復習）等】

予習は、次回に扱う文献が指定されていれば、それを事前に読んでおくこと。事前に文献を読んでいることを前提に講義を進める。文献が指定されていなければ、次回の内容と関連する本やニュース記事、ドキュメンタリー番組などをできるだけ通読・視聴しておくこと。また、学期末レポートの執筆にむけて、適宜学習を進めておくこと。

復習は、毎回の授業内容をふりかえり、関連情報を調べること。不明点については、講義中かPandAフォーラムで教員に質問すること。

毎回の予習・復習の時間配分は、予習120分（平均）、復習120分を目安とする。

（その他（オフィスアワー等））

総合人間学部、人間・環境学研究科、文学部と共通の授業。

履修人数をグループディスカッションに適した人数に制限する可能性がある。

また、Zoomを用いたリアルタイムのオンライン授業を行う場合は、履修者全員がそれに参加可能な通信環境（例：通信容量制限なしに安定したビデオ通話ができる環境）にあることを前提に授業を進める。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系50

科目ナンバリング		G-LET30 67331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 落合 恵美子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Asian Families and Intimacies: Intra-regional Diversity and Transcultural Dynamics									
【授業の概要・目的】											
<p>To date, the research work of Asian scholars on their respective societies has typically been relayed to other areas of Asia through European and North American academic circuits. This mediated communication has not only produced a significant distortion in focus, but has also resulted in a failure to appreciate the shared intellectual heritage of the different societies of the Asian region as well as the differences of emphasis and orientation among them. The ‘ Asian Families and Intimacies ’ series, the textbook used in this course, has been planned by the Asian researchers from 9 societies who have been collaborating with Kyoto University Asian Studies Unit (KUASU) for years as the first realization of a larger project, entitled ‘ Asian Intellectual Heritage ’, designed to collect, translate and share important and influential writings that are key texts of the academic and intellectual heritage of societies across Asia. The editors have decided to launch this ambitious project with a series on families and intimacies because ‘ the family ’ has typically been attributed a special cultural value in Asian societies.</p> <p>This course will enable students with diverse backgrounds to engage directly and unmediatedly with the insights into the key issues of our times from the ‘ insiders ’ perspective ’ of Asian intellectuals and provide them chances to discuss with each other and contribute to imagining the foundation on which future collaborations across the Asian region can be built.</p>											
【到達目標】											
<p>(1) To learn about the shared intellectual heritage of the different societies of the Asian region as well as the huge historical and contemporary diversity both in theory and in practice.</p> <p>(2) To liberate ourselves from Orientalism and self-Orientalism so as to better understand ourselves and our neighbours and redefine our and their places in a changing world.</p> <p>(3) To understand the varying and intersecting processes of ‘ Sinicization ’, ‘ Sanskritization ’, ‘ Modernization ’, and ‘ Globalization ’ across the Asian region as well as more local transcultural dynamics.</p> <p>(4) To learn about changes in the family and intimate relations which are of deep and pressing concern in the Asian region today.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>0. Introduction [1 week]</p> <p>1. Families, Ideologies and the States [2 weeks]</p> <p>2. Varieties of Patriarchy and Patrilineality [2 weeks]</p> <p>3. Sexual Modernities and Transforming Intimacy [2 weeks]</p> <p>4. Marriage Formation [2 weeks]</p> <p>5. Care and Familialism Reconsidered [2 weeks]</p>											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 社会学(特殊講義)(2)

6. Gender Roles and Identities [2 weeks]

7. Conclusion [1 week]

8. Feedback [1 week]

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

Oral presentation (30%), final report (40%), participation (30%).

### 【教科書】

OCHIAI Emiko and Patricia UBEROI eds. 『Asian Families and Intimacies』 ( Sage, 2021 )  
' Asian Families and Intimacies ' (4 volumes) edited by the researchers from nine Asian societies (Thailand, Korea, India, Vietnam, Japan, the Philippines, Taiwan, China and Indonesia) and published from Sage in 2021.

1. Family Ideology [edited by Thanee WONGYANNAVA (Thammasat University, Thailand)]

2. Patriarchy [edited by EUN Kisoo (Seoul National University, South Korea)]

3. Sexuality [edited by Patricia UBEROI (formerly, Institute of Economic Growth, Delhi, India)]

4. Marriage [edited by NGUYEN Huu Minh (Vietnamese Academy of Social Sciences)]

5. Care Regimes [edited by OCHIAI Emiko (Kyoto University, Japan)]

6. Gender [edited by Carolyn SOBRITCHEA (University of The Philippines)]

### 【参考書等】

( 参考書 )

### 【授業外学修 ( 予習・復習 ) 等】

The participants are expected to spend a certain amount of time outside of this class reading the textbooks and preparing for the oral presentations.

### ( その他 ( オフィスアワー等 ) )

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系51

科目ナンバリング		G-LET30 67331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 安里 和晃			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Title Fieldwork and Qualitative Research of Japanese Society									
【授業の概要・目的】											
<p>This course is to examine concepts representing Japanese society, economy and governance through previous research and fieldwork. Even though we perceive various concepts on society, economy and governance through media and internet, it is often the case there is a gap between concept and reality when you go to the field. This class takes up various concepts on qualitative research such as field work, ethnography, focus group discussion, action research and so forth. Field visit is also expected such as Buraku community, welfare institution and public schools in the city.</p>											
【到達目標】											
<p>To be able to conceptualize society through primary data gathering in Kyoto. This class requires field research within Kyoto to conceptualize Kyoto itself so that students can grasp Kyoto by collecting data and interpreting what is going on through field visit.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>The organization of course is as follows.</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. introduction</li> <li>2. qualitative research (1)</li> <li>3. qualitative research (2)</li> <li>4. qualitative research (3)</li> <li>5. history and society (outcast community field visit)</li> <li>6. field visit to community</li> <li>7. diversity in Kyoto (field visit to migrant community center)</li> <li>8. listening and writing anthropology</li> <li>9. education in Japan (field visit to public schools)</li> <li>10. Japan as welfare society (field visit to welfare organization)</li> <li>11. Pandemic and Migration</li> <li>12. qualitative research and commitment(1)</li> <li>13. qualitative research and commitment(2)</li> <li>14. Presentation</li> <li>15. conclusion / feedback</li> </ol> <p>schedule may change due to scheduling.</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 社会学(特殊講義)(2)

### [成績評価の方法・観点]

reflection papers(50%) and term paper(50%).

### [教科書]

授業中に指示する

### [参考書等]

(参考書)

Corrigall-Brown, Catherine, 2020, *Imagining Sociology: An Introduction with Readings*, 2nd ed., Ontario: Oxford University Press Canada.

Marvasti, Amir, B., 2004, *Qualitative Research in Sociology*, London: Sage Publications.

Mirfakhraie, Amir, 2019, *A Critical introduction to Sociology: Modernity, Colonialism, Nation-Building, Post-Modernity*, Dubuque: Kendall Hunt Publishing Company.

Scheper-Hughes, Nancy, 1995, "The Primacy of the Ethical: Propositions for a Militant Anthropology," *Current Anthropology*, 36(3): 409-440.

Scheper-Hughes, Nancy, 2009, "The Ethics of Engaged Ethnography: Applying a militant Anthropology in Organs-Trafficking Research," *Anthropology News*: 13-14.

Francis, Nyamnjoh, B., 2015, "Beyond an evangelising public anthropology: science, theory and commitment," *Journal of Contemporary African Studies*, 33 (1): 48- 63.

### [授業外学修(予習・復習)等]

readings and reaction comments are important.

### (その他(オフィスアワー等))

Please make an appointment through the email below.

asato.wako.4c(@)kyoto-u.ac.jp

(@) indicates @.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系52

科目ナンバリング		G-LET30 67331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 安里 和晃			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Welfare Regime and Cross-Border Migration									
【授業の概要・目的】											
<p>This course will discuss how welfare regimes intertwine with migration regimes in the process of rapid economic development and demographic change in Asian countries. One of the features of the Asian economic miracle was not only utilizing the demographic dividend and high educational attainment of its labor force, but also accepting migrants, domestic workers in particular, to facilitate the participation of local women in the labor market. From the social policy side, liberal familism in Asian countries justified maintenance of “ family value ” and the commercialization and externalization of reproductive work by recruiting foreign domestic worker as an extra family member. Sometimes this familism triggered cross border marriage for the formation of family welfare and this became the foundation of multiculturalism in some societies. In the process of demographic ageing, some Asian countries also borrowed institutional frameworks of welfare states in Europe such as Korea, Japan, and Taiwan. Therefore, divergence of welfare regime of Asian countries is observed.</p>											
【到達目標】											
<p>Students will receive basic instruction on welfare policy, migration policy and related policies in Asian countries.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>A detailed plan for each class may be changed depending on the participants. The contents of the course include the following classes.</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Economic development in Asia</li> <li>2. Demographic change</li> <li>3. Diversity of political system</li> <li>4. Development and migration</li> <li>5. Feminization of labor and migration</li> <li>6. Ageing and migration</li> <li>7. Population policy and marriage migration</li> <li>8. Social integration/multicultural policy</li> <li>9. Logic of human rights and migration</li> <li>10. Policy of sending countries</li> <li>11. International labor market formation</li> <li>12. International collaboration and mutual benefit</li> <li>13. Welfare Regime / Familism</li> <li>14. Pandemic and migration</li> <li>15. Conclusion</li> </ol>											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											



## 社会学(特殊講義)(2)

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

reflection paper (50%) and term paper (50%).

### 【教科書】

授業中に指示する

### 【参考書等】

(参考書)

Goodheart, David, 2017, The Road to Somewhere: The Populist Revolt and the Future of Politics, London: Hurst & Co.

Hundt, David and Uttam Jitendra, 2017, Varieties of Capitalism in Asia: Beyond the Developmental State, London: Mcmillan Publishers.

Kim, Mason M.S., 2015, Comparative Welfare Capitalism in East Asia: Productivist Models of Social Policy, London: Macmillan Publishers.

Lan, Pei-Cha, 2006, Global Cinderellas: Migrant Domestic Workers and New Rich Employers in Taiwan, Durham and London: Duke University Press.

Parre#241as, Rhacel, S., 2001, Servants of Globalization: Women, Migration, and Domestic Work, Stanford: Stanford University Press.

Steger, Manfred B., 2014, " Approaches to the study of globalization, " Steger Mandred, Paul Battersby and Joseph Siracusa, eds., The SAGE Handbook of Globalization, London: Sage Publications Inc., 7-22.

### 【授業外学修（予習・復習）等】

reaction papers.

### （その他（オフィスアワー等））

Please make an appointment through the email below.

asato.wako.4c(@)kyoto-u.ac.jp

(@) indicates @.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系53

科目ナンバリング		G-LET30 67331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures) nbsp				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 安里 和晃			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		人の国際移動と移民研究（フィリピン研修）									
【授業の概要・目的】											
この授業では、外国人労働者や移民といった「人の国際移動」に関して、日本やアジア諸国、欧州諸国の現状を理解したうえで、最新の移民研究への知見を深める。人の国際移動については社会的関心が非常に高まっているが、さまざまな言説が存在し、現状把握が困難な分野である。現状と理論、双方への理解を深めたい。また、本授業では必須ではないが、移民の子を対象とした日本語学習支援も実施する。これは京都市内の小中学校における学習支援であり、多文化の現実に触れる。また、本支援参加者を対象としたフィリピン研修も行う予定である。											
【到達目標】											
人の国際移動は感情的な議論に陥りやすいが、エビデンスをもとに分析・解釈できるようになることを目標とする。また、グローバルな視点、ジェンダーの視点をはじめ、多角的に人の国際移動をとらえる能力を養う。											
【授業計画と内容】											
以下の点をおさえて授業を展開します。											
1．アジアの経済成長とその要因 Economic development in Asia											
2．人口構成の変化と国際移動 Demographic change and migration											
3．福祉レジームとケア Welfare regime and care											
4．開発と移住労働 development and migration											
5．女性の労働力化と移住労働 feminization of migration											
6．高齢化と移住労働 ageing and migration											
7．人口政策と結婚移民 population policy and marriage migration											
8．多文化共生・社会統合政策 social integration policy											
9．移民の諸権利とアクセス rights and access											
10．送り出し国の論理 logic of sending countries											
11．国際労働市場と斡旋メカニズム international labor market formation and global recruitment network											
12．国際協調体制の構築 international collaboration and mutual benefit											
13．パンデミックと移民 Pandemic and Migration											
14．移民社会とコミットメント・公共人類学 Diversity, commitment and public anthropology											
15．総括 Conclusion											
【履修要件】											
特になし											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 社会学(特殊講義)(2)

### [成績評価の方法・観点]

平常点40%、レポート60%

### [教科書]

使用しない

### [参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

安里和晃編著, 2018, 『国際移動と親密圏ーケア・結婚・セックス』京都大学出版会.

金春喜, 2020, 『「発達障害」とされる外国人の子どもたち フィリピンから来日したきょうだいをめぐる、10人の大人たちの語り』明石書店.

小島祥美, 2016, 『外国人の就学と不就学ー社会で「見えない」子どもたち』大阪大学出版会.

坪田光平, 2018, 『外国人非集住地域のエスニックコミュニティと多文化教育実践ーフィリピン系ニューカマー親子のエスノグラフィ』東北大学出版会.

三浦綾希子, 2015, 『ニューカマーの子どもと移民コミュニティ』勁草書房.

安里和晃, 2018-2021 「多様な福祉レジームと海外人材(連載)」『文化連情報』各号.

伊藤里枝子, 2014, 「JFC問題とは何か」JFCネットワーク編 『改正国籍法施行以後のジャパニーズ・フィリピノ・チルドレンの来日と就労』2013年度パルシステム東京市民活動助成調査報告書.

### [授業外学修(予習・復習)等]

毎回reflection paperを提出してもらう。

### (その他(オフィスアワー等))

please make an appointment in advance

asato.wako.4c(@)kyoto-u.ac.jp

(@) indicates @.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系54

科目ナンバリング		G-LET30 67331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 田中 紀行			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		後期近代の政治・経済・文化(ドイツ書講読)									
【授業の概要・目的】											
<p>「後期近代」の政治・経済・文化の構造的諸問題を論じたアンドレアス・レクヴィッツの近著のいくつかの章(ないし節)を精読し、現代の先進社会に共通する諸問題がドイツではどのように論じられているのか、日本とも比較しながら考察する。テキストの著者レクヴィッツは現在ドイツにおいて最も注目を集めている社会学者の一人で、現代社会論や文化社会学の分野で高く評価されている。</p> <p>受講者は毎回1人ずつ自分の担当箇所(1回につき1ページから2ページ程度)について日本語訳と用語解説等を用意し、レジュメを配布して報告する。他の出席者も予習してきた上で報告内容について検討する。</p>											
【到達目標】											
ドイツ語の社会学文献の読み方を習得するとともに、現代社会への社会的アプローチについて学習する。辞書を引きながら独力で社会学のドイツ語文献を正確に読解できる能力の習得を目標とする。											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション 授業の趣旨説明、テキストの紹介、担当者の割り当て等。</p> <p>第2回～第14回 テキストの輪読 毎回約1～2ページずつ読み進める(分量は受講者の語学力に応じて調整する)。</p> <p>第15回 まとめ 学習した重要な事項について総括する。</p>											
【履修要件】											
前年度までにドイツ語の授業を少なくとも初級、できれば中級まで履修していること。社会学の知識は必要ない。											
【成績評価の方法・観点】											
基本的には平常点(報告レジュメ)によって評価する。ただし、受講生が多い場合には試験を実施することもある。											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

**[教科書]**

Andreas Reckwitz 『Das Ende der Illusionen. Politik, Ökonomie und Kultur in der Spätmoderne』 ( Suhrkamp Verlag, 2019 ) ISBN:978-3-518-12735-3 ( 授業で取り上げる章のコピーを配布する。 )

**[参考書等]**

( 参考書 )  
授業中に紹介する

( 関連URL )

[https://www.suhrkamp.de/buecher/das\\_ende\\_der\\_illusionen-andreas\\_reckwitz\\_12735.html](https://www.suhrkamp.de/buecher/das_ende_der_illusionen-andreas_reckwitz_12735.html)(出版社によるテキストの紹介サイト)

**[授業外学修(予習・復習)等]**

受講者には毎回読み進める箇所を予習してくることが求められる。

( その他(オフィスアワー等) )

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET30 67331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 直野 章子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		記憶研究概説									
【授業の概要・目的】											
<p>この講義の目的は、記憶研究という新しい学際領域における主要な論点を、社会学的な関心に沿って検討することにある。記憶研究においては、記憶とは現在における過去の再構成であるという現在主義が主流であるが、他方で、過去の痕跡として記憶を捉える「記憶の存在論」とでもいえる立場がある。社会学的記憶研究においては、アルバックスの集合的記憶論を参照しながら記憶の社会的枠組みを分析するものが多数を占めるが、他方で、集団の記憶の持続性に着目して、社会の結束や維持のメカニズムとして集合的記憶を論じる研究もある。この講義では、記憶研究において「記憶」がどのように概念化されてきたのかを概観した後に、集合的記憶論とその現代的展開を検討する。その上で、記憶研究における中心的な論点の一つである「トラウマ記憶」について、具体例を交えながら社会学的に考察し、記憶研究における二つの立場の接合可能性について検討する。</p>											
【到達目標】											
<p>記憶研究における二つの理論的立場を理解したうえで、現代社会における記憶をめぐる論争を社会学的に考察することができるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下の計画に沿って講義を進める。ただし、講義や発表、ディスカッションの進み具合により、同一テーマの回数を変えることがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1：記憶研究という領域</li> <li>2：記憶の概念史（1）</li> <li>3：記憶の概念史（2）</li> <li>4：集合的記憶（1）</li> <li>5：集合的記憶（2）</li> <li>6：記憶の政治学（1）</li> <li>7：記憶の政治学（2）</li> <li>8：集団の記憶の伝承（1）</li> <li>9：集団の記憶の伝承（2）</li> <li>10：記憶の主体</li> <li>11：トラウマの概念史（1）</li> <li>12：トラウマの概念史（2）</li> <li>13：トラウマ記憶と社会（1）</li> <li>14：トラウマ記憶と社会（2）</li> <li>15：フィードバック</li> </ol>											
----- 社会学(特殊講義) (2)へ続く -----											

## 社会学(特殊講義) (2)

### [履修要件]

参照テキストは主に日本語のものを使うが、英語の文献も使用するため、英語論文の読解能力が必要となる。

### [成績評価の方法・観点]

担当文献の報告(30点)、討論への積極的な参加(20点)、レポート(50点)により評価する。レポートについては、到達目標の達成度に基づき評価する。  
3回以上授業を欠席した場合は、特別な理由がないかぎり、単位を認めない。

### [教科書]

授業中に指示する

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

### [授業外学修(予習・復習)等]

講義形式での解説と指定文献の発表、ディスカッションで授業を進めていくため、指定された文献を読んでおくこと(予習)が必須である。

### (その他(オフィスアワー等))

質問は授業後に行う、もしくは、事前にアポイントメントを取ってください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系56

科目ナンバリング		G-LET30 67331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 竹沢 泰子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		人種・エスニシティ論									
【授業の概要・目的】											
今年度は、アメリカ合衆国における多文化主義（マルチカルチュアリズム）、アイデンティティ・ポリティクス、ポスト・アイデンティティ、ブラック・ライヴズ・マター運動(BLMM)について考える。多文化主義は、その後教育分野等で実践され定着していくものの、1980年代90年代は大きな論争を巻き起こした。授業では、多文化主義の政治哲学的理念、多文化主義への批判、ポスト・アイデンティティの議論、マイノリティたちの抵抗表現、また2020年のBLMMから見直されている人種差別の実態などをとりあげる。アーティスト（芸術家）たちの作品や、動画やドキュメンタリーも一部使用する。対面を基本とするが、内容や日によってオンライン授業を行う。											
【到達目標】											
多文化主義の理念、それに対する批判、「人種」や「文化」に根差すアイデンティティについて基本的概念を理解する。またそれに抗するマイノリティの人々のアイデンティティ表現の多様なあり方を学ぶ。											
【授業計画と内容】											
第1回 授業概要 「多文化」の中身とアメリカの人種・エスニシティ											
第2回 「多文化主義」が生まれた背景と政策											
第3回 「多文化主義」の理念											
第4 - 6回 多文化主義をめぐる議論											
第7回 アートにみる多文化主義											
第8 - 9回 ポスト・アイデンティティをめぐる議論											
第10 - 11回 映画または動画の視聴											
第12回 アートに見る多文化主義への抵抗											
第13 - 14回 ブラック・ライヴズ・マター運動とその後											
第15回 まとめ 質疑応答											
【履修要件】											
人文系英語論文の基本的読解力											
【成績評価の方法・観点】											
出席・提出物・討論、40%											
発表 20%、学期末レポート40%											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											



社会学(特殊講義)(2)

**[教科書]**

指定論文（コピー・PDFなど）

**[参考書等]**

（参考書）

事前に受講予定者に配布する詳細なシラバスに記載

**[授業外学修（予習・復習）等]**

予習：毎週の課題論文を授業前に読んでおく。  
サマリーを授業中に提出。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーはアポイントメント制

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET30 67331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 上野 加代子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		リスク社会と児童虐待問題ー理想の家族はどこから来たのか									
【授業の概要・目的】											
<p>「子どもの命を守る」。これは近代社会においては至上の価値である。したがって虐待する親から子どもを守るという主張とそれにもとづいた実践は、とても良いことのようにみえる。養育者から子どもに致命的なダメージが及ぶ前に子どもを離すことが重要とされ、現に、米国をはじめとする児童虐待の防止対策を掲げている国では、この考えのもとに、通告を奨励することで虐待する養育者を突き止め、家族を調査し、子どもを避難させる虐待防止システムが作動している。日本もそういう諸外国の実践を学んできた。しかし、子どもの命を救うのか、否か、と私たちに迫る二者択一の論理には問題がないのだろうか。</p> <p>本授業では児童虐待問題を例に社会問題のたてられ方を社会構築主義の手法からみていく。そして、私たちの目の前に児童虐待として立ち現れている事象を階層、ジェンダー、エスニシティから分析する。</p>											
【到達目標】											
<p>(1) 社会問題の構築主義的な視点を理解することができ、他の社会問題の分析に応用できる。</p> <p>(2) 現行の日本の児童虐待防止制度への批判的視座を身につけることができる。</p> <p>(3) この講義を批判できる。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション 児童福祉から児童保護への陥穽</li> <li>2. モラルパニックと「例外状態」</li> <li>3. 児童虐待問題の台頭と変遷 米国</li> <li>4. 児童虐待と経済階層 米国</li> <li>5. 児童虐待問題の台頭 日本</li> <li>6. リスク社会と児童虐待</li> <li>7. 理想の子育て家族はどこから来たのか</li> <li>8. 児童虐待問題への対応の国際比較</li> <li>9. 揺さぶれっ子症候群をめぐる論争</li> <li>10. 親による虐待防止システムの経験</li> <li>11. 虐待の認否と家族再統合プログラム</li> <li>12. 一時保護を経験した子どものナラティブ</li> <li>13. 多文化主義と児童虐待</li> <li>14. ソーシャルハーム・アプローチの挑戦</li> <li>15. 承認の配分にむけて</li> </ol>											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 社会学(特殊講義)(2)

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

毎回の授業後に提出するコメント：40%

学期末のレポート：60%

### 【教科書】

・上野加代子, 2017. 「児童虐待防止対策の課題 子どもが一時保護になった親の経験から」人口問題研究所 『社会保障研究』 2(2・3): 263-278.

[http://www.ipss.go.jp/syoushika/bunken/sakuin/kikanshi/0202\\_03.htm](http://www.ipss.go.jp/syoushika/bunken/sakuin/kikanshi/0202_03.htm)

・上野加代子, 2016. 「『児童福祉から児童保護へ』の陥穽 ネオリベラルなリスク社会と児童虐待問題」日本犯罪社会学会 『犯罪社会学研究』 41: 62-78.

<https://ueno-kayoko.org/lab/wp-content/uploads/2017/10/201610.pdf>

上記以外の文献は授業中に紹介あるいは配布する予定です。

### 【参考書等】

(参考書)

ナンシー フレイザー・アクセル ホネット 『再配分か承認か?: 政治・哲学論争』 (法政大学出版局、2012年)

Hillyard, Paddy, Christina Pantazis, Steve Tombs and Dave Gordon(eds.) 『Beyond Criminology: Taking Harm Seriously』 (Pluto Press, 2004)

ジョルジョ アガンベン 『例外状態』 (未来社、2007年)

上野加代子 『児童虐待の社会学』 (世界思想社、1996年)

上野加代子・野村知二 『児童虐待の構築——捕獲される家族』 (世界思想社、2003年)

### 【授業外学修(予習・復習)等】

上記の指定文献2点(上野, 2016, 2017)のどちらかを授業までに読んでおいてください。

### (その他(オフィスアワー等))

不明点等がありましたら、メールでご連絡ください。

上野加代子

uenokayoko@lab.twcu.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET30 67334 LB45									
授業科目名 <英訳>		社会学 (特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 落合 恵美子 文学研究科 准教授 Stephane Heim			
配当 学年	1回生以上	単位数	3	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語及び英語
題目		東アジア社会論									
【授業の概要・目的】											
<p>「東アジア社会」についての理解を深めることを目的に、京都大学、台湾大学、ソウル大学の社会学科・社会学専修が共同で実施する授業であり、今年度は12年目となる。学期中の授業では、東アジア社会について3大学の教員が交替でスカイプ授業を行う。その後、京都、台北、ソウルのいずれかでワークショップとフィールドトリップを実施する（今年度は台北）。ワークショップでは、3大学から参加した学生が、各自の関心にしがたって英語で研究発表を行う。ホスト校の学生は、その社会をさまざまな角度から知ってもらうためのフィールドトリップを企画して実施する。国際的な遠隔授業と英語ワークショップの組合せという、全国にも類例のない授業であり、近隣の諸社会との共通性と相違を身をもって理解し、グローバルな活動経験を積む機会となる。国境を越えた友人ができることも楽しい収穫となるだろう。何年か続けて受講して3都市を回るリピーターも歓迎する。</p>											
【到達目標】											
<p>(1)東アジア社会、とりわけ台湾や韓国に関する文献を読み、講義を受け、フィールドトリップに参加することで、東アジアに関する全般的かつ経験的理解を深める。  (2)台湾大学、ソウル大学の学生たちとの直接の交流を通じて、隣国の同世代の人たちの関心、考え方、実力を知り、交流を深める。  (3)英語のプレゼンテーションを行い、質問の受け答えができるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回～第2回 イントロダクション  第3回～第8回 3大学の教員によるオンライン授業  第9回～第15回 各自の関心にしがたってパワーポイント資料を作成し、英語で発表練習を行う。</p> <p>8月お盆明けの5日間（予定） ワークショップとフィールドワーク  * 状況によってはオンライン開催に変更</p>											
【履修要件】											
英語での受講と研究発表に最低限必要な学力、もしくはチャレンジ精神をそなえていることが求められる。社会学専修以外の学生も履修できる。											
【成績評価の方法・観点】											
授業へのコミットメント（40%）、ワークショップとフィールドトリップへの積極的参加（30%）、英語でのプレゼンテーション（30%）により評価する。詳細は授業で説明する。											
----- 社会学（特殊講義）(2)へ続く -----											

## 社会学（特殊講義）(2)

### [教科書]

使用しない

### [参考書等]

（参考書）

各講義につき論文1本程度を指示する。Kulasisからダウンロードすること。

### [授業外学修（予習・復習）等]

各講義につき論文1本程度をあらかじめ読んでくる。各自の関心にしながら発表資料を作成する。

### （その他（オフィスアワー等））

詳細は最初の授業で説明する。

COVID-19の感染状況によってはワークショップをオンライン開催に変更することがありうるが、前年度もこの方式で開催することができたので、心配しないでください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET30 6M361 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 丸山 里美			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		質的調査の方法(専門社会調査士科目J)									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業では、質的調査の特徴や、質的調査をめぐる現代的な課題について学ぶ。今日において質的調査を実施するには、現場で経験する政治的社会的不正義への姿勢、個人の人権やプライバシーの尊重、対象者への成果の還元、書くことの権力性への自省など、判断することを求められる倫理的態度がある。また、質的調査で得られたデータの解釈をめくっても、異なる立場がありうる。これらの倫理的態度やデータ解釈をめぐる立場について、どのような議論がなされているかを、演習形式で検討する。それを通して、自ら質的調査を実施できるようになることが目的である。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 質的調査の特徴について説明できる</li> <li>・ 質的調査を実施することができるようになる</li> <li>・ 現代の質的調査が抱える課題について説明できる</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業の進め方、自己紹介</li> <li>2 質的調査とは何か</li> <li>3 質的調査の倫理(1) 基本的な姿勢</li> <li>4 質的調査の倫理(2) 倫理審査</li> <li>5 質的調査の現代的課題(1) 理論的背景</li> <li>6 質的調査の現代的課題(2) 書くことの政治</li> <li>7 質的データをいかに解釈するか(1)</li> <li>8 質的データをいかに解釈するか(2)</li> <li>9 質的データをいかに解釈するか(3)</li> <li>10 質的調査の代表的な成果(1)</li> <li>11 質的調査の代表的な成果(2)</li> <li>12 質的調査の代表的な成果(3)</li> <li>13 質的調査データの検討(1): フィールドノートの分析</li> <li>14 質的調査データの検討(2): トランスクリプトの解釈</li> <li>15 授業のまとめ</li> </ol>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点(50%)とレポート(50%)による。											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

**[教科書]**

授業中に指示する

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

授業中に指示する。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系60

科目ナンバリング		G-LET30 6M361 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 落合 恵美子 文学研究科 准教授 安里 和晃 文学研究科 准教授 Stephane Heim			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 通年集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		次世代グローバルワークショップ The Next-Generation Global Workshop									
【授業の概要・目的】											
<p>世界30数か国の大学から大学院生と若手研究者の参加を得て13年間開催してきた実績のある「次世代グローバルワークショップ」を単位化したもの。 今年度は京都大学で開催する。応募者はスクリーニングの上、報告者を確定する。後日、コメントに従った修正のうえ、フルペーパーの提出を求め、年度末Proceedingsとして掲載する。9月末の開催を予定しているが、場合によってはオンラインになる可能性がある。詳細については年度初めに掲載の予定 (<a href="http://www.kuas.cpi.kyoto-u.ac.jp/">http://www.kuas.cpi.kyoto-u.ac.jp/</a>)</p> <p>The Next-Generation Global Workshop (NGGW) has been held annually since 2008 to provide an opportunity for early-career scholars to present their research and to have feedback from an international audience. Please see detail in call for papers as follows after April <a href="http://www.kuas.cpi.kyoto-u.ac.jp/">http://www.kuas.cpi.kyoto-u.ac.jp/</a></p>											
【到達目標】											
<p>テーマに従い英語論文を執筆し、英語で研究報告を行う。質問の受け答えや、研究者間の交流が主体的に行える。修士、博士レベルの参加者で構成されるため、国際舞台の第一のステップとして参加しやすく、成果は大きい。</p> <p>It has proved to be a pleasant and effective way for capacity building through mentorship of professors from different universities in different areas of the world. It has also provided invaluable opportunities for all participants to learn from their fellow participants with different perspectives and to deepen the understanding of various social phenomena in the world, particularly in Asia. Ultimately, the NGGW has served as a forum for scholars of different generations from various regions to build a common academic foundation by redefining Asia in the global context.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>参加者は統一テーマについて英語論文を執筆し、英語で研究報告を行う。参加にあたってはおおまかに以下のプロセスを伴う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. タイトルの作成</li> <li>2. 要旨の作成</li> <li>3. 応募書類の作成と応募</li> <li>4. 論文執筆 (6000語程度)</li> <li>5. 校閲</li> <li>6. 発表原稿作成</li> <li>7. 発表演習</li> <li>8. 修正</li> <li>9. 報告</li> </ol>											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											



## 社会学(特殊講義)(2)

- 1 0 . 大学教員からのコメントと返答
- 1 1 . 全体のディスカッション
- 1 2 . 研究者間交流
- 1 3 . 論文のリライトと編集
- 1 4 . 論文および研究構成に関する宣誓書の確認・提出
- 1 5 . プロシーディングス掲載と確認

ワークショップでは世界各地からの参加者と同じセッションで報告し、やはり世界各地から参加する大学教員からコメントを受ける。国際会議での学術発表の実践的経験を積む貴重な機会である。

### 【履修要件】

参加希望者はあらかじめ発表要旨を提出し、選考を通った者のみが参加を認められる。

### 【成績評価の方法・観点】

ワークショップ参加・報告とリライトした論文により評価する。詳細は別途説明する。Based on workshop presentation and preparation.

### 【教科書】

使用しない

### 【参考書等】

(参考書)  
授業中に紹介する

### 【授業外学修(予習・復習)等】

Please see calls for papers after April  
募集要項に従って準備を進める。

### (その他(オフィスアワー等))

ワークショップ参加希望者は

asato.wako.4c(@)kyoto-u.ac.jp

を通じてアポを取る。(@)は@に。

Please get in touch with Prof. Asato asato.wako.4c(@)kyoto-u.ac.jp

Or Kyoto University Asian Studies Unit

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系61

科目ナンバリング		G-LET30 6M361 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学（特殊講義） Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 丸山 里美			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		多文化共生のまちづくり（社会調査士科目G）									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業では、質的調査の企画から実査、報告書の作成にいたる社会調査の全過程を実習形式で経験することによって、社会調査とはなにか、どのような手続きで進めるのかを、体験的に学ぶことを目的とする。具体的には、在日コリアン、被差別部落、ニューカマーの外国人、障害者などが集住する、京都市南区にある東九条地域で、マイノリティの生活とそれを支える地域の取り組みの実態について、参与観察やインタビューなどの質的調査の手法を用いて調査を行う。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 質的調査を計画し、実施することができる</li> <li>・ 質的調査の結果を、論文の形にまとめることができる</li> <li>・ 多文化共生について理解する</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回～6回 調査地に関する情報収集、先行研究の検討          第7回 予備調査          第8回～10回 情報収集を基にした調査テーマの設定と調査計画の策定          第11回～13回 質問項目策定と調査対象者の選定          第14回～20回 調査の実施、フィールドノート・トランスクリプトの作成          第21回～24回 先行研究・調査テーマの再検討と補充調査の実施          第25回～第30回 報告書の作成</p>											
【履修要件】											
継続的なフィールド調査に必ず参加すること。その成果を報告書に執筆すること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点(50%)と報告書執筆のレポート(50%)によって評価する											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学修（予習・復習）等】											
参加学生は、授業外でフィールド調査に継続的に参加しなければならない。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

行動文化学系62

科目ナンバリング		G-LET30 6M361 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学（特殊講義） Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 太郎丸 博			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		社会調査の実際（社会調査士科目G）									
【授業の概要・目的】											
社会調査の企画から報告書の作成まで、社会調査の全過程をひとつおりの体験的に学習する。そのような体験を通して、講義で得た知識の身体化を目指す。そのためには、授業時間外の作業が多く必要となる。また、他の受講者との相談や共同作業も多くなる。											
【到達目標】											
調査の企画、実施、データの入力、分析、報告書の作成ができるようになる。											
【授業計画と内容】											
<p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1オリエンテーション</li> <li>2 調査の企画</li> <li>3仮説構成</li> <li>4 調査項目の設定</li> <li>5質問文・調査票の作成</li> <li>6 プリテストと調査票の修正</li> <li>7 対象者・地域の選定</li> <li>8サンプリング</li> <li>9 調査の実施（調査票の配布・回収、面接）</li> <li>10 エディティング</li> <li>11 集計、分析</li> <li>12 データの視覚化</li> <li>13 仮説検証</li> <li>14 報告書の作成</li> <li>15フィードバック</li> </ol> <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1オリエンテーション</li> <li>2 データの入力・読み込み</li> <li>3 単純集計表、ヒストグラムの作成</li> <li>4 変数の操作の基礎</li> <li>5変数の操作の応用</li> <li>6 クロス集計表、帯グラフの基礎</li> <li>7 クロス集計表、帯グラフの応用</li> <li>8 散布図、箱ヒゲ図の作成</li> <li>9 データセットの分割・結合</li> <li>10 独立性の検定</li> <li>11平均値の差の検定</li> <li>12 多重クロス表分析</li> </ol>											
----- 社会学（特殊講義）(2)へ続く -----											

## 社会学（特殊講義）(2)

13 回帰分析の基礎  
14 回帰分析の応用  
15 フィードバック

### 【履修要件】

社会調査士科目A～Eをあわせて受講することが望ましいが、強制ではない。

### 【成績評価の方法・観点】

出席(25%)、宿題(25%)、レポート(50%)

### 【教科書】

使用しない

### 【参考書等】

（参考書）

轟亮・杉野勇 『入門・社会調査法 2ステップで基礎から学ぶ』（法律文化社）ISBN:978-4589032577

盛山 和夫 『社会調査法入門』（有斐閣）ISBN:978-4641183056

### 【授業外学修（予習・復習）等】

復習重視。宿題が頻繁に出る。

### （その他（オフィスアワー等））

授業時間外にグループで実際の調査や調査票の作成、分析などを行う必要がある。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系63

科目ナンバリング		G-LET30 6M361 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		農学研究科 教授 秋津 元輝			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		農業・農村に関する社会的・思想的研究文献の講読と講義									
[授業の概要・目的]											
農業・農村に関する社会的研究あるいは思想的研究を対象にして、国内外の基本文献および最新研究を取り上げ、演習形式で授業をおこなう。											
[到達目標]											
農業・農村の社会的・思想的研究に関する世界的視野での動向を把握するとともに、その基礎的な概念や知識を身につける。											
[授業計画と内容]											
第1から4回 欧州における農業・農村の社会的研究の検討 Rurality、Geographical indication、Rural development、などのキーワードを念頭におきつつ文献を選出し、講読と講義をおこなう。											
第5から8回 北米における農業・農村の社会的研究の検討 Agricultural science and technology、Urban agriculture、Food security、などのキーワードを念頭におきつつ文献を選出し、講読と講義をおこなう。											
第9から12回 日本における農業・農村の社会的研究の検討 アクション・リサーチやフォーカス・グループインタビュー、などの最近の調査手法に注目しながら、文献を選出し、講読と講義をおこなう。											
第13から15回 総合討論および予備日											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
報告や討論への参加などの平常点で評価する。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書) 授業の進行に応じて適宜指示する。											
[授業外学修(予習・復習)等]											
毎回文献を指定するので、事前に必ず予習してくる事。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

行動文化学系64

科目ナンバリング		G-LET30 6M361 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		農学研究科 教授 秋津 元輝			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		欧米における食農倫理研究の最前線									
[授業の概要・目的]											
欧米における食農倫理に関する研究のうちから、最新の注目すべき業績を取り上げて、履修者と討議しながら、講義をおこなう。											
[到達目標]											
食と農の倫理的研究の世界的な研究内容と課題について理解を深める。											
[授業計画と内容]											
以下のトピックスの範囲内から欧米の最新研究をとりあげて演習形式で文献紹介をおこない、内容について解説、討議する。											
第1回 食農システムの社会学・倫理学研究の概要											
第2回から5回											
・食農倫理学の体系											
・ Alternative Food Networks											
第6回から9回											
・食消費倫理をめぐる実践的研究											
・食農技術開発をめぐる倫理問題											
第10回から13回											
・食料システムの社会学的分析											
第14回・15回											
・総合討論											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
報告や討論への参加などの平常点で評価する。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書)											
授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
毎回、課題となる文献を示すので、事前に必ず予習してくること。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

行動文化学系65

科目ナンバリング		G-LET30 6M361 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		教育学研究科 准教授 竹内 里欧			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		教育社会学の研究									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業は、現代社会におけるビルドゥングスロマンのあり方をテーマに行う。ビルドゥングスロマンとは、主人公の様々な経験や移動をとおしての自己形成をテーマとした物語をさし、近代社会においては、典型的な自己形成の物語として普及した。しかし、そうした物語は現在、ゆらぎをみせつつある。現代社会において、自己形成をめぐる物語は、どのように存在しているのだろうか、新しい物語は生まれつつあるのだろうか。特に本年は、「通過儀礼」「社会化」「成長物語」といったキーワードをもとに、現代社会における「成長」というテーマについて多角的に考察する。授業は、講義、先行研究の報告・検討、具体的素材の分析、ディスカッションを組み合わせる。状況により変更の可能性はあるが、オンラインを利用する予定です。</p>											
【到達目標】											
<p>現代社会におけるビルドゥングスロマンのあり方というテーマをとおし、教育社会学の研究の理解を深め、現代社会における「成長」の意味について考察する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>1回 インTRODクシヨン(文献の選定、発表担当者の順番決めなど)                  2回 ビルドゥングスロマンの誕生・発展・変容1(講義)                  3回 ビルドゥングスロマンの誕生・発展・変容2(ディスカッション)                  4回 「社会化」にかんする研究を読む1(先行研究の報告)                  5回 「社会化」にかんする研究を読む2(先行研究の検討)                  6回 「通過儀礼」にかんする研究を読む1(先行研究の報告)                  7回 「通過儀礼」にかんする研究を読む2(先行研究の検討)                  8回 「成長物語」にかんする研究を読む1(先行研究の報告)                  9回 「成長物語」にかんする研究を読む2(先行研究の検討)                  10回 映像資料の説明と鑑賞                  11回 映像資料の鑑賞とディスカッション                  12回 ポスト近代社会におけるビルドゥングスロマン1(関連する研究の報告)                  13回 ポスト近代社会におけるビルドゥングスロマン2(関連する研究の検討)                  14回 現代社会における「成長」とは(ディスカッション)                  15回 授業のまとめと振り返り                  ( 上記のような予定で行うが、出席者の関心にしたがって、適宜調整する。 )</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>報告、ディスカッションへの貢献、レポートをもとに、総合的に評価する。                  内訳は、おおよそ、報告等(60%) + レポート(40%)とする予定であるが、授業の状況により適</p>											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

宜調整する。  
到達目標について、教育学部（または教育学研究科）の評価方針に従って評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）  
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

報告を担当する者は十分に準備をすること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



科目ナンバリング		G-LET30 6M361 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		東南アジア地域研究研究所 教授 速水 洋子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		東南アジアにおける家族と社会 Family and Society in Southeast Asia									
[授業の概要・目的]											
<p>[テーマ：東南アジアにおける家族と社会]東南アジアでも少子高齢化が進行中である一方、国内外の移動はますます顕著になっている。そうした中で生活の根幹をなす家族はどのように展開しているのか。そもそも家族は社会のなかでどのように理論化され記述されてきたのか、その変化はどのようにとらえられるのか。ここでは、人類学の理論や東南アジア・東アジアを中心とするミクロな民族誌的視点と、制度やイデオロギーの過去から現在に至る展開とグローバル化というマクロな視点を研究の動向を追いながら学ぶ。また、現代的な問題として移動労働や高齢化とケアの問題などのかかわりを検討し、家族の領域、家族と社会のかかわりが地域理解においてどのように位置づけられるのか考察する。授業は講義と受講者の発表との両方によって進める。受講者の一哉構成により、内容や実施形態を変更する場合もある。</p> <p>[Theme : Family and Society in Southeast Asia]In a large part of Southeast Asia, aging of the population has become a recognized issue. In the meantime, there is increasing mobility both domestic and international. How are these processes affecting the realm of the family which constitute the foundation of everyday life? How has the family been described and theorized within society to begin with, and how is this evolving in the face of current changes? This class will consider both anthropological theories, micro-level ethnographic perspectives especially in Southeast and East Asia on the one hand, as well as the institutional and ideological developments on the macro level from past to present, following relevant research trends. Moreover, it will address some contemporary issues such as migrant labor, aging and care in relation to the family, and discuss how the family realm is relevant to the study of the region. There will be lectures, presentations by class participants, as well as discussion. There may be some changes in the contents and method depending on the number and constitution of the class members.</p>											
[到達目標]											
<p>1) 家族と社会に関する基本的事項を理解し、比較の視点から論じる。 2) 家族を論じることを通じて、東南アジア社会について理解し、受講者各自の研究・調査において家族と社会を理解する基盤とする。</p> <p>1) To better understand fundamental issues related to the family and society, and be able to discuss these from a comparative perspective. 2) To increase understanding of the characteristics and current trends in Southeast Asian society in preparation for the participant's own research.</p>											
[授業計画と内容]											
<p>I 授業の説明と序論【1週】 II 家族をめぐる議論（人類学を中心に）【2-4週】 III ジェンダーと家族【5-6週】 IV 東南アジアの家族とつながり【7-8週】 V 民族誌で読む家族と社会【9-10週】 VI 家族の制度と国家【11-12週】</p>											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 社会学(特殊講義)(2)

### VII 各論：移動と家族・高齢化とケア・LGBTと家族【13-15週】

I Introduction 【week 1】

II Theoretical discussion of the family 【weeks 2-4】

III Gender and family 【weeks 5-6】

IV Family and relatedness in Southeast Asia 【weeks 7-8】

V Reading ethnographies on family and society 【weeks 9-10】

VI The family as institution and state 【weeks 11-12】

VII Topics: Migration and family, intercultural marriage, care, LGBT family etc. 【weeks 13-15】

#### [履修要件]

特になし

#### [成績評価の方法・観点]

##### 【評価方法】

平常点（30％）、発表（30％）、期末レポート（40％）

##### 【Method of evaluation】

Class participation(30%), class presentation(30%), final report(40%).

#### [教科書]

授業中に指示する

授業は、7区分するが、区分ごとにテキストを配布する。

Introduced during class.

The semester will be divided in seven clusters, and texts will be distributed before each cluster.

#### [参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

#### [授業外学修（予習・復習）等]

受講者は、毎回の授業のテキストをあらかじめ読んで、議論に参加することを求める。また、テキストを読んで発表し、議論を先導する役を（受講者数に応じて）分担で受け持つ。期末レポートでは、授業で扱ったテーマについて、受講者自身の研究関心との関連で論じてもらう。

Participants will be expected to be prepared to join in discussion based on the reading assignments.

Depending on the class size, they will be assigned a presentation of the major points of the reading and will be expected to lead the discussion, once or twice depending on the size of the class.

The final paper will ask the participants to review the themes in relation to their own research interests.

#### （その他（オフィスアワー等））

面談が必要な場合は時間設定は随時相談に応じる

Office hour upon consultation.

社会学(特殊講義)(3)へ続く

社会学(特殊講義)(3)

オフィスの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系67

科目ナンバリング		G-LET30 6M361 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 吉田 純			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		社会情報学の諸問題									
[授業の概要・目的]											
情報と社会との関係を軸として、現代社会の思想的・理論的・経験的あるいは実践的な諸問題について、内外の最新の研究文献に基づき、受講者各自の問題関心に沿った研究報告と批判的検討を行う。											
[到達目標]											
社会情報学およびその関連領域における研究のための基本的な視点と方法を習得する。											
[授業計画と内容]											
演習形式を取り、下記の計画で進める。											
第1回 第2回以降の研究報告の日程を、受講者の希望に基づき調整する 第2～14回 各回につき1～2名の担当者の研究報告と、それに基づく質疑応答・討論をおこなう 第15回 フィードバック(PandA上で実施)											
[履修要件]											
学部レベルの社会学関係科目を履修していることが望ましい。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点(素点、100点満点)による ・配点:研究報告50点+参加状況50点 ・素点に基づき、到達目標の達成度を、文学研究科の評価基準に従って評価する											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
・自身の研究報告の前提として、事前に十分な時間を取り、先行研究等の関連文献の読み込みやデータの収集・整理を十分におこなっておくこと。 ・研究報告完了後は、教員や他の受講者から受けたアドバイスを参考にし、修士論文、博士論文等の完成に向けて、文献やデータの収集・整理・読解をひきつづきおこなうこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
レジュメの整理・共有等のため、PandAサイトを活用する。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

行動文化学系68

科目ナンバリング		G-LET30 6M361 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 准教授 柴田 悠			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		社会行動論演習									
【授業の概要・目的】											
<p>人間の社会行動（その集積である社会現象を含む）に関連する自由テーマの研究論文を作成するために、受講者各人が、自らのテーマに関する先行研究を整理・批判しつつ、独自の発想を加えた考察を行い、発表をする。</p> <p>さらに、その発表内容について、出席者全体で発展的議論を行い、互いの考察を深め合う。またその際、担当教員は、社会行動論の専門家として、建設的なアドバイスを行う。</p>											
【到達目標】											
人間の社会行動（社会現象を含む）を、客観的に分析・説明・議論できるようになる。											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に以下の計画に従って授業を進める。ただし、受講者の状況などに応じて、内容を変更する可能性がある。</p> <p>第1回 ガイダンス（先行研究の扱い方、考察の仕方、発表の仕方）、受講者各人の発表日程の決定。</p> <p>第2回 担当教員が見本発表を行う。そのあと、出席者全体で発展的議論を行う。</p> <p>第3回～第14回 毎回1名が発表する。発表では、「人間の社会行動（社会現象を含む）に関連する自由な問い」、「その問いに最も近い先行研究（1つ以上）の整理と未解決点」、「その未解決点に関するできるだけ客観的な独自考察」、「問いへの暫定的な答え」、「考察の限界と今後の課題を、レジュメに沿って口頭発表する。そのあと、出席者全体で発展的議論を行う。</p> <p>第15回 フィードバック（詳細は授業中に説明）</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（100点満点）によって評価する。具体的には、発表の内容（50点）と、議論への参加度（50点）に基づいて評価する。											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 社会学(特殊講義)(2)

### [教科書]

使用しない

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

(関連URL)

<https://sites.google.com/site/harukashibata/profile>(教員紹介のページ)

### [授業外学修(予習・復習)等]

予習は、今後の自分の発表のための準備を入念に行うこと。  
復習は、毎回の授業内容をふりかえり、関連情報を調べること。不明点については、口頭かメールで教員に質問すること。  
予習・復習の時間配分は、予習120分(平均)、復習120分を目安とする。

### (その他(オフィスアワー等))

本授業は人間・環境学研究科と共通のゼミである。  
Zoomを用いたリアルタイムのオンライン授業として実施する予定であり、オンラインの場合は、履修者全員がそれに参加可能な通信環境(例:通信容量制限なしに安定したビデオ通話ができる環境)にあることを前提に授業を進める。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系69

科目ナンバリング		G-LET30 7M362 SJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(演習) Sociology (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 丸山 里美			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	月5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		質的調査に基づく研究									
【授業の概要・目的】											
この授業は、社会・文化をおもに質的に調査し、分析し、記述することに関わる根源的な問題について考察することを目的とする。受講生の報告と討論を中心とする形式で実施される。											
【到達目標】											
質的調査にもとづいて書かれた研究や、質的調査に関する諸問題に関する理論的知見を批判的に検討し、自身の研究に関する視座を獲得すること。											
【授業計画と内容】											
(前期)											
第1回 イン트로ダクション 自己紹介、講読文献の決定、発表担当者の決定											
第2回～第6回 文献講読 質的調査にもとづいて書かれた研究、質的調査に関する諸問題について書かれた文献を輪読し、議論を行う。											
第7回～第14回 研究報告 投稿論文、修士論文、博士論文のドラフト報告とそれに関する検討を行う。											
第15回 まとめ											
(後期)											
第1回 イン트로ダクション 自己紹介、講読文献の決定、発表担当者の決定											
第2回～第6回 文献講読 質的調査にもとづいて書かれた研究、質的調査に関する諸問題について書かれた文献を輪読し、議論を行う。											
第7回～第14回 研究報告 投稿論文、修士論文、博士論文のドラフト報告とそれに関する検討を行う。											
第15回 まとめ											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
報告と討議への参加によって評価する											
----- 社会学(演習)(2)へ続く -----											

社会学(演習)(2)

**[教科書]**

授業中に指示する

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

授業中に指示をする。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



行動文化学系70

科目ナンバリング		G-LET30 7M362 SJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(演習) Sociology (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 落合 恵美子			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		親密圏と公共圏の再編成 20世紀システムとその転換									
【授業の概要・目的】											
<p>親密圏と公共圏を対にして、その双方の変容、境界のゆらぎ、両者の関係の再編成をとらえようとする試みが、社会科学のさまざまな領域で見られるようになった。20世紀末の社会変容に伴って、従来の近代社会の基本構造となっていた公私の分離が自明性を失い、新たな社会構造が生み出されつつある現状を把握しようとする知的営為と言えよう。本演習では、親密圏/公共圏研究という新たな分野の基礎文献を読んで、理論的枠組みを共有し、その枠組みによって各々のテーマに接近する研究発表を行う。扱うテーマは、ジェンダー、福祉レジーム、労働、ケア、人間の再生産、グローバル化、構造と持続、制度とその変化、など多岐にわたり、これら以外のテーマでも柔軟に対応する。</p>											
【到達目標】											
<p>親密圏/公共圏研究という新たな分野の理論的枠組みを理解する。 その理論的枠組みにより個々の研究テーマに接近する応用力を獲得する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>(1)導入として、親密圏/公共圏研究の理論的枠組みについて、授業担当者が講義する。(1-2回)</p> <p>(2)親密圏/公共圏研究に関する基礎文献を各自が読んできて、指定された発表者が整理した論点に沿って、疑問点や異なる見方について話し合う。演習担当者が適宜解説を加える。(4-5回)</p> <p>(3)親密圏/公共圏研究の枠組みによって個々のテーマに接近する研究発表を行う。(9-10回)</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>授業での発表(全員が最低1回は発表すること) 60%</p> <p>毎回の授業での積極的発言 40%(無断欠席は減点する)</p>											
【教科書】											
使用しない											
----- 社会学(演習)(2)へ続く -----											

## 社会学(演習)(2)

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

### [授業外学修(予習・復習)等]

各々のテーマに沿った研究発表を行うための準備をする。

### (その他(オフィスアワー等))

研究内容についての相談などは個別に時間を決めて対応する。  
発表者が多い場合は4時限にも授業を行うことがあるが、その時間に他の授業がある受講者は参加しなくてよい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系71

科目ナンバリング		G-LET30 7M362 SJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(演習) Sociology (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 太郎丸 博			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	金4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		社会調査の実際とデータ分析(専門社会調査士科目H・I)									
【授業の概要・目的】											
社会調査を実践的に企画・設計し、実施し、分析・集計をおこなうための実践的な知識と能力を習得する。また、数理統計学の基礎を踏まえながら、多変量解析に共通する計量モデルを用いた分析法を基本的に理解することを目指す。コンピュータを使ったデータの分析とその結果の解釈に重点を置く。											
【到達目標】											
データ分析の応用力を身につけ、データ分析のためのテクニックの幅を広げる。											
【授業計画と内容】											
前期											
1. 調査方法論、調査倫理											
2. 調査企画と設計(1)											
3. 調査企画と設計(2)											
4. 仮説構成											
5. 尺度構成法											
6. サンプルないし対象者・フィールドの選定(1)											
7. サンプルないし対象者・フィールドの選定(2)											
8. 調査票の作成(1)											
9. 調査票の作成(2)											
10. 実査											
11. 調査データの整理(コーディング、データクリーニングなど)(1)											
12. 調査データの整理(コーディング、データクリーニングなど)(2)											
13. グラフ作成、仮説の検証(1)											
14. グラフ作成、仮説の検証(2)											
15. 報告書の作成											
後期											
1. 回帰分析の復習											
2. 非線形モデル(対数変換、二乗項の投入)											
3. 交互作用効果の検討											
4. モデルの選択(AIC, BIC, F検定)											
5. モデルの診断(残差プロット、VIF)											
6. 二項ロジスティック回帰分析(1)											
7. 二項ロジスティック回帰分析(2)											
8. 最尤推定法と尤度比検定(1)											
9. 最尤推定法と尤度比検定(2)											
10. 多項ロジスティック回帰分析(1)											
----- 社会学(演習)(2)へ続く -----											

## 社会学(演習)(2)

11. 多項ロジスティック回帰分析(2)
12. 順序ロジスティック回帰分析(1)
13. 順序ロジスティック回帰分析(2)
14. 分析結果のまとめ方とグラフの利用(1)
15. 分析結果のまとめ方とグラフの利用(2)

### 【履修要件】

すでに社会調査士の資格を取得しているか、同等の知識を持っていることが望ましい。

### 【成績評価の方法・観点】

平常点(25%)、宿題(25%)、レポート(50%)

### 【教科書】

授業中に指示する

### 【参考書等】

(参考書)  
授業中に紹介する

### 【授業外学修(予習・復習)等】

予習重視。宿題がでる。

### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系72

科目ナンバリング		G-LET30 7M362 SJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(演習) Sociology (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 田中 紀行			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	火2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		「ヴェーバー・パラダイム」の研究									
【授業の概要・目的】											
<p>マックス・ヴェーバーの業績のうちで特に『経済と社会』・『世界宗教の経済倫理』など後期の著作を中心とする社会学的な部分に注目し、そこから再構成できる独自の社会的アプローチ（「ヴェーバー・パラダイム」）とはいかなるものか、またそこにどのようなアクチュアリティがあるのかを、他の社会学理論とも比較しながら検討する。このテーマに関連する日・英・独語文献（ヴェーバーに関する二次文献やヴェーバーを継承する社会学者の著作）を読み進め、これに関連するヴェーバーの原典も適宜参照する。</p> <p>またこれとあわせて受講者による修士論文・博士論文等の中間報告も適宜行う。</p> <p>なお、受講者に要約・報告してもらう文献は受講者の語学力に応じて割り当てるので、受講にあたってドイツ語の知識は必須ではない。</p>											
【到達目標】											
ヴェーバー社会学の特徴や問題点、現代的意義などについて理解する。またそれを通して古典社会学を含むさまざまな社会学理論の射程と限界について相互に比較しながら幅広く学習する。											
【授業計画と内容】											
<p>前期</p> <p>【第1回】イントロダクション</p> <p>【第2回～第15回】ヴェーバー社会学関連文献の講読。修士論文・博士論文等の中間報告を適宜行う。</p> <p>後期</p> <p>【第1回～第14回】ヴェーバー社会学関連文献の講読。修士論文・博士論文等の中間報告を適宜行う。</p> <p>【第15回】まとめ</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
報告レジュメと授業中の発言によって評価する。											
----- 社会学(演習)(2)へ続く -----											

社会学(演習)(2)

**[教科書]**

授業中に指示する

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

受講者は毎回テキストの該当箇所を予習してくることを求められる。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系73

科目ナンバリング		G-LET31 67431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 水野 一晴			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		世界の自然環境と人々の生活や社会 1									
【授業の概要・目的】											
世界の各地域の気候環境は多様である。その多様な自然環境の中で人々は独自の社会や文化を生み出してきた。本講では、世界のいくつかの地域を取り上げ、その場所の気候、地形、植生、土壌、水文環境などの自然環境を説明し、その自然環境の中で歴史的に人々はどのように定住していったのか、あるいは人々はその自然をどのように利用しながら生活を営んでいったのか、自然とどのように向き合っているのかなどの点から検討する。また、地球温暖化などの長期的あるいは異常気象などの短期的な気候変化が、自然や人間活動にどのような影響を及ぼしているかについても議論する。											
【到達目標】											
世界各地の気候、地形、植生、土壌といった自然環境要因の複合的作用およびその変化について理解する。自然環境が人間活動とどのように関わっているかを考察し、その一方の変化が相互作用によって大きく両者に関わっていくことを理解する。世界の地域ごとにその自然環境のもとで多様な社会や文化が生み出されていることを理解する。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1．ポリネシアの自然環境と社会・文化 [1週]</li> <li>2．アフリカの歴史的環境変遷 [1週]</li> <li>3．日本アルプスと大雪山の植生の立地環境とその30年間の変化 [2週]</li> <li>4．アフリカの自然と民族 [2週]</li> <li>5．ケニア山とキリマンジャロの環境変遷と植生変化 [3週]</li> <li>6．ナミブ砂漠の自然や植物・動物と人間活動 [3週]</li> <li>7．アンデスの自然と人間活動 [2週]</li> <li>6．フィードバック [1週]</li> </ol>											
【履修要件】											
<p>高校の時に使用していた地図帳（帝国書院、二宮書店など）を授業時に持参すること（持っていない人は購入してください）。</p> <p>高校で地理を履修していなくても十分理解できます。</p> <p>特別な許可がない限り、授業時でのパソコン、携帯電話、スマホの使用を禁止する（ノートは手書きで取ること）。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（80％）と小テスト（20％）による評価・・・毎回配るコメント・質問用紙や授業内での発言、小テストなど											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

地理学(特殊講義)(2)

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

(参考書)

水野一晴 『気候変動で読む地球史 - 限界地帯の自然と植生から - 』 (NHKブックス) ISBN:978-4-14-091240-9

水野一晴 『世界がわかる地理学入門 - 気候・地形・動植物と人間生活』 (ちくま新書) ISBN::978-4-480-07125-5

**[授業外学修(予習・復習)等]**

授業が理解できたかどうか把握し、理解できなかった部分については次回授業で質問してください。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



行動文化学系74

科目ナンバリング		G-LET31 67431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 水野 一晴			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		世界の自然環境と人々の生活や社会 2									
【授業の概要・目的】											
世界の各地域の気候環境は多様である。その多様な自然環境の中で人々は独自の社会や文化を生み出してきた。本講では、世界のいくつかの地域を取り上げ、その場所の気候、地形、植生、土壌、水文環境などの自然環境を説明し、その自然環境の中で歴史的に人々はどのように定住していったのか、あるいは人々はその自然をどのように利用しながら生活を営んでいったのか、自然とどのように向き合っているのかなどの点から検討する。また、地球温暖化などの長期的あるいは異常気象などの短期的な気候変化が、自然や人間活動にどのような影響を及ぼしているかについても議論する。											
【到達目標】											
世界各地の気候、地形、植生、土壌といった自然環境要因の複合的作用およびその変化について理解する。自然環境が人間活動とどのように関わっているかを考察し、その一方の変化が相互作用によって大きく両者に関わっていくことを理解する。世界の地域ごとにその自然環境のもとで多様な社会や文化が生み出されていることを理解する。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1．インド、ヒマラヤ地域の自然と民族 [2週]</li> <li>2．インド、ヒマラヤ地域の歴史と社会の成り立ち [2週]</li> <li>3．インド、ヒマラヤ地域のチベット仏教、ボン教と地域社会 [3週]</li> <li>4．インド、ヒマラヤ地域の森林分布と樹木利用 [1週]</li> <li>5．インド、ヒマラヤ地域の牧畜活動 [1週]</li> <li>6．インド、ヒマラヤ地域の農耕活動 [1週]</li> <li>7．世界各地の自然と社会・文化 [3週]</li> <li>8．総合討論 [1週]</li> <li>9．フィードバック[1週]</li> </ol>											
【履修要件】											
<p>高校の時に使用していた地図帳（帝国書院、二宮書店など）を授業時に持参すること（持っていない人は購入してください）。</p> <p>高校で地理を履修していなくても十分理解できます。</p> <p>特別な許可がない限り、授業時でのパソコン、携帯電話、スマホの使用を禁止する（ノートは手書きで取ること）。</p>											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 地理学(特殊講義)(2)

### [成績評価の方法・観点]

平常点（80%）と小テスト（20%）による評価・・・毎回配るコメント・質問用紙や授業内での発言、小テストなど

### [教科書]

使用しない

### [参考書等]

（参考書）

水野一晴 『神秘の大地、アルナチャル - アッサム・ヒマラヤの自然とチベット人の社会 - 』（昭和堂）ISBN:978-4-8122-1173-1

Mizuno, K. & Tenpa, L. 『Himalayan Nature and Tibetan Buddhist Culture in Arunachal Pradesh, India』（Springer）ISBN:978-4-431-55491-2

水野一晴 『世界がわかる地理学入門 - 気候・地形・動植物と人間生活』（ちくま新書）ISBN:978-4-480-07125-5

### [授業外学修（予習・復習）等]

授業が理解できたかどうか把握し、理解できなかった部分については次回授業で質問してください。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET31 67431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 米家 泰作			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		山と森の歴史地理学									
【授業の概要・目的】											
<p>本講義では、環境の利用・改変・管理・認識の視点から、日本の山村と森林の歴史地理を検討する。日本の山村は現在、過疎化や限界集落、廃村といった大きな問題に直面しているが、かつては多くの人々が山や森の動植物に依拠して暮らしていた。山村における人と環境との関係史を、歴史地理学あるいは環境史的な観点から捉えるならば、森林を改変しながらも、それを巧みに利用・管理する暮らしのあり方が浮かび上がってくる。本講義では、地理学・歴史学・民俗学の議論を紹介しながら、山村と森林の歴史地理をたどることで、人と環境の関係について様々な視点に触れるとともに、現在の山村や森林のあり方について、理解を深める機会を提供したい。</p>											
【到達目標】											
<p>現在様々な問題を抱える山村地域に関して、その歴史地理的背景を理解するとともに、人間と環境の関係史を広い視野から動的に捉える能力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1．山と森の歴史地理             <ol style="list-style-type: none"> <li>第1回 人と環境の関係史</li> <li>第2回 『秋山記行』の世界</li> </ol> </li> <li>2．森林に依拠した生業             <ol style="list-style-type: none"> <li>第3回 堅果食の系譜</li> <li>第4回 狩猟とその周縁化</li> <li>第5回 焼畑と森林管理</li> <li>第6回 木地師と木工の系譜</li> </ol> </li> <li>3．山をめぐる自然観             <ol style="list-style-type: none"> <li>第7回 山の神とは誰か</li> <li>第8回 修験道の自然観</li> </ol> </li> <li>4．森林植生の人為的改変             <ol style="list-style-type: none"> <li>第9回 「禿山」と人為的草原</li> <li>第10回 育成林業の登場</li> <li>第11回 科学的林業と植生管理</li> </ol> </li> <li>5．山と森の近代             <ol style="list-style-type: none"> <li>第12回 風景としての山岳</li> <li>第13回 登山とナショナリズム</li> <li>第14回 内なる異文化</li> <li>第15回 フィードバック</li> </ol> </li> </ol>											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 地理学(特殊講義)(2)

### [履修要件]

特になし

### [成績評価の方法・観点]

平常点(40%)と学期末のレポート(60%)により評価する。前者は毎回の授業に対するリアクションペーパーにもとづく。後者は授業の到達目標の達成度に基づき評価する。いずれもPandAを通じて行う。

### [教科書]

使用しない

### [参考書等]

(参考書)

米家泰作 『森と火の環境史』(思文閣出版) ISBN:9784784219735

米家泰作 『中・近世山村の景観と構造』(校倉書房) ISBN:9784751733508

白水智 『中近世山村の生業と社会』(吉川弘文館) ISBN:9784642029490

池谷和信・白水智 『山と森の環境史』(文一総合出版) ISBN:9784829911999

(関連URL)

<http://kyouindb.iimc.kyoto-u.ac.jp/j/sD3iQ>(講師の研究業績など(京都大学教育研究活動データベース))

<https://orcid.org/0000-0002-3391-5069>(ORCID(Open Researcher and Contributor ID))

<https://www.facebook.com/komeie.taisaku>(講師のフェイスブック)

<https://researchmap.jp/tkomeie/>(リサーチマップ(科学技術振興機構))

### [授業外学修(予習・復習)等]

授業中に紹介する参考文献を含めて、関連する論文や文献に積極的に触れ、問題関心を深めてほしい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーを設定している。オンラインでの問い合わせは、メールあるいはPandAのフォーラムで。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系76

科目ナンバリング		G-LET31 67431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 米家 泰作			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		帝国日本と地理的知									
【授業の概要・目的】											
<p>本講義では、近代の日本において地理的な表象や言説が果たしてきた政治的・経済的・社会的な役割を、批判的に検討する。近年の歴史・文化地理学では、地理的な表象や言説に関する議論が盛んに行われている。その動向を踏まえて、地図・土地調査・旅行記・地誌・学術調査・史蹟景観をめぐる地理的知の諸相と、その受容や理解の具体例を分析する。その際、本講義では特に朝鮮半島に着目するが、内地や他の植民地にも注意を払う。</p>											
【到達目標】											
<p>地理的な知の役割を歴史的に俯瞰し、その意義を批判的に捉える能力を養うとともに、様々な歴史地理的資料に関する基本的事項を理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>1．地理的知の近代  第1回 歴史地理学と言語論的転回  第2回 オリエンタリズムと心象地理  第3回 歴史地理学と帝国主義</p> <p>2．朝鮮像の系譜  第4回 近世日本の朝鮮像  第5回 明治日本の朝鮮像と地誌編纂</p> <p>3．植民地のマッピングと空間把握  第6回 朝鮮の測量と地図化  第7回 森林資源の地図化</p> <p>4．学知と植民地  第8回 学知の動員と焼畑の行方  第9回 「知的征服」とその諸相</p> <p>5．史蹟とその経験  第10回 史蹟とコロニアルツーリズム  第11回 史蹟の保存と経験  第12回 征服神話と植民地  第13回 帝国縁辺部へのツーリズム</p> <p>6．帝国日本の心象地理  第14回 「近代」概念の空間的含意  第15回 フィードバック</p>											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 地理学(特殊講義)(2)

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

授業のテーマに関する小論文試験を行い、到達目標の達成度に基づき評価する。

### 【教科書】

使用しない

### 【参考書等】

(参考書)

J・モリッシーほか(上杉和央監訳)『近現代の空間を読み解く』(古今書院)ISBN:4772231848

B・グレアム, C・ナッシュ『モダニティの歴史地理』(古今書院)ISBN:4772214704

D・リヴィングストン『科学の地理学: 場所が問題になるとき』(法政大学出版局)ISBN:4588371207

J. Agnew & D. N. Livingstone『The SAGE Handbook of Geographical Knowledge』(SAGE Publications)ISBN:1412910811

米家泰作『森と火の環境史』(思文閣出版)ISBN:9784784219735

(関連URL)

<http://kyouindb.iimc.kyoto-u.ac.jp/j/sD3iQ>(講師の業績など(京都大学教育研究活動データベース))

<https://researchmap.jp/tkomeie/>(リサーチマップ(科学技術振興機構))

<https://orcid.org/0000-0002-3391-5069>(ORCID(Open Researcher and Contributor ID))

<https://www.facebook.com/komeie.taisaku>(講師のフェイスブック)

### 【授業外学修(予習・復習)等】

授業中に紹介する参考文献を含めて、関連する論文や文献に積極的に触れ、問題関心を深めてください。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET31 67431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 小方 登			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		地理情報・衛星画像の処理・分析の基礎									
【授業の概要・目的】											
<p>地理情報をコンピュータで処理・表示するためのモデル化についてその原理を講じる。地理情報処理の実例として地形データ（数値標高モデル：DEM）および衛星画像の処理・分析を主に取り上げる。地形図が利用できない地域でも利用できるDEMや衛星画像は、グローバルなスケールで有効な地理情報ソースとして位置づけることができる。コンピュータを利用した実習も含む。</p>											
【到達目標】											
<p>地理情報をコンピュータで処理・表示するためのモデル化についての理解の増進，そしてDEM・衛星画像の処理・分析方法についての技術の習得を目標とする。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>1) 地理情報のモデル化 地表の現実ないし地図の内容をコンピュータで扱うためのモデルとして、ベクトルモデルとラスタモデルの2つを取り上げ、それぞれの特質について説明する。(1, 2回)</p> <p>2) 地理情報システム 実際に運用されているGIS(地理情報システム)がどのようなものか、QGISを利用して、ベクトル・ラスタそれぞれの形式について実際に取り込んで実習する。適切な地理情報運用と地図表現には、正しい投影法と座標系の理解が必須なので、経緯度、UTM(ユニバーサル横メルカトル)座標などについて講ずる。#160地理情報処理で扱われるデータフォーマットについて、Shape, GMS, GeoTIFFなどを取り上げる。(3, 4, 5回)</p> <p>3) 地形データの処理・分析 ラスタモデルに基づく格子DEMを紹介し、QGISなどを利用して計量地形学に基づく分析を実習する。(6, 7回)</p> <p>4) リモートセンシングの原理と応用 衛星画像の利用はリモートセンシングに含まれるが、その原理について、それが電磁波の観測に基づくことなどを説明する。また大気・地表・海洋の観測など、応用分野ごとの特徴について考察する。(8, 9回)</p> <p>5) 衛星による地球観測 地球観測衛星の運用方法について説明する。地球観測衛星の光学センサー、合成開口レーダーについて解説し、さらに近年利用可能になった高解像度衛星の性能について紹介する。さらにデータの入手方法について説明する。(10, 11回)</p> <p>6) 衛星画像の分析と表示 コンピュータを利用した衛星画像の応用は、地表の土地被覆についての処理・分析が中心だが、それらについて紹介する。衛星画像の複数バンドを用いた合成色表示植生分布の指標化、最尤法に基づく土地被覆分類の原理を説明した上で、コンピュータを用いた実習を行う。QGISなどを利用する。(12, 13, 14回)</p> <p>7) フィードバックについて フィードバック期間あるいはそれ以外でも、授業内容に関する質問等があれば、随時受け付ける。以下に記したオフィスアワー以外の面談は、事前にメール等で日時を決めることが望ましいが、気軽に相談してほしい。</p>											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

地理学(特殊講義)(2)

**【履修要件】**

特になし

**【成績評価の方法・観点】**

レポート試験による（80％）。これ以外に随時小テストを行う（20％）。

**【教科書】**

使用しない

**【参考書等】**

（参考書）  
授業中に紹介する

（関連URL）

<http://www.hgeo.h.kyoto-u.ac.jp/ogata/>(小方研究室ホームページ)

**【授業外学修（予習・復習）等】**

GISソフトウェアQGIS，地形データSRTM/AW3D30，LANDSAT衛星画像は，インターネット上で無料で利用できるもので，各自のパソコンにダウンロードすること。必要に応じ，メディアセンターの端末や自宅のパソコンにおいて，授業で扱う内容を実行することができる。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワー：月曜11:00～12:30

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



行動文化学系78

科目ナンバリング		G-LET31 67431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 小島 泰雄			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国における都市農村関係									
【授業の概要・目的】											
都市と農村の関係について、中国を対象として考える。 現代中国においては都市と農村が截然と分けられてきたが、それがいかに形成・変容されてきたかについて、主に地理学的な視角から具体的に検討してゆく。											
【到達目標】											
現代中国についての理解を深める。 地理学における都市農村関係の研究法について理解する。											
【授業計画と内容】											
以下のテーマをめぐって授業を行う。 一つのテーマについて、1 - 2週 of 授業をする予定である。											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 都市人口：停滞と増加の背景</li> <li>2. 戸籍制度：東アジアの制度と現代中国の運用</li> <li>3. タンウェイと都市：中国社会主義の都市空間構成</li> <li>4. 住宅制度改革：都市空間の市場化</li> <li>5. 土地改革と集団化：農村の変革の空間</li> <li>6. 非集団化：改革開放政策のさきがけ</li> <li>7. 郷鎮企業：都市農村二元論における開発モデル</li> <li>8. 農民工：二元論を乗り越えるたくましさ</li> <li>9. 都市と農村：地理学的な再考</li> </ol>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
主に期末のレポートにより評価を行い(9割以上)、授業への参加度を加味する(1割未満)。授業への参加度は授業時のディスカッションによって測る。											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

地理学(特殊講義)(2)

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

授業の内容について、授業中に紹介した文献や論文を参考としながら、自らの興味関心に応じて発展的な学習を展開する。期末レポートにその成果を反映することになる。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET31 67431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		地球環境学舎 教授 山村 亜希			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		論文とフィールドから学ぶ歴史地理学									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業では、歴史地理学の視角と方法を、論文講読を通じた先行研究の考察と、歴史地域に関わる読図及び史資料の解読、巡検を通じて、受講生が主体的に習得することを目的とする。この授業は、担当者に割り振った発表をベースとして、受講生全員による討論と教員・TAによる解説の形式で行う。受講生は下記の内容のうちのどれかは、必ず担当することになる。</p> <p>の論文講読については、近年（過去10年間）の主要学術雑誌における歴史地理学の論文の中から、発表者が対象論文を選ぶ。発表者は、新旧地形図を併用しながら、論文内容の紹介を行う。加えて関連文献を読んで、客観的に論文を評価するレジュメを作成する。その他の受講生も、対象論文（1授業につき、2発表なので2本）を読んできて、意見を述べる。</p> <p>の地域調査については、畿内近郊の2地域（大和郡山、丹波篠山など）について、1カ所につき複数名の担当者を決め、グループを構成する。各グループで、中近世の各地域の景観復原図の作成とその解説、近現代における対象地の変化に関するレジュメを作成し、発表する。それをふまえて受講生で討論を行い、意見や疑問を提示して、現地での課題を明確化する。巡検では、各グループで案内や写真撮影、スケジュール管理を担当する。その後の授業では、参加者全員の感想や知見を出し合い、フィードバックを行う。参加者は、担当回でなくても、毎回読図や関連文献の講読などの宿題があり、巡検後には巡検レポートを作成する。</p> <p>このように自分の担当回でなくても、毎回、課題はあり、授業でも感想や意見が求められるため、巡検に参加するだけの安易な気持ちでは、負担を重く感じるだろう。一方で、授業に主体的に参加するならば、歴史地理学の視点の特徴や方法を半期でしっかりと学ぶことができる。</p>											
【到達目標】											
歴史地理学の視角と方法を理解し、論文の批判的講読、文献・絵図・発掘調査等の多様な資料を活用した景観復原と、読図、地域比較、巡検といった地理学的実践ができるようになる。											
【授業計画と内容】											
<p>順番や対象地は、コロナ感染状況次第では、変更の可能性はある。          巡検の日程は、授業中に調整するが、土日・祝日や創立記念日となる。          参加者が多い場合は人数制限を行い、希望する巡検全てには行けなくなる。</p> <p>第1回：授業の概要説明          第2～4回：歴史地理学の教科書・論文講読 * 分担・グループ・日程の決定          第5～8回：丹波篠山・八上城の歴史地理：読図・発表討論・巡検・総括          第9～12回：大和郡山（・天理）の歴史地理：読図・発表討論・巡検・総括          第13～14回：歴史地理学の論文講読（1回につき2論文）          第15回：フィードバック</p>											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 地理学(特殊講義)(2)

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

期末レポート30%

平常点（毎週の課題、授業感想の提出、グループワークへの貢献、分担の発表・レジュメ作成、巡検レポートの提出）70%

### 【教科書】

授業中に指示する

### 【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

### 【授業外学修（予習・復習）等】

分担の発表の準備、課題論文の講読、巡検レポートの作成、毎週の授業感想の提出が、予習・復習となる。特に担当については、授業外にかなりの時間を資料調査やレジュメ作成、現地案内図作成に費やすことになる。

### （その他（オフィスアワー等））

巡検の機会は複数提示する。授業の一環なので、受講生は日程を事前に確保し参加してほしい。ただし、人数制限の観点から、人数が多い場合は、前半・後半にコースを分けたり、参加回を振り分ける可能性もある。必ずしも自分が希望する巡検に参加できない場合もある。巡検に係る交通費・入館料等は自己負担である。現地では、交通安全に十分気をつけることはもちろんだが、念のため、生協の学生総合共済等の各自が加入している保険の情報を確認しておくこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET31 67431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		防災研究所 准教授 松四 雄騎			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		湿潤変動帯の自然地理学とその応用としての斜面減災論									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業では、自然地理学の応用としての自然災害（特に斜面災害）の被害軽減（減災）に関する方法論を学び、その実現に向けた基礎データを取得するための野外調査法および室内実験法を実習する。</p> <p>山地や丘陵地が国土の大半を占める日本列島では、豪雨や地震によってしばしば斜面から土砂が流出し、下流域に被害を及ぼす。土砂災害による人的・物的被害は、高度経済成長期以降の砂防・治山事業の拡充による人工構造物の配備により、それ以前と比べて格段に減少してきたが、近年、極端な豪雨の頻度増大により、再び増加しつつある。日本人はそもそも、居住域に隣接する傾斜地（里山）で得られる燃料や湧水といった資源を利用し、その恩恵を受けてきたが、それと同時に斜面の崩壊や地すべり、土石流といった斜面災害の脅威にもさらされてきた。地域に根差した住民が斜面と共生していた時代に培われていた減災のための知恵は、傾斜地での道路敷設や宅地開発といった自然環境の改変行為を可能にした現代的な土木技術の発達と、それによる山際居住区の拡大と新規住民の移入とともに、失われつつある。居住域周辺斜面からの土砂流出による被害を軽減するためには、空間的に飽和し、コスト的にも限界に達しつつあるハード対策だけでなく、住民自力での警戒・避難を促すソフト対策の高度化が不可欠である。そのためには地域の地理環境の成り立ちを深く理解し、それを土台に世代を超えて持続可能な減災方策を備えた地域社会の形成をめざす必要がある。これはまさに自然地理学の応用問題であるといえよう。本授業では、斜面災害の地質・地形的背景（素因）や、降水浸透あるいは地震動といった引き金（誘因）が、なぜ・どのようにして土砂流出を引き起こすのかについて、野外実習と室内実験を通して、自ら地盤構成材料に触れ、その物性を定量的に把握し、データの解析を行うことで体験的に学ぶ。</p>											
【到達目標】											
<p>実習形式の授業を通して、温暖湿潤帯における自然地理環境とそこで起こる地球表層プロセスを概観し、山地の斜面をつくる地盤材料の定性的な観察法、およびその水理学・土質力学的性質の定量化法を学び、斜面減災を実現するための自然地理学的方法論について考察できる力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>夏季の集中講義とし、野外および室内での実習形式での授業を行う。</p> <p>授業のスケジュールおよびその中で取り上げるテーマとトピックスは以下の通り。</p> <p>9月7日（火）森林斜面での野外実習（京都近郊丘陵地）            9月8日（水）実験室での土質試験（宇治キャンパス）            9月9日（木）データ解析およびゼミ（宇治キャンパス）</p> <p>1日目: 野外巡検            京都近郊の丘陵地を対象に、地盤の構成物とその性質および陸域水循環に伴う地形変化過程について概説する。また、過去に発生した斜面崩壊跡地を観察し、森林土壌の断面を作成して、土層試料の採集を行う。</p>											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 地理学(特殊講義)(2)

2日目: 室内実験 + データ解析

採集した試料を用いて、宇治キャンパスにおいて水理・力学的な試験を行う。

3日目: 室内実験 + データ解析 + ゼミ

宇治キャンパスにおいて引き続き実験を行うとともに、得られたデータを用いて、雨の浸透や斜面の安定に関する計算を行い、斜面ハザード評価の方法論について討論する。

### テーマとトピックス

- (1) 自然地理学における野外観察の基礎と方法
- (2) フィールドサイエンスにおける理論・法則・モデルの役割
- (3) 人間社会を取り巻く自然環境の成り立ち
- (4) 陸域水循環の概要と流域生態系の恒常性
- (5) 森林水文学の基礎と山地流域における降雨流出過程
- (6) 斜面の地形変化と土砂災害の発生メカニズム
- (7) 地理的な防災・減災の方法論
- (8) 自然地理学における実験法とデータ分析法の基礎
- (9) 地盤構成材料の水理・力学特性とその意味
- (10) 地理情報システムと地形計測
- (11) 地図解析および実験・計測における精度と確度
- (12) データの整理と統計処理の基礎
- (13) 流域表層現象のモデル化と計算法
- (14) 製図法とアカデミックライティングの基礎
- (15) 総括とフィードバック

授業を通じて、野外観察の方法、実験による定量データの取得方法、自然現象のモデル化について習得するとともにフィールドノートや実験ノートの記載方法、データの整理方法、製図や記述の方法等のアカデミックライティングについて具体的に指導する。

フィードバックについては、実習終了後に必要に応じて、教員オフィスあるいはEメールにて質問に答えるほか、レポートに講評を記入することも含む。

### 【履修要件】

学生教育研究災害傷害保険等の傷害保険に加入していること。

### 【成績評価の方法・観点】

平常点(50%)およびレポート(50%)の評価による。

### 【教科書】

使用しない

### 【参考書等】

(参考書)  
授業中に紹介する

-----  
地理学(特殊講義)(3)へ続く

地理学(特殊講義)(3)

-----  
関連する論文等を授業の中で配布・紹介する。

**【授業外学修（予習・復習）等】**

3日間の授業期間中にはデータ解析や討論準備を課題として出すので、ホームワークとしてこなすこと。

**（その他（オフィスアワー等））**

第一日目は京都近郊の丘陵地でのフィールドワークとなるため、動きやすい靴と服装に手袋や帽子を着用の上、虫よけや雨具、筆記用具・野帳・カメラといった個人装備を揃えて参加すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET31 67431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		明治大学 経営学部 教授 中澤 高志			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		都市と農村の地理学									
【授業の概要・目的】											
<p>都市と農村は、それぞれに暮らす人々にとっての「生活の場」であるだけでなく、双方にとって相互補完的な機能を有している。そのため、一方の繁栄が他方を詐取したり、衰退させたりするような関係を是正し、バランスの取れた関係を模索することは、持続可能な社会を築いていくために重要な課題となる。</p> <p>本講義では、日本における都市 - 農村関係の変遷や現代的課題について考えることを目的とする。また、自然・社会環境の異なるアジア・アフリカ諸国における都市 - 農村関係の現状を知ることにより、日本の特徴について客観的に考える。これらを通じて、これからの時代に求められる都市 - 農村関係について議論する。</p> <p>集中講義3日間のうち、2日目には滋賀県高島市朽木による現地調査を実施する。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市・農村それぞれの場所の特性を理解できる</li> <li>・都市・農村それぞれが抱える現代的課題について理解できる</li> <li>・都市・農村それぞれが直面する課題に対し、地理学はどのように向き合うべきなのかについて、主体的に考え、発想することができる</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>[第1回]イントロダクション (講義) 授業のねらいや進め方について概説する</p> <p>[第2-5回]日本における都市 - 農村関係の変遷と現在 (演習) 都市と農村のそれぞれの場所の特性を確認する 新聞記事や参考文献から、日本の都市 - 農村関係の変遷や、現在の都市と農村が抱える課題について考える</p> <p>[第6-10回]山間部集落の実態 (学外実習)滋賀県高島市朽木において実習を行う。</p> <p>[第11-12回]実習の振り返り (演習) 現地で得られた情報から、日本の都市 - 農村関係の現状を改めて考える</p> <p>[第13-14回]途上国における都市と農村 (講義) 日本とは環境が異なるアジア・アフリカ諸国における都市 - 農村関係の現状を知ることにより、日本の都市 - 農村関係の特徴について考える。</p> <p>[第15回]都市と農村の共生とは？ 授業のまとめとして、これからの時代の都市 - 農村関係の在り方を考える</p>											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											



地理学(特殊講義)(2)

-----  
上記の計画は、学生の興味・関心や実習の内容により変更する可能性がある。

**【履修要件】**

特になし

**【成績評価の方法・観点】**

平常点（毎回のコメント、ディスカッションへの参加、実習に関する小レポート等）により総合的に評価する

**【教科書】**

使用しない  
参考資料は配布、またはウェブ上にて共有する予定である

**【参考書等】**

（参考書）  
水野一晴・藤岡悠一郎 編 『朽木谷の自然と社会の変容』（海青社）ISBN:9784860993320  
島田周平・上田 元 編 『アフリカ（世界地誌シリーズ）』（朝倉書店）ISBN:978-4254169287

**【授業外学修（予習・復習）等】**

集中講義であるため各回の情報を各自で復習し、翌日の授業に応用することが望ましい

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET31 67431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 西村 雄一郎			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ラオス社会の人々の日常生活と自然環境									
【授業の概要・目的】											
この講義では、熱帯モンスーン地域である東南アジア大陸部、特にラオスを中心とする人々の日常生活、また人間と自然環境の関わりについて考えます。具体的な地域調査の成果やそこで行われた研究方法などの紹介を行いつつ、人々と自然環境の関わりがグローバル化によってどのように変質しているのかについて説明していきます。											
【到達目標】											
東南アジア地域、特にラオスにおける人間生活と自然環境の関係についての理解を深める。また、グローバル化によって変質しつつあるラオスの社会・文化、人々の日常生活や日本との結びつきについても理解する。											
【授業計画と内容】											
基本的に以下のスケジュールに従って講義を進めます。ただし講義の進行状況などに対応して、順序や同一テーマの回数を変えることがあります。											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1．イントロダクション・ラオスの地理情報</li> <li>2．東南アジアの地形・気候</li> <li>3．ラオスの地形と集落</li> <li>4．ラオスの集落と土地利用の変化</li> <li>5．ラオスの稲作</li> <li>6．ラオスの水</li> <li>7．ラオスの淡水漁撈</li> <li>8．ラオスの藻類利用</li> <li>9．ラオスの塩の生産と流通</li> <li>10．ラオスの森林と非木材森林資源</li> <li>11．ラオスの牛と虫</li> <li>12．ラオスの市場世界</li> <li>13．ラオスの都市化と工場・日常生活</li> <li>14．ラオスのグローバル化と文化・生活</li> <li>15．講義のまとめ</li> </ol>											
【履修要件】											
特になし											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

地理学(特殊講義)(2)

**[成績評価の方法・観点]**

授業内課題50% (小レポートなど)  
期末試験50%

**[教科書]**

授業中に資料を配布します

**[参考書等]**

(参考書)  
野中健一編 『ヴィエンチャン平野の暮らし 天水田村の多様な環境利用』 (めこん, 2008) ISBN:  
978-4839602147

**[授業外学修 (予習・復習) 等]**

授業内で生じた疑問や意見については、授業中の小課題として記入提出するとともに、それらについて可能な限り授業外に調べておくこと。次回授業時に、それらの点について受講者全員でディスカッションを行います。

**(その他 (オフィスアワー等))**

質問などについてはメールでお知らせください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET31 67431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 西村 雄一郎			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		時間地理学の過去・現在・未来									
【授業の概要・目的】											
この講義では、地理学の分野で個人の生活行動を取り扱ってきた認知・行動地理学・時間地理学の研究の進展を紹介するとともに、現在日本や外国で起こっている働き方や仕事と家事・育児の両立保育所問題などの社会問題を、生活時間・空間とをいう側面から考察していきます。これまでに行われてきた生活時間・空間に関する研究を題材に、生活時間・空間に関わるさまざまなデータの処理方法についても具体的な事例から説明し、その方法論・調査手法・調査結果など研究のプロセスについても解説を行います。授業内容にかかわる野外見学や調査方法に関する実習的な講義も行っていきます。											
【到達目標】											
この講義では、私たちの生活空間・生活時間についてその基本的なしくみを学ぶとともに、国や地域・個人によって異なる生活空間・生活時間の在り方を、日本を中心とする具体的な事例から学び、理解し、社会で発生している問題を考えていくきっかけを提供することを目標とします。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・イントロダクション</li> <li>2. メンタルマップの地理学(1)</li> <li>3. メンタルマップの地理学(2)</li> <li>4. 生活時間・空間を知るために</li> <li>5. 生活時間・空間を知るためのデータ取得・処理(1)</li> <li>6. 生活時間・空間を知るためのデータ取得・処理(2)</li> <li>7. GPSを用いた生活時間調査(1)</li> <li>8. GPSを用いた生活時間調査(2)</li> <li>9. 時間地理学の基本的概念(1)</li> <li>10. 時間地理学の基本的概念(2)</li> <li>11. 現代日本の生活時間・空間(1) 育児と仕事の両立とは</li> <li>12. 現代日本の生活時間・空間(2) 育児と仕事の両立とは</li> <li>13. 近代的時間・空間の形成(1) 働くとは</li> <li>14. 近代的時間・空間の形成(2) 働くとは</li> <li>15. まとめ</li> </ol>											
【履修要件】											
特になし											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 地理学(特殊講義)(2)

### [成績評価の方法・観点]

授業内課題50% (小レポートなど)  
期末試験50%

### [教科書]

Kajsa Ellegren ed. 『Time Geography in the Global Context』 (Routledge, 2019) (<https://www.routledge.com/Time-Geography-in-the-Global-Context-An-Anthology/Ellegren/p/book/9780367665524#sup>)

Kajsa Ellegren ed. 『Thinking Time Geography Concepts, Methods and Applications』 (Routledge, 2019) (<https://www.routledge.com/Thinking-Time-Geography-Concepts-Methods-and-Applications/Ellegren/p/book/9780367585860>)

### [参考書等]

(参考書)

荒井良雄・岡本耕平・川口太郎・神谷浩夫 『生活の空間 都市の時間』 (古今書院, 1989)

荒井良雄・神谷浩夫・岡本耕平・川口太郎 『都市の空間と時間 生活活動の時間地理学』 (古今書院, 1996)

### [授業外学修(予習・復習)等]

授業内で生じた疑問や意見については、授業中の小課題として記入提出するとともに、それらについて可能な限り授業外に調べておくこと。次回授業時に、それらの点について受講者全員でディスカッションを行います。

### (その他(オフィスアワー等))

質問などについてはメールでお知らせください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系84

科目ナンバリング		G-LET31 67431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 藤岡 悠一郎			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		環境地理学の概論									
【授業の概要・目的】											
<p>本講義では、植生や景観という観点から人々と環境との関係性を理解する視点を養うことを目的とする。授業の中では、日本国内や世界各地の植生や景観を紹介し、植生や景観形成に作用する自然環境要因や社会要因などを紹介する。また、フィールド実習を行い、野外での観察を通じて同内容の理解を深める。そして、人為が植生に与える影響を理解し、持続的に植物資源や環境を利用することについて考察する。</p>											
【到達目標】											
<p>環境地理学の学問的な背景を理解し、植生や景観の形成メカニズムや持続性について考察することができるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし講義の進みぐあい、時事問題への言及などに対応して順序や同一テーマの回数を変えることがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 環境地理学の背景と視座（2回分）</li> <li>2. 植生のタイプと分布（1回分）</li> <li>3. 日本における植生と景観形成，社会との関わりの事例（2回分）</li> <li>4. フィールド実習（5回分） （ 滋賀県高島市を対象に植生や景観を観察し、景観の形成要因を考える ）</li> <li>5. 海外における植生と景観形成，社会との関わりの事例（3回分） （ アフリカ，シベリア，東南アジアの事例を紹介する。 ）</li> <li>6. まとめと総括：植生と景観形成，人々の生活や社会との相互作用（2回分） フィードバックの方法については授業中に説明する。</li> </ol>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>授業内の小テスト（50点）、レポート（50点）により評価する。レポートは、授業中の説明の理解度と自身の考察の内容を基準に評価する。</p>											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 地理学(特殊講義)(2)

### [教科書]

使用しない  
特になし。授業中に資料を配布する。

### [参考書等]

(参考書)  
水野一晴・藤岡悠一郎編 『朽木谷の自然と社会の変容』(海青社)(授業では本書籍の内容を一部紹介する予定である。)  
授業中に関連文献を紹介する。

### [授業外学修(予習・復習)等]

事前に予習用の資料をアップロードする予定である。復習の方法については、初回の授業中に説明する。

### (その他(オフィスアワー等))

フィールド実習を含むため、新型コロナウイルス感染防止の観点から状況によっては実習を行わず、講義に変更する可能性がある。  
集中講義のため、授業時間外の質問等は下記のメールアドレスまで連絡されたい。  
連絡先：藤岡悠一郎 (E-mail: fujioka@scs.kyushu-u.ac.jp)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系85

科目ナンバリング		G-LET31 67431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 神田 孝治			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		文化と空間から問う近代の観光地									
[授業の概要・目的]											
本授業では、近代の観光地がいかにして形成されたのかについて、具体的な事例を取り上げながら論じる。その際に、人文社会科学において1980年代後半以降注目されてきた、文化論的視座と空間論的視座から検討を行う。											
[到達目標]											
1. 人文社会科学における文化や空間に注目した学術的視座を理解できる。 2. 上記の1を用いて近代の観光地を論理的に考察できる。											
[授業計画と内容]											
1. 授業の概要と導入 / 観光研究の概要 2～5. 文化と空間に注目した観光研究の視座 6～8. 近代リゾートの形成 9～11. 地方都市の観光都市化 12～15. 国立公園の風景地選定  授業の進度に応じて、授業内容と開講回のバランスを調整することがある。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
授業内の小レポート（15点）および期末レポート（85点）で評価する。											
[教科書]											
神田孝治 『観光空間の生産と地理的想像力』（ナカニシヤ出版、2012）ISBN:97978-4779506659（本書の一部を授業内で資料として用います。期末レポート執筆にも参考になりますので、各自購入しておいてください。）											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
授業後に教科書を読んで復習する。  （その他（オフィスアワー等）） オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											



行動文化学系86

科目ナンバリング		G-LET31 67431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 神田 孝治			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		移動から問う現代観光の姿									
[授業の概要・目的]											
本授業では、現代における観光の様相について、具体的な事例を取り上げながら論じる。その際に、人文社会科学において2000年頃から注目されてきた、移動に焦点をあてた視座から検討を行う。											
[到達目標]											
1. 人文社会科学における移動に注目した学術的視座を理解できる。 2. 上記の1を用いて現代の観光を論理的に考察できる。											
[授業計画と内容]											
1. 授業の概要と導入 / 観光研究の概要 2~3. 現代のツーリズム・モビリティーズへの問い 4~9. キーポイントから問う現代のツーリズム・モビリティーズ 10~15. 現代のツーリズム・モビリティーズの諸相  授業の進度に応じて、授業内容と開講回のバランスを調整することがある。											
[履修要件]											
前期に神田が担当する地理学(特殊講義)を受講しておくことが望ましい。											
[成績評価の方法・観点]											
授業内の小レポート(15点)および期末レポート(85点)で評価する。											
[教科書]											
神田孝治・遠藤英樹・高岡文章・鈴木涼太郎・松本健太郎 編 『現代のツーリズム・モビリティーズ 動きゆく観光と観光学』(ナカニシヤ出版、2021年9月発行予定)(授業では原則として教科書を利用しますので、各自購入しておいてください。なお、発行予定日が授業開始に近いこと、ご注意ください。)											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
授業後に教科書を読んで復習する。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

行動文化学系87

科目ナンバリング		G-LET31 67431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 小坂 康之			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		自然生態論									
【授業の概要・目的】											
<p>アジア各地にみられる自然環境の改変、農業の近代化、農村の過疎化などの現象は、日本がこれまでに経験した、あるいは現在まさに直面している課題と共通である。またアジアの自然環境や人々の生活は、グローバルな企業活動や情報・流通網をつうじて、私たちの生活と密接に関係している。そこでアジアの自然環境や農業に関する現象を、日本との比較においてとらえ、その問題点や可能性を多面的に考察する。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・アジアの自然環境や農業に関する諸事象を理解し、自分で問題を設定して研究する力を習得する。</li> <li>・植生や植物（農作物、雑草、野生有用植物）を指標に、地域の自然環境や農業を見る視点を習得する。</li> <li>・文献により重要な概念を学ぶとともに、映像資料や標本をつうじてモノを覚え、フィールドでの観察力を養う。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>以下の項目について、それぞれ1 - 2回ずつ講義や文献輪読を行う。各項目の順序は固定したのではなく、履修者の研究テーマや理解の状況に応じて、適宜調整する。</p> <p>(1) 植物から地域をみる【6 - 7週】 植物の多様性、栽培植物と農耕の起源、大航海時代とプラントハンター、植物民俗、健康を支える植物、外来植物をどう認識するか</p> <p>(2) 農業から地域をみる【5 - 6週】 水田稲作、焼畑耕作、森林と林業、里山の変遷、商品作物とグローバル市場</p> <p>(3) 研究紹介と討論【2 - 4週】 地域の自然環境と農業に関する最近の研究事例を紹介し、関連する先行研究をふまえて討論する。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>レポート試験の成績(70%)と平常点(30%)で評価する。 平常点評価には、授業への参加状況や小レポートの評価を含む。</p>											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

地理学(特殊講義)(2)

**[教科書]**

授業中に指示する

**[参考書等]**

(参考書)

アンナ・レウイントン 『暮らしを支える植物の事典 衣食住・医薬からバイオまで』(八坂書房)  
ISBN:978-4-89694-885-1 (そのほか、毎回の講義で紹介する。)

**[授業外学修(予習・復習)等]**

内容を理解し、履修者自身の研究テーマと関連付けて考察するため、授業中に配布または指示する資料を用いて予習・復習する。

**(その他(オフィスアワー等))**

授業に関する質問は、メールや研究室で対応する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET31 67431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 大山 修一			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		人間と自然の関係性の理解									
【授業の概要・目的】											
この授業では、地理学と強く関連するテーマである人間と自然との関係、人類の日常生活と生活世界、環境や資源の認識と利用、自然への働きかけ、労働と報酬の分配という生態人類学の主要トピックを取り上げる。とくに人類の生産と消費、社会の変容、人間と環境との関係、環境や資源の利用にフォーカスをあて、受講生のみなさんがテーマにそった日本語 / 英語の文献を読んで、内容を紹介するという演習形式で授業を進める。授業担当者よりその内容に関する追加の解説と話題提供をおこない、受講生と議論する予定にしている。											
【到達目標】											
地理学と生態人類学、その周辺分野に関連する文献の読解を通じて知識の習得、人類と資源、環境との関わり、社会の仕組みに関する基本的な見方、社会を分析する見方を身につける。											
【授業計画と内容】											
<p>授業計画と内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 概要説明</li> <li>2. 生態人類学の射程</li> <li>3～4. 核としての周辺</li> <li>5～6. 自然社会の暮らし</li> <li>7～8. 貨幣経済の流入と社会変容</li> <li>9～10. アフリカにおける呪い</li> <li>11～12. 富の分配と経済格差、平等性</li> <li>13～14. 物質循環と環境問題</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>(発表者の選ぶトピックによって、授業内容の順番は変更になる予定。)</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>発表・レポート(60点)、討論への参加(40点)。 出席や発表、議論への参加などで判断する。発表回数は各人1回を予定していますが、受講生が少ない場合には2から3回まわってくることもある。毎回1度は発言をしていただきます。</p>											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 地理学(特殊講義)(2)

### [教科書]

授業中に指示する

### [参考書等]

(参考書)

1、2回目の授業ときに文献リストを提示し、文献紹介の担当と順番を決める。参考書については吉田南と本館の図書館、東南アジア研究所とアフリカ地域研究資料センターの図書室に所蔵されているものを使用します。

### [授業外学修(予習・復習)等]

事前にテキストを読んで関連文献にあたったり、用語の下調べをすること。用語を記憶しようとするよりも、社会の事象や動きを把握し、そのメカニズムを解明しようとするプロセスを表現しようとする研究に従事する楽しさ、学問のおもしろさが分かるようになると良いです。

### (その他(オフィスアワー等))

川端通り沿いの稲盛記念館3階314室に研究室があります。空ぶりをしないよう、事前にメールすること。授業後にお話をするのも歓迎です。

oyama.shuichi.3r@kyoto-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET31 67431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 杉浦 和子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		Humboldt, Ritter and Richthofen in the history of geography									
【授業の概要・目的】											
<p>This lecture introduces the history of geography from the late 18th century to the beginning of 20th century, when geography was founded as a scientific discipline. The following three German geographers are explained: Alexander von Humboldt, Carl Ritter, and Ferdimand Freiherr von Richthofen. Humboldt and Ritter are considered the founders of modern geography, and Richthofen succeeded them. By explaining how their scientific methodology, regional study, and interests in Asia, which are common elements among the three geographers, the close relationship of geographical researches with the political and social conditions in Europe is expected to be more deeply understood.</p> <p>This lecture aims to enhance students' understanding the modern history of geography through reading various materials such as journey diaries, field notes, maps, collected materials, and so on.</p>											
【到達目標】											
<p>At the end of the course, participants are expected to learn following three points: (1) reading comprehension of materials. (2) assessment of research achievements based on the background of the times. (3) understanding the ancestors' creativity that is still suggesting research frontier even today.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>The lecture plan is as follows:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) Introduction: Scientific activity centers in Europe from the 16th to 19th centuries (1 week)</li> <li>(2) Three geographers in the 19th-century Berlin: Humboldt, Ritter, and Richthofen (1 week)</li> <li>(3) Two expedition by Humboldt: South America and Russia (5 weeks)</li> <li>(4) Humboldt and Ritter: their relation to Humboldt University of Berlin (2 weeks)</li> <li>(5) Richthofen's scientific concern to China and Japan (4 weeks)</li> <li>(6) Asian study and its significance during the 19th century (1 week)</li> <li>(7) Foundation of modern geography (1 week)</li> </ol>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
The final grade will be evaluated according to the following process: usual performance (40 %) and reports (60%).											
----- 地理学(特殊講義) (2)へ続く -----											

地理学(特殊講義) (2)

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

When extra learning outside the class is necessary, it will be announced in the class.

**(その他(オフィスアワー等))**

From noon to 13:00 pm on Wednesdays and Fridays

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET31 77441 SJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(演習) Geography (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		地球環境学舎 教授 山村 亜希			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『信長公記』の地理を読む・歩く									
[授業の概要・目的]											
<p>歴史地理学は過去を対象とする地理学である。その方法の一つに、歴史資料（文献史料・地図資料・考古資料・伝承等）を地図化するというものがある。歴史資料を地理情報に変換して地図化することは、資料の解釈や評価の可能性を大きく広げること役立つ。さらに、歴史資料を地図の中に位置づけると、資料に描かれた地域が、単なる舞台としての役割以上を持っていたことに気づくだろう。歴史地理学では、地域環境や景観を叙述した歴史資料（テキスト）を歴史的文脈の中で正確に読み（講読）、その中の地理情報を地図化する（復原図の作成）。また、その後の地域構造の展開を把握した上で（新旧地形図の読図）、現地を詳細に歩き、景観を観察して（巡検）、歴史資料と現在の地域構造の関連を考える。本演習は、これらの視点と方法を身につけることを目的とする。</p> <p>講読対象とするテキストは、織田信長の同時代の伝記である『信長公記』である。『信長公記』には、信長の出身地である尾張はもちろん、信長の転戦した畿内、越前、美濃、近江、播磨等についての戦国末期の景観が描出されている。このテキストに叙述された情報を、地図に照らして「見える」化すれば、織田信長の軍事行動、戦略、家臣団の構造、戦国末期の合戦の展開、村落や都市と戦国大名との関連、城下町建設・経営の具体像、戦国末期の自然環境などについて、新たな発見ができる。『信長公記』は比較的読みやすく、現代語訳本もあり、講読の参考になる。</p> <p>受講生はテキストを分担して、TAと相談しながら、講読、復原図の作成、読図を行い、その成果をレジュメとしてまとめて発表する。それについて全員で討論を行う。また、『信長公記』に登場する近辺の城郭等について巡検を行う予定であり、地形図編集を含めたレジュメ作成と発表も受講生が担当する。よって、受講生は講読か巡検のいずれかは必ず担当することになる。担当しなくても、毎回の授業では意見や感想を求める。巡検に参加するだけの安易な気持ちで受講すると、負担を重く感じるだろう。</p>											
[到達目標]											
<p>歴史地理学の視角を理解し、文献講読、景観復原図の作成、地形図の読図、巡検といった、基本的な方法を実践できるようになる。また、これらの実践を通じて、地理学的想像力・発想力を身につける。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>予定は変更する可能性もある。          巡検は日曜・祝日に実施し、日程は授業中に提示する。          いずれか1回は参加し、巡検レポートを提出すること。</p> <p>第1回 概要説明、授業方法や課題について          第2回 『信長公記』の講読例（TAの発表 討論・読図）          第3回 『信長公記』における歴史空間（池田城・城下町）の巡検準備例（TAの発表 討論・読図）          、分担・発表順の相談と決定          第4回 摂津池田の巡検          第5回 池田巡検の総括、討論・フィードバック</p>											
----- 地理学(演習)(2)へ続く -----											



## 地理学(演習)(2)

- 第6～12回 『信長公記』の講読発表・討論  
第13回 播磨三木城・城下町について発表・討論・読図  
第14回 播磨三木の巡検  
第15回 総括・フィードバック

### 【履修要件】

山村担当の全学共通科目（人文地理学・地域地理学・地域地理学各論 日本・地域地理学各論 欧米・地理学基礎ゼミナール 読図・ILASセミナー歴史地理学）か専門科目（地理学特殊講義）を受講したことがあり、歴史地理学の発想と読図の基本が理解できていること。単位不要で聴講・参加したい人は個別に相談してください。

### 【成績評価の方法・観点】

期末レポート30%  
平常点（毎週の授業感想の提出、担当回の発表・レジュメ作成、巡検レポートの提出）70%

### 【教科書】

授業中に指示する

### 【参考書等】

（参考書）  
授業中に紹介する

### 【授業外学修（予習・復習）等】

授業の発表・討論等から得られたこと、感想を毎回提出することが、予習・復習となる。必ず1回は、巡検レジュメの作成・発表か『信長公記』の講読レジュメ作成・発表があたる。巡検レジュメの作成者は、実際の巡検の時に案内も行う。

### （その他（オフィスアワー等））

巡検の機会は複数提示する。授業の一環なので、受講生は日程を事前に確保し参加してほしい。ただし、人数制限の観点から、人数が多い場合は、前半・後半にコースを分けたり、参加回を振り分けざるを得ず、必ずしも希望する巡検に参加できない可能性もある。巡検に係る交通費・入館料等は自己負担である。現地では、交通安全に十分気をつけることはもちろんだが、念のため、生協の学生総合共済等の各自が加入している保険の情報を確認しておくこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系91

科目ナンバリング		G-LET31 7M372 SJ39											
授業科目名 <英訳>		地理学(演習) Geography (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授	杉浦 和子	文学研究科 教授	水野 一晴	文学研究科 教授	米家 泰作
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	水5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語		
題目		地域の諸問題											
【授業の概要・目的】													
院生それぞれが遂行する研究のプロセス（テーマ設定、既往研究のレビュー、史資料収集、調査・分析、考察と意義付け、執筆に至る一連の段階）に沿って報告を行い、互いに議論を重ねることにより、研究を深めることを目指す。													
【到達目標】													
到達目標は以下の3点である：(1)参加する院生の関心に即したテーマについて、それぞれが研究動向を把握し、内外の先行研究を批判的に読み込み、新しい研究課題を的確にとらえるむこと、(2)オリジナリティ豊かな調査研究・分析手法の力量を高めること、(3)明快で論理的な論文の論理構成や図表作成の力量を高め、研究発表や論文執筆を行う力量を身に付けること。													
【授業計画と内容】													
年度初めに1年間の院生の発表スケジュールを決め、それに従って、院生はレジュメを用意して各自の専門のテーマに関する発表を行う。その後、発表に関する討議を行う。なお、院生は1年間に少なくとも2回の発表をする必要がある。各発表では、半年間の研究成果を報告する。それぞれの発表につき院生1名が書記を務め、討議の内容を記録し、演習終了後に口頭で要約し、さらに1週間以内にそれを印刷して、演習出席者全員に配布する。発表者は討議で指摘されたコメントを踏まえて研究を深めたり修正を加えたりすることによって、修士課程の院生の場合は修士論文の作成に、博士課程の院生の場合は学会誌投稿論文のとりまとめに反映させることが求められる。													
第1回 イン트로ダクション 第2～29回 受講生による研究発表と討議 第30回 全体のまとめとフィードバック													
【履修要件】													
特になし													
【成績評価の方法・観点】													
演習への参加と発表に基づく平常点で評価する													
----- 地理学(演習)(2)へ続く -----													

地理学(演習)(2)

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

(参考書)  
なし

**[授業外学修(予習・復習)等]**

発表者は、演習発表のレジユメを準備すること。担当者は、毎回の発表と質疑の記録をとり、参加者に配布すること。

**(その他(オフィスアワー等))**

演習前後の昼休みや休憩時間を中心に、担当教員全員が、随時、対応する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動文化学系92

科目ナンバリング		G-LET31 7M373 SJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(演習) Geography (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 小島 泰雄			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		農村を再考する									
【授業の概要・目的】											
『ルーラルー農村とは何か』(マイケル・ウッズ、20018)を参照しながら、後期近代の社会変化により農村と都市がともに不明確になっている現在、農村とその地理学的アプローチを再考してゆく。											
【到達目標】											
農村地理学の方法を習得する。 現代農村にかかわる理論ー実証ー実践の関係性を理解する。											
【授業計画と内容】											
『ルーラル』の記載内容の理解と日本あるいは中国等における具体的な状況の紹介にかかわる受講生の報告を通して、次の諸点についてそれぞれ1~2回をあててディスカッションを行う。 1. 農村に迫る 2. 農村をイメージする 3. 農村を利用する 4. 農村を消費する 5. 農村を開発する 6. 農村で生きる 7. 農村を演じる 8. 農村を規制する 9. 農村を再構築する											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
主に担当回の報告により評価し(8割)、他報告の討論記録(1割)とディスカッションへの参加度(1割)を評価に加味する。											
【教科書】											
マイケル・ウッズ 『ルーラル：農村とは何か』(農林統計出版) ISBN:978-4897323954											
----- 地理学(演習)(2)へ続く -----											

地理学（演習）(2)

[参考書等]

（参考書）  
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

テキストの指定された部分を読んで、演習に臨むこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。